

兵器保存要領

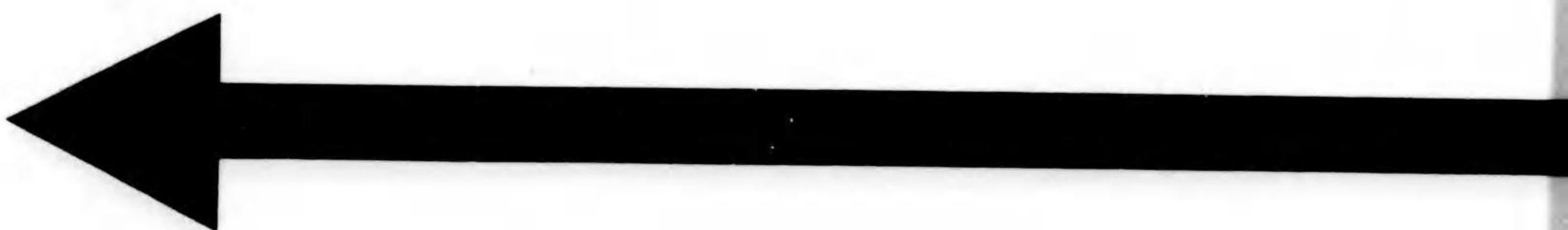
第四類



特



始





第四類馬具

輜重車

大正
3. 8. 5
内交

第四類 馬具、輜重車

二

目次

第一編 馬具 三頁

第二編 輜重車 一一一

第四類 第一編 馬具

三

第四類 第一編 馬具

目次

第一章 通則 一頁

 第一節 手入 一一

 第二節 格納 一六

 第三節 檢査 一八

 第四節 修理 二一

第二章 三十年式乘馬具 二六

 第一節 手入 二六

 第一款 常用品ノ手入 二六

 第二款 貯藏品ノ手入 三一

 第二節 格納 三四

 第三節 檢査 三五

 第四節 分解及結合 三八

 第五節 取扱上ノ注意 四三

 第六節 修理方法ノ概要 四四

第三章 砲兵鞍馬具 四九

 第一節 手入 四九

 第一款 常用品ノ手入 四九

 第二款 貯藏品ノ手入 五二

 第二節 格納 五三

 第三節 檢査 五五

 第四節 分解及結合 五六

目次 五

第五節 取扱上ノ注意 六二

第六節 修理方法ノ概要 六三

第四章 三八式輻重鞍馬具 六七

第一節 手入 六七

第一款 常用品ノ手入 六七

第二款 貯藏品ノ手入 七〇

第二節 格納 七一

第三節 検査 七三

第四節 分解及結合 七五

第五節 取扱上ノ注意 七八

第六節 修理方法ノ概要 七九

第五章 三六式輻重鞍馬具 八〇

第一節 手入 八〇

第二節 格納 八〇

第三節 検査 八一

第四節 分解及結合 八二

第五節 取扱上ノ注意 八三

第六節 修理方法ノ概要 八三

第六章 四一式山砲駄馬具 八三

第一節 手入 八三

第二節 格納 八五

第三節 検査 八六

第四節 分解及結合 八七

第五節 取扱上ノ注意 九三

目次 七

第六節	修理方法ノ概要	九六
第七章	三八式機關銃馱馬具	九八
第一節	手入	九八
第二節	格納	九九
第三節	檢査	九九
第四節	分解及結合	一〇〇
第五節	取扱上ノ注意	一〇一
第六節	修理方法ノ概要	一〇二
第八章	三三式輜重馱馬具	一〇二
第一節	手入	一〇二
第一款	常用品ノ手入	一〇二
第二款	貯藏品ノ手入	一〇四

第二節	格納	一〇四
第三節	檢査	一〇六
第四節	分解及結合	一〇七
第五節	取扱上ノ注意	一〇八
第六節	修理方法ノ概要	一〇八

第四類 馬具、輜重車

第一編 馬具

第一章 通則

第一節 手入

第一條 手入ノ要旨ハ塵埃、汚垢等ヲ拭淨シ又脂油ヲ塗施シ硬化、變質、發黴、發錆、蟲害、鼠害及形狀ノ變歪等ヲ豫防シ以テ保存ヲ確實ナラシムルニ在リ

第二條 手入ニ關スル注意事項左ノ如シ

- 一 革質ハ酸素、濕氣、日光及温熱等ノ作用ニ依リ水分ノ蒸散、含有脂肪ノ分解及變廢、夾雜植物質ノ酸化並黴菌ノ附著等ニ依リ漸

馬具 通則 手入

次不良ニ陥ルモノナルヲ以テ之ヲ豫防スル爲品質良好ナル脂油ヲ適度ニ補給シ且發黴セルトキハ速ニ拭淨スヘシ

二 革具ニ給油スルニハ主トシテ表面ヨリ僅ニ含油セル布片ヲ以テ等齊ニ數次ニ塗施シ其ノ吸收スルヲ待チテ乾布ヲ以テ過剩ノ脂油ヲ拭淨スヘシ但シ常用品ノ馬體若ハ被服ニ觸接スル部位ニ給油スルニハ其ノ反對方側ヨリ塗脂スヘシ又反對方側ヨリ塗脂シ能ハサル部位及特ニ變歪ヲ避クルヲ要スルモノニ在リテハ塗脂ノ量ヲ減少スヘシ

三 革具ノ手入ニハ水ヲ用ウルコトヲ避クヘシ但シ塵埃、泥土及汗等ニ依リテ甚シク汚損セル常用品ハ清水又ハ軟石鹼水ヲ用キ刷毛又ハ布片ヲ以テ徐徐ニ水洗スルコトヲ得此ノ手入ヲ行ヒタルモノ及雨雪等ノ爲多量ノ水分ヲ吸收シタル革具ハ通風良好ナル場所ニ

於テ蔭乾シ其ノ乾カサル前ニ稍多量ニ給油スヘシ

四 寒氣甚シキ季節ニ於テ革具ニ給油スルニハ脂油ノ吸收ヲ良好ナラシムル爲湯煎鍋ヲ以テ脂油ニ適度ノ溫度ヲ與ヘ塗施スヘシ但シ手入後革ノ表面ニ脂油滲出シテ結晶狀ヲ呈スルコトアルモ之ヲ除去スルヲ要セス

五 濕氣多ク且溫暖ナル季節ニ於テハ革具ニ發黴シ易キヲ以テ屢之ヲ拭淨スヘシ又拭淨後僅ニ「ワセリン」ヲ塗施シ發黴ヲ豫防スルヲ要ス

六 革具ノ手入ハ日光ノ直射セサル場所ニ於テ行フヘシ特ニ貯藏革具ニ在リテハ快晴ノ日ヲ選ミ屋蓋下ニ於テ行フヘシ

七 革具縫糸ノ摩損シ易キ部分及腐朽シ易キ部分ニハ防擦及防濕ノ爲白蠟ヲ塗施スルヲ可トス

馬具 通則 手入

八 鐵具 塗料ヲ施シア
ル部分ヲ除クヲ拭淨シタルトキハ直ニ塗油シ其ノ發錆ヲ豫防
スヘシ又塗油ハ全面ニ洽反セシムヘシ

九 麻製品ハ常ニ之ヲ乾燥セシムヘシ

十 格納用礦油ハ湯煎鍋ニテ熔解ノ上用ウヘシ

第三條 革具ニ脂油ヲ塗施スル回數及複合脂ノ配合比ニ關スル注意事項
左ノ如シ

- 一 貯藏革具ハ概毎年一回脂油ヲ塗施スヘシ 製作後一年ヲ經過セサル貯藏
革具ニハ通常給油スルヲ要セ
サルモ
ノトス但シ過度ニ乾燥スル倉庫ニ格納セルモノハ給油ノ回數及牛
脂ノ配合比ヲ増加スヘシ
- 二 貯藏革具中脂油ノ浸透充分ナラサルモノニハ鯨油ノ配合比ヲ増
加スヘシ
- 三 常用革具ハ其ノ手入ヲ容易ナラシムル爲鯨油ノ配合比ヲ増加シ

且常ニ革具ノ含有脂油量ニ注意シ消耗セル脂油ヲ補フヘシ

第四條 害蟲ハ其ノ幼虫ノ時機ニ於テ之カ撲滅ヲ圖ルヲ要ス又幼虫ヲ發
見スルカ若ハ其ノ棲息ノ徵候ヲ認メタルトキハ虫害ヲ蒙リ易キ墳毛及
毛製品ハ殺虫液ヲ施シ成ルヘク之ヲ密閉若ハ被包シ害蟲ノ寄生シ易キ
麻製品ハ之ヲ拭掃シ且庫内ノ大掃除ヲ行フヘシ

第五條 常用品ノ手入方法ヲ普通手入及精密手入ノ二トス

普通手入トハ日常行フヘキ手入ヲ謂フ

精密手入トハ普通手入ニ依リ汚垢又ハ錆等ヲ除去シ能ハサルトキニ行
フヘキ手入或ハ普通分解セサル部分ニ行フ手入ヲ謂フ

第六條 貯藏品手入ハ數年ニ亘リ一貫セル方針ニ基キ毎年ノ計畫ヲ定ム
ヘシ

第七條 手入用材料概左ノ如シ

馬具 通則 手入

湯煎鍋 複合脂及格納用礦油ヲ熔融スルニ用ウ

噴霧器 殺虫液ノ撒布ニ用ウ

注射器 殺虫液注射ニ用ウ

鐵製差又ハ竹製差 防虫劑挿入ニ用ウ

刷毛、絨布、綿布 塵埃及黴ノ除去等ニ用ウ

第二節 格納

第八條 貯藏品ハ一時的格納ノモノ及永久的格納ノモノ竝新古ヲ區分シ

其ノ手入及取扱等ニ便ナル如クスヘシ

第九條 貯藏品ヲ配列、懸吊又ハ依托スルニハ保存竝負擔量ヲ顧應シ墜落、顛倒、格納品相互ノ損傷又ハ托材ヲ破損スルコトナカラシメ特ニ革條類ヲ懸吊スルニハ遊環革ヲ脱落セサル様注意スヘシ

第十條 貯藏品ニハ覆ヲ施シ庫外ヨリ侵入スル大氣ニ直接曝露セシメス且塵埃ヲ防クヘシ

第十一條 貯藏品ハ倉庫ノ周壁又ハ家根裏ニ近接セシメサルヲ可トス

第十二條 革具ヲ密閉格納スルニハ空氣ノ乾燥セル時季概十月ヨリ翌年ニ三月ニ至ル間於テスヘシ但シ密閉當初ニ於ケル注意周到ナラサレハ不慮ノ發黴、損傷ヲ生スルニ至ルコトアルヲ以テ通常小ナル革條類等ノ格納ニ之ヲ適用スルニ止メ緊要ナル部品ニ對シテハ成ルヘク密閉格納ヲ行フコトナク覆ヲ施シテ塵埃ヲ防キ外氣ノ交感ヲ僅少ナラシメ且通風ニ便ナル位置ニ置クヲ可トス

第十三條 格納倉庫ニ關スル注意事項左ノ如シ

- 一 倉庫内ハ常ニ清潔ナラシメ塵埃及濕氣ノ侵入スルヲ防キ又大氣侵入ノ爲庫内ノ溫度ヲ劇變セシムヘカラス

馬具 通則 格納

二 窓戸ハ平素閉鎖シ又入口モ出入ノ時ノ外閉鎖シ時時乾燥ニシテ塵埃ノ飛揚セサル日ヲ選ミ換氣ヲ行フヲ要ス但シ過度ニ乾燥セル氣候又ハ風強キ日ハ開窓スルコトナク又床下ノ換氣孔ハ通常之ヲ開キ置クモノトス

三 窓戸又ハ壁板等ノ間隙ヨリ侵入スル塵埃、濕氣又ハ鼠ノ竄入等ニ對シテハ防止ノ設備ヲ爲スヘシ

四 窓戸ニハ日覆ヲ用キ日光ノ直射ヲ防止スヘシ

第三節 検査

第十四條 検査ノ要旨ハ手入及取扱等ノ關點、加修ノ時期ヲ前知シ之ニ對スル處理ヲ迅速ニシ以テ保存ヲ確實ナラシムルニ在リ

第十五條 検査ハ之ヲ分チテ常用品検査及貯藏品検査ノ二トシ又常用品

検査ヲ分チテ常用品普通検査、常用品精密検査、貯藏品検査ヲ分チテ貯藏品普通検査、貯藏品精密検査ノ二トス但シ貯藏品ノ數量多キトキハ各種類ニ就キ若干ヲ抽出シテ検査スルコトヲ得

第十六條 常用品普通検査ハ通常普通手入ノ際ニ行フモノニシテ特ニ注意スヘキ事項左ノ如シ

一 革部ノ拭淨及脂油ノ塗施適度ナリヤ特ニ革條類ハ柔軟平滑ナリ
ヤ 脂油適度ナルモノハ之ヲ指大ノ曲度ニ彎曲スルモ龜裂ヲ生セスシテ稍變色スルモ原形ニ復スレハ革色モ故ニ復スルモノトス又彎曲ヲ試ムルニ當リテハ管孔ノ位置ヲ避シクヘ

二 革部ニ發黴セルモノナキヤ

三 虫害若ハ鼠害ヲ蒙レルモノナキヤ

四 金屬部ノ拭淨及塗油適當ナリヤ又發錆セルモノナキヤ

五 各部ニ變歪、破損ナキヤ又塗料ノ剝脫セルモノナキヤ

馬具 通則 検査

六 結合及修理ノ方法適當ナリヤ

七 部品ニ不足ナキヤ

第十七條 常用品精密検査ハ通常精密手入ノ際若ハ毎年定期ニ於テ各部ヲ分解シ前條ニ準シ詳細ニ検査スルモノトス

第十八條 貯藏品普通検査ハ概毎月一回普通手入ノ際ニ於テ第十六條ニ準シ特ニ同條第一號乃至第三號ニ注意シ検査スルモノトス

第十九條 貯藏品精密検査ハ概毎年雨期後ニ於テ一回其ノ他適當ノ時機ニ於テ一回各部ヲ分解シテ第十六條ニ準シ詳細ニ検査スルノ外左ノ事項ヲ檢スルモノトス

一 脂油効力ノ有無

二 格納方法ノ適否

第四節 修理

第二十條 修理ハ小破損ノ間ニ之ヲ實施シ修理品ノ状態ニ應シ實用上支障ナカラシムヘシ又修理シタルモノハ必ス之ヲ検査スヘシ

第二十一條 革部ノ汚損甚シキトキハ修理著手前清水又ハ石鹼水ヲ以テ拭淨シ縫綴部硬トキハ目打ノ爲破損シ易キヲ以テ脂油又ハ水ヲ以テ其ノ局部ヲ柔軟ナラシムヘシ又修理ヲ終リタル革具ハ之ヲ手入スヘシ

第二十二條 修理ノ爲使用スル縫絲ハ新調ノ際使用セル縫絲ト同中徑ノモノヲ用ウヘシ但シ各種革「ミシン」絲ナキトキハ白玉絲數條ヲ適宜綜合シテ略同中徑ノモノト爲シ使用スヘシ

第二十三條 皮革用縫絲ハ白玉絲、革「ミシン」絲、四番革「ミシン」絲、五番革「ミシン」絲及八番革「ミシン」絲ノ六種トス

● 馬具 通則 修理

第二十四條 縫糸ハ使用直前軟松瀝及蠟ヲ施スヘシ又縫糸ノ破綻或ハ摩耗セルモノヲ修理スルニハ其縫綴部ノ短キモノハ全絲ヲ交換シ長キモノハ新シキ縫糸ヲ以テ其ノ縫目破損部ノ兩端ニ堅固ナル縫目三ヲ殘シ之ニ沿ヒ縫綴スル如クスルヲ可トス

第二十五條 麻製品ノ染色甚シク褪色セルモノハ染色スルヲ要ス染色ニ關スル注意事項左ノ如シ

- 一 馬糧囊及其ノ他ノ麻製品中革部ヲ有セサルモノノ染換ヲ爲スニハ其ノ全部ヲ染色液ニ浸漬スヘシ
- 二 鞍褥布及板褥布ノ如ク革部ヲ附著シアルモノハ刷毛ヲ以テ染色液ヲ塗抹スヘシ
- 三 染色スヘキモノハ豫メ洗濯石鹼ニテ洗滌シ日乾シ置クヲ要ス但シ褥ハ其ノ填實物ヲ取り出シ洗滌ノ際革部ヲ濡ササルコト及板褥

表革ノ裏面ニ糊著シ在ル副紙ヲ用ウルモノハ之ヲ濡ササルコトニ注意スヘシ

四 染色液ハ檫皮「エキス」一盞「エキス」ノ濃度「ボ」ニ對シ水三升乃至四升ノ割合ニ依リテ調製シ著色ノ際ハ攝氏四十五度ノ温度ヲ有セシムヘシ但シ檫皮「エキス」ニ代フルニ檫皮ノ細末ヲ用ウルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ檫皮末三盞ニ對シ水二斗ノ比ヲ以テ混合液ヲ作り之ヲ鍋ニテ少クモ一時間以上煎出シ荒キ布袋ヲ以テ濾過シテ用ウヘシ

第二十六條 鞍褥ノ填實物凝固トナリ或ハ壓縮セラレ馬背ニ適合セサルトキハ之ヲ修正スヘシ又之ヲ修正スル爲填換ヲ要スルトキハ工長及工卒ヲシテ行ハシムルヲ可トス填毛粗殼ノ填換ハ庫外適宜ノ場所ニ於テ填實物ヲ抽出シ左ノ方法ニ依リ行フヘシ

一 填毛ハ之ヲ攝氏五十度内外ノ温湯一石ニ曹達灰一盃三ヲ入レタル溶液ニ入レ成ルヘク同一温度ヲ保タシメツツ約四十分間浸漬シ之ヲ取り出シテ液ヲ絞除シ清水ニ入レテ絶ヘス熊手等ヲ以テ攪拌シタル後水分ヲ絞除シテ日光乾燥ヲ行ヒ其ノ乾燥後之ニ防虫劑ヲ施シ褥ニ填實スヘシ又洗滌及乾燥後ハ毛量減耗スルヲ以テ新ニ鹿毛ヲ補充スルヲ要ス

二 粗穀ハ其ノ粉末ヲ除去シ約一時三十分間攝氏約五十度ノ温度ニテ煮沸シ時時之ヲ攪拌シタル後之ヲ取り出シ清水ニテ洗滌シ其ノ乾燥後前號ニ準シ之ヲ褥ニ填實スヘシ

第二十七條 革具ノ延伸シタルモノ又ハ使用者若ハ馬ノ體格ニ不適合ナル爲穿孔數ノ増加ヲ要スルモノハ簪鑲ノ簪ヲ通スル圓孔ニ限り保管者兵器取扱規ハ左ノ各號ニ依リ穿孔ノ増加ヲ實施セシムルコトヲ得但シ成則附表第二

ルヘク多クノ穿孔ヲ爲ササルヲ要ス

- 一 穿孔ノ實施ハ兵器委員監視ノ下ニ行ハシムヘシ
- 二 穿孔ヲ行フニハ鳩目抜ヲ以テスヘシ
- 三 穿孔ハ他ノ孔ト同徑ニシテ同距離ニ於テスヘシ
- 四 縫著部若ハ簪鑲縫接部ニ接シテ穿孔スヘカラス
- 五 縫絲ノ位置ニ穿孔スヘカラス
- 六 穿孔一個ヲ有スルモノニ尙穿孔ヲ増加スル場合ニ在リテハ革幅十密米以下ノモノハ五密米ノ距離ニ、革幅十乃至二十密米ノモノハ八密米ノ距離ニ革幅二十密以上ノモノハ十密米ノ距離ニ於テスヘシ

七 革ノ甚シク延伸シタル場合ニ在リテハ全長ヲ制式寸度ニ合スル如ク縫著部若ハ簪鑲縫接部ニ於テ修正スヘシ

第二章 三十年式乘馬具

二六

第一節 手入

第一款 常用品ノ手入

第二十八條 普通手入ヲ分チテ日常使用後行フ手入及毎月一回行フ手入トス

第二十九條 日常使用後行フ手入左ノ如シ

- 一 革具ハ塵埃ヲ除去シ又馬體ニ觸接スルモノハ污垢ヲ拭淨シ要スレハ固ク絞リタル布片ヲ以テ拭淨シ僅ニ含油セル布片ヲ以テ摩擦スヘシ
- 二 鐙、銜等ノ研磨セル鐵具ハ磨粉又ハ藁等ヲ以テ磨キ含油布片ヲ以テ拭フヘシ

三 鍍錫及塗漆セル鐵部ハ布片ヲ以テ拭淨スヘシ

四 鞍褥、腹帶及鞍下毛布ノ汗ノ爲甚シク濕潤シタルトキハ使用後日乾シタル後其ノ塵埃ヲ除去スヘシ但シ夏季ニ於テハ鞍ハ陰乾シ又麥袋及水囊ニ泥土附著シタルトキハ使用後水洗シテ日乾スヘシ

五 雨雪ヲ蒙リ濕潤シタル革具ハ布片ヲ以テ之ヲ拭淨シ空氣ノ流通良キ場所ニ陰乾シ其ノ乾燥スル前ニ給油シ之ヲ吸收セシメタル後乾キタル布片ヲ以テ拭淨スヘシ

第三十條 毎月一回行フ手入左ノ如シ

- 一 鞆革ハ主トシテ裏面ヨリ給油シ其ノ表面及騎坐革ハ僅ニ脂油ヲ含マシメタル布片ヲ以テ摩擦シ表皮ノ乾固及剝離ヲ防クヲ度トスヘシ

馬具 三十年式乘馬具 手入

二七

- 二 腹帶托革ハ表裏兩面ヨリ脂油ヲ施スヘシ
- 三 鞍褥ハ之ヲ日乾シ輕打シテ塵埃及汚垢ヲ除去スヘシ但シ日乾スルトキハ其ノ革部ニ給油シ又夏季ニ於テハ通風良好ナル位置ニ於テ陰乾スヘシ
- 四 頭絡、韁、鍔革、縛囊革條及縛具革條ハ表裏兩面ヨリ給油スヘシ但シ頭絡ハ分解手入ヲ行フヲ要ス
- 五 鞍囊ハ其ノ裏面ヲ拭淨シ側革ニハ他ノ部分ヨリ稍多量ニ給油スヘシ
- 六 腹帶ハ之ヲ風乾シ刷毛ヲ以テ泥土及汚垢ヲ除去シ乾燥後ハ手ヲ以テ揉ミ之ヲ柔軟ナラシムヘシ
- 七 鞍下毛布ハ之ヲ日乾シテ輕打シ塵埃ヲ除去スヘシ
- 八 旅囊、馬糧囊、野繫頭絡、野繫韁、蹄鐵囊、麥袋及水囊ハ之ヲ

日乾シ要スレハ塵拂又ハ刷毛ヲ以テ塵埃ヲ除去スヘシ

- 九 鍔、大勒銜及小勒銜ハ布片又ハ藁ヲ以テ塵埃、汚垢ヲ去リ發錆セ
ルトキハ布片要スレハ之ニ
磨粉ヲ附スヲ卷キタル軟木片ヲ以テ輕磨シ錆ヲ除去
シ給油スヘシ

- 十 野繫銜ハ布片ヲ以テ塵埃、汚垢ヲ除去スヘシ但シ鍔錫剝脫シ發
錆セルモノハ前號ニ準シ之ヲ除去シ給油スヘシ

第三十一條 精密手入ハ每年少クモ二回通常雨期後及
秋季演習後行フモノニシテ各部
ヲ分解シ概普通手入ニ準スルノ外左ノ各號ニ依ルヘシ

- 一 革具中使用瀕繁ニシテ特ニ汗、汚垢等ニ因リ甚シク不潔トナリ
タルモノハ刷毛ニ軟石鹼水ヲ含マシメ之ヲ洗滌シタル後含水布片
ヲ以テ拭淨シ之ヲ陰乾スヘシ

其ノ他ノ革具ハ適度ノ含濕布片ヲ以テ摩擦拭シ革面ヲ拭淨シ乾燥ス

ルニ先チ脂油ヲ等齊ニ塗布シ之ヲ充分滲入セシメ乾キタル布片ヲ以テ摩擦シ剩餘ノ脂油ヲ拭除スヘシ但シ金屬ノ摩擦ニ依リ黑色汚垢ノ附著セルモノ及縫綴部ノ汚垢ハ丁寧ニ拭淨スルコトニ注意スルヲ要ス

二 鞍褥ノ裏布ハ僅ニ濕潤シタル刷毛ヲ以テ汚垢ヲ拭淨シ之ヲ日乾シ鞍褥一背ニ對シ粉末「ナフタリン」約十匁ヲ填毛口ヨリ挿入スヘシ但シ褥毛ニ蟲害ヲ受ケタルトキハ之ヲ探リ出シ第二十六條ニ準シ洗滌スヘシ

三 腹帶ニ汚垢ノ附著甚シキトキハ水洗シ之ヲ牽引シタル儘風乾シ乾燥後揉ムヘシ

四 鞍下毛布ハ通常毎年一回石鹼水ニテ洗滌シ更ニ清水ヲ以テ洗ヒ日乾シテ之ヲ揉ムヘシ

五 旅囊及麥袋ニ汚垢ノ附著甚シキトキハ洗滌シタル後日乾スヘシ

六 旅囊、鞍褥ノ裏布、野繫頭絡、韁及腹帶等ノ著シク褪色シタルモノヲ染色スルニハ第二十五條ニ準シテ之ヲ行フヘシ

第二款 貯藏品ノ手入

第三十二條 貯藏品手入ハ毎年概一回左ノ各號ニ依リ之ヲ行フヘシ但シ革部ニ對シテハ塵埃又ハ黴ヲ拭淨スル爲手入ノ回數ヲ増加スヘシ

一 鞍ハ其ノ鞍褥ヲ脱シ刷毛ヲ以テ刷毛ノ達セサル部分ハ布片又ハ雑巾ヲ以テ拭淨シタル後布片ヲ以テ表面ヨリ平等ニ給油スヘシ但シ騎坐革及韉革ハ革質ヲ過度ニ柔軟ナラシメサル爲僅ニ給油シ腹帶托革ニハ稍多ク給油シ騎坐ノ填毛ニハ鞍張縱橫帶ノ間隙ヨリ殺蟲液ヲ注入スヘシ

- 二 鞍褥ハ塵埃ヲ拭淨シ前號ニ準シ革ノ表面ニ給油シ其ノ填毛口ヨリ鐵製差又ハ竹製差ヲ用キテ鞍褥一背ニ對シ約十匁ノ粉末「ナフタリン」ヲ填毛内ニ深ク挿入スヘシ又鞍褥ヲ日乾スルトキハ革部ニハ充分ニ給油シ褥布ヲ上面ニシ乾燥後籐笞ヲ以テ輕打スヘシ
- 三 頭絡ハ分解シテ塵埃ヲ拭淨シ給油スヘシ
- 四 大勒韁、小勒韁、鐙革、縛具革條及縛囊革條ハ塵埃ヲ拭淨シ含油布片ヲ以テ給油スヘシ但シ韁及鐙革ハ稍充分ニ給油スルヲ要ス
- 五 鞍囊ハ塵埃ヲ拭淨シ表面ヨリ給油スヘシ
- 六 鞍下毛布ハ乾燥期ニ於テ一枚毎ニ之ヲ點檢シ概ニ二枚毎ニ「ナフタリン」約八匁ヲ各隅角部ニ交互ニ置キテ格納スヘシ但シ密閉格納スルモノニ在リテハ殺菌劑ヲ加ヘタル糊ヲ以テ目貼シ要スレハ

日乾シタル後殺蟲液ヲ撒布スヘシ

- 七 腹帶ハ革部ニ塗油シ麻布ハ塵拂ヲ以テ塵埃ヲ除去シ通風良キ場所ニ於テ乾燥スヘシ
 - 八 旅囊、馬糧囊、麥袋、水囊、蹄鐵囊、蹄鐵釘囊、野繫頭絡及韁ハ塵拂又ハ刷毛ヲ以テ塵埃ヲ除去シ要スレハ之ヲ日乾スヘシ
 - 九 大勒銜、小勒銜、鐙、轡鎖及鉤ハ舊油ヲ拭淨シタル後新ニ格納用礦油ヲ塗施スヘシ
 - 十 野繫銜ハ要スレハ石油ヲ含マシメタル布片ヲ以テ鏽ヲ除去シタル後之ヲ拭淨シ鍍錫ノ剝脫甚シキトキハ鍍錫ヲ爲スヘシ
- 第三十三條 格納後甚シク年月ヲ經サルモノニ對スル給油量ハ通常乘馬具一背ニ對シ概七十五流動油ナレトスハ約四匁トス

第二節 格納

第三十四條 格納ノ方法概左ノ如シ

- 一 鞍ハ鞍褥ヲ装シタル儘重疊スルコトナク鞍架ニ托スヘシ又鞍褥ヲ脱スルトキハ他ノ鞍ノモノト混淆セサルコトニ注意スヘシ
- 二 鞍囊ハ鞍ヨリ脱シ二箇乃至三箇宛重疊シテ棚上ニ置キ又ハ架上ニ托スヘシ
- 三 頭絡ハ結合セル儘五箇又ハ十箇ヲ結束シテ懸吊スヘシ
- 四 韁、腹帶鞍轡部ヲ結束シ置クヲ可トス、旅囊及胸具ハ五箇又ハ十箇ヲ結束シテ懸吊スヘシ
- 五 燈革、水囊、麥袋、馬糧囊、野繫頭絡、野繫韁、胸具鈞革及引繩ハ十箇又ハ二十箇ヲ結束シテ懸吊スヘシ

六 縛囊革條及縛具革條ハ二十箇又ハ三十箇ヲ結束シテ懸吊シ又ハ箱内ニ格納スヘシ

七 大勒銜、小勒銜、燈、轡鎖及鈞ハ防錆用脂油ヲ塗施シテ箱内ニ格納シ又ハ棚上ニ陳列スヘシ

八 野繫銜、蹄鐵囊及蹄鐵釘囊ハ之ヲ箱内ニ格納シ又ハ懸吊スヘシ
九 鞍下毛布ハ之ニ防蟲劑ヲ施シ箱内ニ密閉格納スヘシ但シ防蟲劑ハ少量ヲ紙包トシテ用ウルヲ可トス

第三節 検査

第三十五條 常用品ニ就テ主トシテ検査スヘキ事項左ノ如シ

- 一 鞍骨特ニ前橋ニ破損ナキヤ騎坐革ト韉革トノ連接部ニ破損ナキヤ騎坐填毛ノ偏移減退ナキヤ鞍囊駐環ノ脱落ナキヤ
- 馬具 三十年式乘馬具 検査

- 二 鞍褥ノ填毛不充分ナル爲皺ヲ生シアラサルヤ填毛偏固シテ馬背ニ適合セサルコトナキヤ填毛減退シ或ハ褥虫ノ發生セルコトナキヤ
- 三 頭絡、韁、鍔革及腹帶托革ハ適當ニ柔軟性ヲ保有シアルヤ
- 四 鞍囊ハ變形ナキヤ革質ハ柔軟ナルヤ
- 五 縫糸ノ腐朽、摩耗及破綻セルモノナキヤ
- 六 托革及托鍔ハ破損ナク且正シク固著シ在ルヤ
- 七 大勒銜、小勒銜、鍔及其ノ他鐵具ニ變歪、破損及發錆ナキヤ又轡鎖及鈎ハ完全ナルヤ
- 八 鞍下毛布ハ破綻ナク且乾燥シアルヤ又修理粗雜ナラサルヤ
- 九 布部及麻製品ハ清潔ニシテ乾燥シアルヤ
- 十 各部ノ結合完全ナルヤ

第三十六條

貯藏品ニ就テ主トシテ検査スヘキ事項左ノ如シ

- 一 頭絡、韁、鍔革、縛囊革條、縛具革條及腹帶托革ハ柔軟ナルヤ塗脂適當ナルヤ及發黴セルモノナキヤ
- 二 鞍囊又ハ薄キ革具ニ脂油涸渴セルモノナキヤ
- 三 倉庫狹隘ナル爲重疊又ハ觸接シテ格納セルモノニ在リテハ乘鞍及鞍囊ニ變歪ナキヤ
- 四 鞍下毛布、鞍褥及騎坐ノ填實物ニ蟲ノ排泄物及小孔又ハ害蟲ノ發生セル徵候ナキヤ
- 五 麻製品内外部ニ蟲蝕及變質セルモノナキヤ
- 六 緣革又ハ旅囊ノ緣布等ニ蟲害又ハ鼠害ヲ蒙レルモノナキヤ
- 七 鞍ノ木部ニ反張、乾裂、腐朽、蟲蝕、接合部ノ遊隙、闕損及塗料ノ剝脫セルモノナキヤ

馬具 三十年式乘馬具 検査

八 銜、鍍及轡鎖等ハ發錆セルモノナキヤ其ノ防錆法適當ナルヤ又鍍錫セル野繫銜及簪環類ノ鍍錫剝脫シ非サルヤ
九 手入用脂油ノ品質良好ナルヤ又複合脂油配合比適當ナルヤ

第四節 分解及結合

第三十七條 手入ノ際ニハ必要ナル分解ヲ行フコトヲ得但シ乘鞍及野繫頭絡ノ分解及結合ハ兵器委員又ハ中隊長ノ許可アルニ在ラサレハ行フヘカラス

前項ニ依リ分解及結合ヲ行ヒタルトキハ將校之ヲ検査スヘシ

第三十八條 乘鞍ノ分解及結合ハ左ノ如シ

- 一 乘鞍ヨリ鞍褥ヲ離脫スルニハ鞍褥ヲ上ニシテ鞆革ヲ鞍囊托環ヨリ離脫シタル後鞍褥托革ノ扣著ヲ解キ前橋ヲ前橋室革ヨリ又居木

ヲ鞍尾室革ヨリ離脫スヘシ

- 二 鞍褥ヲ鞍ニ裝著スルニハ離脫ト反對ノ順序ニ之ヲ行フヘシ但シ鞍褥裏布中央ノ填毛シ在ラサル部分ハ皺ヲ生セサル如ク鞍骨ニ接著セシメ鞍褥托革ノ端末ハ鞆革ノ下ニ挿入スルヲ要ス

第三十九條 勒ノ分解及結合左ノ如シ

- 一 勒ヲ分解スルニハ轡鎖ヲ離脫シ左ノ各號ニ依リ之ヲ行フヘシ
- イ 大勒韁及小勒韁ハ其ノ簪環ノ扣著ヲ解キ各其ノ銜ヨリ離脫スヘシ
- ロ 大勒銜ハ前頰革ノ扣著ヲ解キ小勒銜ハ後頰革トノ扣著ヲ解キテ離脫スヘシ
- ハ 咽革ハ其ノ扣著ヲ解キ額革ノ革環及頤革ノ革環ヨリ離脫スヘシ

ニ 鼻革ハ其ノ扣著ヲ解キ頤革及前頰革ノ革環ヨリ離脱スヘシ
ホ 前頰革ハ項革ノ前枝革、後頰革ハ項革ノ後枝革トノ扣著ヲ
解キ、項革ト額革トヲ離脱スヘシ

二 勒ヲ結合スルコハ分解ト反對ノ順序ニ之ヲ行フヘシ但シ鼻革ハ
左方前頰革ノ後方ヨリ其ノ革環及右方前頰革ノ革環ニ通シタル後
頤革ノ革環及半圓形銀ヲ通シテ扣著シ、小勒韁ハ其ノ對扣革ヲ後
頰革扣著部ノ後方ニ於テ小勒銜ノ銀ニ内方ヨリ通シ轡鎖ノ鉤ハ内
方ヨリ大勒銜ノ上端銀ニ鉤スルモノトス

三 豫備野繫韁ヲ裝著シ在ルトキハ勒ノ分解ニ先チ之ヲ頤革ノ半圓
形銀ヨリ離脱スヘシ

四 豫備野繫韁ヲ頤革ニ裝著スルニハ一韁ノ締環ヲ他韁ノ締環及
頤革ノ半圓形銀ニ通シ其ノ締環ニ他韁ノ他端ヲ通シテ之ヲ緊ムヘ

シ

第四十條 鏡及鏡革ヲ離脱スルニハ鏡革ノ扣著ヲ解キ鏡革托銀ヨリ離脱
シ鏡ヲ鏡革ヨリ脱スヘシ又之ヲ裝著スルニハ鏡革ヲ鏡ニ通シテ鞞革ノ
外方ニ於テ下ヨリ鏡革托銀ニ通シテ扣著シ簪銀ヲ鏡革托銀ニ接セシム
ヘシ

第四十一條 腹帶ヲ離脱スルニハ腹帶托革ノ扣著ヲ解キ裝著スルニハ腹
帶托革ニ扣著スヘシ但シ簪銀ハ腹帶托革ニ對シ左右同位置ニ在ル如ク
シ且帶革ハ竝列セシムルヲ要ス

第四十二條 鞍囊ヲ鞍ヨリ離脱スルニハ縛囊革條ヲ解脫シ駐革ヲ鞍囊駐
銀ヨリ離脱スヘシ又之ヲ裝著スルニハ頸上革托革ヲ前方ニシ臺革ノ中
央孔ヲ鞍囊駐銀ニ嵌メ駐革ヲ挿入シ縛囊革條ヲ後方ヨリ後部ノ鞍囊托
銀、縛囊銀革及前部ノ鞍囊托銀ノ順序ニ通シテ簪銀ト扣著スヘシ

第四十三條 旅囊ヲ離脱スルニハ旅囊托革ヲ托環ヨリ脱シ連帶布ノ孔部ヲ托鉤ヨリ離脱スヘシ又之ヲ裝著スルニハ離脱ト反對ノ方法ヲ以テ行フヘシ

第四十四條 水囊ヲ旅囊ヨリ離脱スルニハ水囊締紐ヲ解クヘシ又之ヲ裝著スルニハ其ノ底ヲ外方ニシ締紐ヲ以テ結著スヘシ

第四十五條 野繫勒ヲ分解スルニハ野繫韁ヲ野繫銜ノ環ヨリ離脱シ野繫銜ヲ簪ヨリ離脱シ咽紐ヲ成形セル右頰紐ノ端末ヲ左頰紐ノ締環及頤紐ヨリ離脱シ項紐ノ右締環及右簪環トノ結合ヲ解キ項紐ノ右締環ヨリ離脱シ、左頰紐ハ項紐ノ左締環及左簪環トノ結著ヲ解キ更ニ項紐ノ左締環ヨリ離脱シタル後項紐ヲ額紐ヨリ脱スヘシ又之ヲ結合スルニハ分解ト反對順序ニ行フヘシ

第四十六條 鞍具ヲ鞍ヨリ離脱スルニハ引繩ノ橢圓形環ヲ後橋中央ノ縛

具革條ヨリ離脱シ胸具ヲ鞅革控革托革及胸具鈞革ヨリ解脫シ胸具鈞革ヲ胸具托環ヨリ離脱スヘシ但シ引繩ヲ離脱スルニハ其ノ卷束ヲ解キ胸具ノ三角形環ヨリ離脱スヘシ又裝著ハ離脱ト反對ノ順序ヲ以テ行フヘシ

第五節 取扱上ノ注意

第四十七條 馬具ハ使用前各部結合ノ良否及闕損ノ有無ヲ點檢スヘシ

第四十八條 常用品使用後之ヲ鞍掛ニ托スルトキニハ馬具一背毎ニ其ノ附隨品ヲ纏メ置キ革條類ノ長キモノハ之ヲ伸シテ懸吊スヘシ

第四十九條 鞍ヲ床上ニ置クトキハ徐徐ニ之ヲ取扱ヒ前橋ヲ下方ニシ轉倒セサル如ク注意スヘシ鞍骨ノ折損ハ多ク其ノ取扱ノ粗漏ニ起因スルモノトス

第五十條 野外ニ宿營スルトキニ於テモ馬具ハ成ルヘク掩蔽下ニ置キ特

馬具 三十年式乘馬具 取扱上ノ注意

ニ鞍ハ梁材若ハ藁莖上ニ、長キ革具ハ懸吊又ハ平置シ鞍下毛布ハ泥土、塵埃ノ附著セサルコトニ注意スヘシ

第五十一條 常用鞍下毛布ハ常ニ同一面ヲ馬背ニ接スルコトナク又其ノ折目ヲ時時變換スルヲ可トス

第五十二條 鞍囊及旅囊ニ物品ヲ填實スルトキハ成ルヘク左右ノ重量ヲ等クシ且一局部ヲ膨起セシムルコトナカラシムヘシ

第五十三條 鐙革、腹帶及其ノ他革條類ノ延伸シタルモノハ速ニ修理シ決シテ之ヲ卷キテ使用スヘカラス

第六節 修理方法ノ概要

第五十四條 乘鞍ノ修理方法左ノ如シ

一 騎坐革ト鞆革トノ接際ニ於ケル縫絲部ノ大ナル破綻又ハ革ノ破

損セルモノハ鞍囊駐環ヲ脱シ鞍張橫帶ヨリ腹帶托革ヲ解キ前橋居

木及後橋ノ釘著竝鞍被駐螺ヲ脱シ鞍被ヲ鞍骨ヨリ分離シ舊縫絲ヲ

解キ新ニ四番絲ヲ以テ縫著シ革部ニ破損在ルトキハ鞆革連接革及騎坐革トノ縫著ヲ解キ當テ革ヲ鞆革ニ縫著シ其ノ端ヲ挿入シタル後四番絲ニテ縫著シ各革部ヲ鞍骨ニ釘著シ鞍張橫帶ニ腹帶托革ヲ六番絲ニ

テ縫著シ鞍被駐螺及鞍囊駐環ヲ裝置スヘシ附圖 第一圖

二 居木後端中旅囊托鈎ヨリモ外側ニ於テ折損シタルモノハ繼キ木

ヲ爲シ薄麻布ヲ生漆ニ姫糊ヲ加ヘタルモノヲ以テ貼付クヘシ附圖 第二圖

三 騎坐ノ凹陷變歪シタルモノハ鞍囊駐環ヲ脱シ前橋ニ於ケル騎坐

革及包革竝壓毛革ノ釘著ヲ脱シ鞍張縱帶ヲ緊張シ要スレハ填毛ヲ

補填又ハ修正シタル後壓毛革、騎坐革及包革ヲ前橋ニ釘著シ鞍囊

駐環ヲ裝著スヘシ

四 腹帶托革ノ裂損シタルモノハ舊托革ヲ除去シ良質ノ托革ヲ六番
絲ニテ縫著スヘシ

五 鞍骨金具ノ黒焼漆剝落セルモノハ磨粉又ハ細目ノ磨研布ヲ以テ
之ヲ拭除シタル後「黒ニス」又ハ「ブラツクアスファルト」ヲ塗ルヘ
シ

第五十五條 鞍褥ノ修理方法左ノ如シ

一 裏布ノ破損シタルモノハ内側ヨリ同質ノ布片ヲ當テテ革「ミシ
ン」絲ヲ以テ縫著スヘシ附圖
第三圖

二 尾端ノ縁革ノ破損シタルモノハ其ノ破損セル局部ヲ除去シ小革
片ヲ舊縁革ニ約二十耗重複スル如ク當テ四番絲ヲ以テ縫著スヘシ

附圖
第四圖

三 填毛ノ減耗又ハ偏倚セルモノハ填毛全部ヲ採出シ之ヲ日乾シ鹿

毛ヲ補足シテ填毛スヘシ但シ輕度ノ減耗又ハ偏倚ハ填毛ヲ出スコ
トナク鹿毛ヲ補足シテ修正スヘシ

第五十六條 韁ノ對扣革ニ近キ部分ノ嚙ミ疵又ハ破損ハ其ノ破損部ヲ截
斷シ四番絲ニテ對扣革ニ縫著スヘシ但シ韁ノ全長之カ爲ニ不足スルト
キハ手元部ニ於テ新ニ繼キ足シ四番絲ヲ以テ之ヲ縫著スヘシ

第五十七條 項革中前後枝革ノ裂損セルモノハ其ノ裂損部ヲ截斷シ新ニ
一體ヲ成セル前後枝革ヲ四番絲ヲ以テ縫著スヘシ附圖
第五圖

第五十八條 腹帶中縱絲ノ摩損セルモノハ其ノ二本若ハ三本迄ハ之ヲ橫
編絲ニ接シテ切斷シ置クヘシ但シ橫編絲ノ摩損セルモノハ舊絲ヲ解キ
更ニ編ムヘシ

第五十九條 鍔革ノ破損セルモノハ之ヲ交換スルヲ要ス但シ已ムヲ得ス
一時修理スル場合ハ鍔ニ接スル屈折部ヨリ約百耗附近ニ於テ截斷シ良

馬具 三十年式乘馬具 修理方法ノ概要

質ノ革ヲ繼キ六番絲ヲ以テ縫著スヘシ

第六十條 鞍囊ノ修理方法左ノ如シ

一 緣革ノ破損セルモノハ第五十五條鞍褥尾端緣革ノ修理ニ準シ其ノ局部ノミヲ修理スヘシ

二 蓋革ト蓋側革ノ隅角部ノ破損セルモノハ縫絲ヲ解キ局部ニ「當テ革」ヲ爲シ四番絲ニテ縫著シ其ノ「當テ革」ノ端ヲ連接革ノ間ニ挿入シ更ニ故ノ如ク四番絲ヲ以テ縫著スヘシ

三 蓋革ト體トノ縫著部ノ破綻セルモノハ舊絲全部ヲ解キ新ニ四番絲ヲ以テ縫著スヘシ

第六十一條 縛具革條及縛囊革條ノ簪銀附著部縫絲ノ摩耗及屈接部ノ破損セルモノハ縫絲全部ヲ解キ新ニ四番絲ヲ以テ縫著スヘシ

第六十二條 旅囊緣革ノ破損ハ局部ニ麻帶地ノ小片ヲ當テ革「ミシン」絲

ヲ以テ縫著スヘシ

第六十三條 野繫勒中頭絡及韁ノ破損セルモノ又ハ腐朽セルモノハ其ノ部品ヲ交換スヘシ

麻繩類ハ之ヲ修理スルニ新シキ麻ヲ補足シテ繼キ足シ又ハ綜リ換等ヲ行フヘカラス但シ韁ノ端末切損セルモノニ在リテハ麻質健全ナルトキニ限り繼キ足シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三章 砲兵輓馬具

第一節 手入

第一款 常用品ノ手入

第六十四條 普通手入ハ三十年式乘馬具普通手入ニ關スル規定ニ準スル

馬具

砲兵輓馬具 手入 常用品ノ手入

ノ外概左ノ如シ

五〇

- 一 緩喉革、袴革、頸上革及首革ハ硬化セサル様適度ニ脂油ヲ給スヘシ但シ主トシテ其ノ馬體ニ接觸セサル面ヨリ給油シ其ノ觸接スル面ハ常ニ柔軟且清淨ニシテ污垢ヲ殘存セシムルコトナク要スレハ含濕布片又ハ軟石鹼水ヲ含マシメタル布片ヲ以テ之ヲ拭摩スヘシ
- 二、鞆革及平長革ハ稍多量ニ給油スヘシ
- 三 鞆索ハ日乾シテ塵埃、泥土ヲ除去スヘシ但シ日乾スルトキハ革部ニ給油スヘシ

第六十五條 精密手入ハ前條ニ準スルノ外左ノ各號ニ注意スヘシ

- 一 革具中其ノ使用頻繁ナル爲又ハ汗、污垢等ノ爲甚シク不潔トナリタル緩喉革、袴革及鞆革ノ如キモノハ刷毛ニ軟石鹼水ヲ含マシ

メ之ヲ拭淨シタル後蔭乾シ其ノ他ノ革具ハ固ク絞リタル含濕布片ヲ以テ拭摩シテ其ノ面ヲ拭淨シ特ニ金屬トノ摩擦ノ爲附著セル黑色污垢及縫綴部ノ污垢ヲ叮嚀ニ拭淨シ其ノ乾燥シ終ル前ニ脂油ヲ等齊ニ塗布シ緩喉革ハ裏面ヨリ、平長革及鞆革ノ如キ複合革ハ裏面及側面ヨリ給油シ纖維間ニ滲入セシメタル後乾キタル布片ヲ以テ摩擦シ剩餘ノ脂油ヲ拭除スヘシ

- 二 緩喉革、袴革、頸上革及鞆革中ノ附屬革ニシテ鑲ニ連結シ外方纖維ノ甚シク屈撓シ且充分抗力ニ堪ユルヲ要スルモノハ其ノ部分ニ對シ稍多量ニ給油スヘシ

- 三 鍍錫剝落セル鐵部ニ發錆ノ徵アルモノハ布片又ハ磨研紙ヲ以テ之ヲ除去シ「ワセリン」又ハ機械油ヲ塗ルヘシ

馬具 砲兵鞆馬具 手入 常用品ノ手入

五一

四 鞅索ヲ日乾又ハ風乾スルニ當リテハ之ヲ牽張シ置クヘシ

第二款 貯藏品ノ手入

第六十六條 貯藏品ノ手入ハ概三十年式乘馬具貯藏品手入ニ關スル規定ヲ準用スルノ外左ノ各號ニ注意スヘシ

一 緩喉革、袴革及其ノ他鞅具中馬體ニ膚接スヘキ部品ハ特ニ硬化セシメサルヲ要ス

二 鞅具ニ縫著セル鐵部ノ鍍錫剝落セルモノハ手入後防錆用脂油ヲ施スヘシ

三 索ハ其ノ括環革ニ充分塗油シタル後要スレハ日乾スヘシ

第六十九條 格納後甚シク年月ヲ經サル砲兵鞅馬具ニ對スル給油量ハ通常後馬用ノモノ一駢ニ對シ概二百^{流動油ナレハ}斤_{約一合二勺} 前馬及中馬用ノモ

ノ一駢ニ對シ概百七十^{流動油ナレハ}斤_{約一合} トス

第二節 格納

第六十八條 格納ノ方法ハ三十年式乘馬具格納ニ關スル規定ニ準スルノ外概左ノ如シ

- 一 頸上革及首革ハ五箇又ハ十箇ヲ結束シテ懸吊スヘシ
- 二 緩喉革ハ一箇又ハ二箇毎ニ瓢形環ニ紐ヲ通シテ懸吊スヘシ
- 三 平長革ハ屈曲スルコトナク一箇又ハ二箇ヲ結束シテ懸吊スヘシ
- 四 鞅革ハ二箇又ハ四箇ヲ結束シテ鈎環ヲ上ニシ懸吊スヘシ
- 五 鞅革控革ハ長短ヲ連接シ十箇又ハ二十箇ヲ結束シテ懸吊スヘシ
- 六 袴革ハ革端ノ圓形環ニ紐ヲ通シ二箇又ハ四箇ヲ結束シテ懸吊スヘシ

- 七 鞅革釣革、端革、驢馬鞭及鞅索ハ十箇又ハ二十箇ヲ結束シテ懸吊スヘシ
- 八 袴革釣革、鞅、脛當革、驢馬頭絡、韁及牽韁ハ五箇又ハ十箇ヲ結束シテ懸吊スヘシ
- 九 鞅褥革及束索革條ハ鞅ニ附著シ若ハ十箇又ハ二十箇ヲ結束シテ懸吊シ又ハ箱ニ收容スヘシ
- 十 韁駐環ハ箱ニ收容スヘシ
- 十一 驢馬鞍ハ鞍褥ヲ装シタル儘鞍架ニ托スヘシ
- 十二 擔鉤ハ五箇又ハ十箇ヲ結束シ懸吊シ又ハ箱ニ收容スヘシ
- 十三 驢馬旅囊ハ五箇ヲ結束シテ懸吊シ又ハ結束シテ棚上ニ置クヘシ
- 十四 鞅鎖ハ橢圓形環ヲ通シ十箇又ハ二十箇ヲ結束シテ懸吊シ又ハ

適宜箱ニ收容スヘシ

第三節 検査

第六十九條 常用品ノ検査ハ三十年式乘馬具常用品検査ニ關スル規定ニ準スルノ外主トシテ検査ヘキ事項左ノ如シ

- 一 鞅具ノ結合正シキヤ
- 二 鞅革及鞅索ハ左右同長ニ結合シアルヤ
- 三 緩喉革及袴革ハ左右同高ニ位置シアルヤ
- 四 緩喉革、袴革及頸上革ノ如キ馬體ニ觸接スル革具ハ適當ナル柔軟性ヲ保有シアルヤ
- 五 革條ノ壓扣脱落若ハ破損セルコトナキヤ
- 六 鞅索ハ抗力充分ナリヤ

馬具 砲兵鞅馬具 検査

七 革部ハ縫糸部ニ破綻ナキヤ

第七十條 貯藏品ノ検査ハ三十年式乗馬具貯藏品検査ニ關スル規定ニ準

スルノ外主トシテ検査ヘキ事項左ノ如シ

- 一 鞅具ハ各部ノ柔軟性及給油適度ナルヤ發黴セルモノナキヤ
- 二 鍍錫セル鈎、鎖、簪環及環類ハ鍍錫ノ剝脱シ若ハ發錆セルモノナキヤ又剝脱セルモノハ防錆ノ處置ヲ施シアルヤ

第四節 分解及結合

第七十一條 分解及結合ハ三十年式乗馬具分解及結合ニ關スル規定ニ準スルノ外概左ノ如シ

- 一 服馬鞍ト鞅具トヲ離脱スルニハ鞅ヲ鞅托環ヨリ鞅革控革ヲ其ノ托革ヨリ頸上革後馬ニ在リテハ首革ノ枝革ヲ頸上革托環ヨリ離脱スヘシ

裝著ハ離脱ト反對順序ニ行フヘシ

- 二 服馬鞍、勒、鐙、鐙革、腹帶、鞍囊及野繫勒ノ分解及結合ハ三十年式乗馬具ノ分解及結合ニ關スル規定ニ準スヘシ
- 三 服馬具鞅具ノ分解方法左ノ如シ

- イ 前馬及中馬ノモノハ鞅革釣革ト釣革端革トノ扣著ヲ解キ釣革端革ヲ離脱シ鞅革釣革及束索革條ヲ鞅ヨリ脱シ後馬ノモノハ袴革ト平長革トノ扣著ヲ解キ袴革釣革及袴革端革ヲ袴革ヨリ離脱シ袴革釣革ノ枝革及束索革條ヲ鞅ヨリ離脱シ鞅褥革ノ扣著ヲ解キ之ヲ鞅ヨリ脱スヘシ

- ロ 鞅索ハ其ノ結束ヲ解キ鞅鎖ヲ鞅索ヨリ鞅索ヲ鞅革ヨリ離脱シ鞅革控革ヲ離脱シ鞅革ヲ離脱スヘシ又後馬ノモノニ在リテハ平長革ヲ離脱スヘシ

馬具 砲兵鞅馬具 分解及結合

ハ 頸上革ハ緩喉革ヨリ離脱シタル後、載革ト臺革トニ分解ス
ヘシ又後馬ノモノニ在リテハ首革ヲ頸上革ヨリ離脱シ擔鉤ヲ
首革ヨリ離脱スヘシ

四 服馬具挽具ノ結合方法左ノ如シ

イ 各部具ヲ結合ノ状態ニ整頓シ緩喉革ハ其ノ簪環革ヲ上方ニ
裏面ヲ内方ニシ且後方ニ彎曲シ置キ頸上革ハ其ノ載革ヲ臺革
ニ結合シタル後、臺革對控革ヲ前方ニ其ノ兩端ヲ緩喉革ノ簪
環革ノ端末ニ在ル壓控ニ通シ更ニ簪環ニ控著スヘシ又後馬ノ
モノニ在リテハ首革^{枝革ヲ後方ニス}ニ擔鉤ノ鉤ヲ下方ニシ且之ヲ前方
ニ向ハシムル如ク其ノ上方ノ環ヲ通シ兩端ヲ左方ニ於テ扣著
シ枝革ヲ頸上革ノ革環ニ通シ平長革ノ一端ヲ擔鉤ノ中央ノ環
ニ通シ擔鉤ヲ平長革ノ中央ニ在ラシメ兩端ハ緩喉革ノ橢圓形

環及方形環ヲ通シテ袴革ノ圓形簪環ニ扣著スヘシ

ロ 轆革ハ其ノ鉤環ノ鉤ヲ外方ニシ轉環ノ方ヨリ緩喉革ノ瓢形
環ニ前方ヨリ後方ニ通スヘシ

ハ 轆革控革ハ其ノ長キ方ヲ右方ニ短キ方ヲ左方ニシ提子ヲ以
テ下ヨリ轆革^{後馬ニ在リテハ平長革共}ヲ包擁シ其ノ對控革ヲ緩喉革ノ革環
ヲ通シテ遊動壓控ニ通シテ簪環ニ控著スヘシ

ニ 釣革端革ハ其ノ簪環ヲ外方ニシ轆革ニ控著シ其ノ簪環ニ轆
革釣革ノ兩端ヲ控著スヘシ

ホ 袴革端革ハ其ノ對控革ヲ内方ニシテ袴革ノ圓形簪環ニ控著
シ其ノ革環ニ轆革ヲ通スヘシ

ハ 轆索ハ其ノ括環革ヲ中央ニシ前馬及中馬ノモノニ在リテハ
一端ヲ轆鎖ノ瓢形環ニ入レ他ノ一端ヲ其ノ締環内ニ通シテ轆

鎖ヲ結著シ同方法ヲ以テ他ノ一端ヲ鞅革ノ轉環ニ結著シ後馬ノモノニ在リテハ其ノ兩端ヲ轉環ト瓢形環トニ通シテ之ヲ鞅索ノ中央ニ致シ前方ノ締環ヲ後方ノ締環内ニ通シ更ニ鞅鎖ヲ前方ノ締環内ニ通シ直結節ヲ成形セシムヘシ

ト 鞅褥革ハ其ノ對控革ヲ左方ニシ其ノ中央ヲ束索革條托環ノ下方ニ在ラシムル如ク鞅ニ控著シ束索革條ハ其ノ裏面ヲ上方ニシ前方ヨリ束索革條托環及裏面ノ壓控ニ通シ前馬又ハ中馬ノモノニ在リテハ鞅ノ對控革ヲ後方ヨリ鞅革釣革ノ革環ニ通スヘシ後馬ノモノニ在リテハ袴革釣革ノ對控革ヲ前方ニシテ鞅ノ束索革條托環及鞅ノ壓控ニ通シ鞅ノ簪環ニ控著シ枝革ハ袴革ノ枝革簪環ニ上臂ノ兩端ハ袴革ノ上臂簪環革ニ控著スヘシ

五

驂馬具鞅具ヲ除クノ分解及結合方法左ノ如シ

イ 驂馬鞍、驂馬勒、腹帶及驂馬旅囊ヲ分解スルニ先チ、牽韁ヲ韁駐環ヨリ驂馬韁ヲ頸上革ノ環及驂馬韁托環ヨリ離脱シテ驂馬勒ヲ鞍ヨリ離脱スヘシ但シ此ノ際韁駐環ヲ牽韁托環ヨリ離脱スルヲ便トス

ロ 鞍褥駐革ノ控著ヲ解キ鞍ヨリ鞍褥ヲ脱スヘシ

ハ 牽韁、驂馬韁及驂馬銜ヲ解脱シ驂馬頭絡ハ頰革、咽革、額革及項革ニ分離スヘシ

ニ 驂馬鞍ヨリ腹帶ヲ離脱シ旅囊縛革ヲ解キ水囊及驂馬旅囊ヲ離脱スヘシ

ホ 結合ハ分解ト反對順序ニ行フヘシ

六 驂馬具鞅具ノ分解及結合ハ服馬具鞅具ノ分解及結合ニ準スヘシ

馬具 砲兵鞅馬具 分解及結合

但シ結合スルニ當リ鞅革控革ノ長キ方ヲ左方ニ短キ方ヲ右方ニス
ヘシ

第五節 取扱上ノ注意

第七十一條 三十年式乘馬具取扱上ノ注意ニ關スル規定ニ準スルノ外特

ニ注意スヘキ事項左ノ如シ

一 鞅具ハ使用ノ程度ニ依リ伸長ノ度ヲ異ニスルヲ以テ左右相對ノ
位置ニ在ル鞅革、鞅索及釣革等ハ勉メテ同長ノモノヲ使用スヘ
シ

二 平長革ハ擔鈎ノ位置ヲ時時變更スル爲其ノ兩端ニ在ル穿孔ニ依
リ右又ハ左ニ偏セシムヘシ

三 軟具ハ同一長度ヲ以テ終始使用スルトキハ局部ヲ破損シ易キヲ

以テ時時鞅具ヲ交換シ其ノ長度ヲ變更スヘシ

第六節 修理方法ノ概要

第七十二條 修理方法ハ三十年式乘馬具修理方法ニ關スル規定ニ準スル
ノ外概左ノ如シ

一 頸上革載革縫著部ノ破綻ハ其ノ舊絲ヲ解キ四番絲ニテ縫著スヘ
シ

二 首革中枝革ノ破損ハ新革條ト交換シ擔鈎ニ觸接セル屈折部ノ摩
損ハ摩損部ヨリ稍廣キ革片ヲ外方ヨリ挿ミ當テ四番絲ニテ縫著ス
ヘシ但シ摩損甚シキモノハ全部ヲ交換スヘシ

三 緩喉喉革ニ就テハ左ノ各號ニ依ルヘシ

イ 頸上革控革ノ駐革及瓢形環附著革ノ破損部ハ之ヲ繼キ足ス

馬具 砲兵鞅馬具 修理方法ノ概要

コトナク全部新シキ革帶ト交換シ八番絲ヲ以テ縫著スヘシ

ロ 鞆革控革ノ通スル革環部ニ於ケル縫絲ノ破綻ハ舊絲ヲ解キ

八番絲ニテ縫著スヘシ

ハ 載革ノ銅綴釘部附近ノ切斷ハ銅綴釘及簪環革ヲ除キ破損部

ヨリ約百耗ヲ切斷除去シ新シキ革帶ニ綴ヲ裝シ之ヲ重ネテ其

ノ位置ニ當テ簪環革ヲ裝著シ八番絲ニテ縫著シ新ニ銅綴ヲ施

スヘシ

四 平長革ニ就テハ左ノ各號ニ依ルヘシ

イ 簪孔部ノ損傷ハ簪孔部ノ縫絲ヲ解キ内側ノ革一枚若干長ヲ

除去シ新シキ革帶ヲ當テ八番絲ヲ以テ縫綴スヘシ

ロ 擔鉤ノ爲變曲部ノ甚シク摩損セルモノハ其ノ摩損セル部分

ヲ除去シ前號ニ準シ修理スヘシ

五 鞆革ニ就テハ左ノ各號ニ依ルヘシ

イ 鉤環接際部ノ革部摩損ハ其ノ部ヲ截斷シ鉤環ヨリ約二百耗

ノ位置ヨリ良質ノ革帶二枚ヲ以テ挿ミ繼キヲ行ヒ八番絲ヲ以

テ縫著スヘシ附圖第六

ロ 轉環ノ卷キ革ノ摩損セルモノハ其ノ全部ヲ除去シ新ナル革

片ヲ以テ卷キ換ヘ四番絲ヲ以テ縫著スヘシ

六 鞆革控革中鞆革ヲ鉤スル部分ノ破綻ハ六番絲ヲ以テ縫著スヘシ

七 鞆革釣革端革ノ鞆革トノ觸接部破損セルモノハ全部ヲ新品ト交

換スヘシ

八 鞆對控革ノ托環ニ鉤スル部分ノ破損ハ其ノ部ヲ截斷シ新革帶ヲ

繼キ足シ四番絲ヲ以テ縫著シ尾挿革縫絲ノ摩耗シタルモノハ四番

絲ヲ以テ縫絲ヲ交換スヘシ

馬具 砲兵鞆馬具 修理方法ノ概要

九 袴革圓形鑲ノ接際革部ノ破損ハ破損部ヲ除去シ約百六十耗ノ長革帶ニテ插ミ革ヲ爲シ鞆革ノ修理ニ準シ八番絲ヲ以テ縫著スヘシ

附圖第七圖

十 袴革釣革中枝革ノ切斷ハ新シキ革條ト交換シ六番絲ヲ以テ縫著スヘシ

十一 鞆褥革中二箇ノ小對控革ノ縫絲ノ破綻ハ四番絲ヲ以テ新ニ縫著スヘシ

十二 脛當革中小對控革ノ破損セルモノハ之ヲ交換スヘシ

十三 驂馬韁ノ托鑲ニ通シタル部分ノ摩擦ハ其ノ摩擦セル全長ヲ除去シ新ニ革條ヲ繼キ四番絲ヲ以テ縫著スヘシ

十四 牽韁簪孔部ノ破損ハ裂損部ヨリ截斷シ新ニ革條ヲ繼キ足シ六番絲ヲ以テ縫著スヘシ

十五 驂馬鞭ノ纏絡麻絲ノ破損ハ卷キ直シ要スレハ八番絲ヲ以テ新ニ卷キ換ヘ生漆ヲ塗り乾燥スヘシ

十六 鞆索ノ衰損ヒシモノハ之ヲ交換スヘシ但シ繼キ足シ又ハ綜リ換ニ依ルヘカラス

十七 擔鉤及鞆鎖ノ變歪シタルモノハ其ノ程度ニ依リ之ヲ熱シ又ハ加熱スルコトナク錠打矯正スヘシ但シ變歪ト同時ニ鍛著部ニ罅隙ヲ生シタルモノ又ハ局部ノ摩擦甚シキモノハ其ノ一關節ヲ除去シ之ヲ交換スヘシ

第四章 三八式輜重鞆馬具

第一節 手入

第一款 常用品ノ手入

馬具 三八式輜重鞆馬具 手入

第七十三條 普通手入ハ三十年式乘馬具普通手入ニ關スル規定ニ準スルノ外概左ノ如シ

- 一 板體ハ鐵部及木部ノ塗料ヲ剝脫セシメサルコトニ注意シ布片ヲ以テ拭淨スヘシ
- 二 板褥ハ之ヲ日乾シタル後輕打シテ塵埃及污垢ヲ除去スヘシ但シ日乾前革部ニ給油スルヲ要ス又夏季ニ於テハ通風ノ良キ位置ニ於テ蔭乾スルヲ可トス
- 三 頭絡、韁、轅木托革、轅木受金控革、頸上革、袴革釣革、袴革端革、鞅及束索革條ハ各部ヲ分解シ塵埃ヲ除去シタル後、革ノ兩面ニ平等ニ給油スヘシ
- 四 緩喉革及袴革ハ主トシテ馬體ニ觸接セサル面ヨリ給油シ其ノ觸接スル面ハ柔軟且清潔ナラシムル爲含濕布片又ハ石鹼水ニ濕シタル布片ヲ以テ拭淨シタル後、脂油ヲ塗施スヘシ
- 五 鞅索ハ中央革環ニ塗油シタル後日乾スヘシ
- 六 鞅鎖、鞅鉤及抱索環ハ鍍錫ヲ剝落セシメサルコトニ注意シテ拭淨スヘシ

第七十四條 精密手入ハ前條ニ準スルノ外左ノ各號ニ注意スヘシ

- 一 污垢、塵埃等ノ爲甚シク不潔トナリタル緩喉革及袴革等ハ軟石鹼水ヲ含マシメタル刷毛ヲ以テ之ヲ洗滌シタル後清水ヲ含メル布片ヲ以テ拭淨シ其ノ他ノ革具ハ固ク絞リタル含濕布片ヲ以テ摩擦シテ其ノ面ヲ拭淨シ特ニ金屬トノ摩擦ノ爲附著セル黑色污垢及縫綴部ノ污垢ヲ叮嚀ニ拭淨シ其ノ乾燥シ終ル前ニ脂油ヲ等齊ニ塗布シ緩喉革及袴革ハ裏面又ハ馬體ニ觸レサル面ヨリ給油シ之ヲ吸收セシメタル後乾キタル布片ヲ以テ摩擦シテ剩餘ノ脂油ヲ拭除スヘシ

馬具 三八式輻重鞅馬具 手入

二 緩喉革及袴革ノ附屬革ニシテ鑲又ハ簪鑲ニ連結シテ甚シク屈撓シ且充分抗力ニ堪ユルヲ要スルモノハ其ノ部分ニ對シ稍多量ニ給油スヘシ

三 輓鞍ノ鐵部及木部ノ塗料剝脱セル部分ハ塗料ヲ施スヘシ

四 板褥ノ裏布ハ僅ニ濕潤セシメタル刷毛ヲ以テ污垢ヲ拭淨シ之ヲ

日乾シ一背ニ對シ粉末「ナフタリン」約十匁ヲ填實口ヨリ挿入スヘシ

五 褥毛ニ蟲害ヲ受タルトキハ第二十六條ニ準シ之ヲ取り出シテ洗滌スヘシ

六 鐵部ノ鍍錫剝落部ニ發錆ノ徵アルモノハ布片ヲ以テ拭淨シタル

後、防錆用脂油ヲ塗施スヘシ

第二款 貯藏品ノ手入

第七十五條 貯藏品ノ手入ハ概三十年式乘馬具及砲兵輓馬具ノ貯藏品手入ニ關スル規定ヲ準用スルノ外左ノ各號ニ注意スヘシ

一 緩喉革、袴革及其ノ他ノ輓具中馬體ニ膚接スヘキ部分ハ特ニ硬化セシメサルコトニ注意スヘシ

二 輓鞍ノ鐵部及木部ノ塗料剝落セルモノハ手入後塗料ヲ施スヘシ

三 輓具ニ縫著セル鐵部ノ鍍錫剝落セルモノハ手入後防錆用脂油ヲ施スヘシ

四 鋼韁ニ發錆ノ徵アルトキハ之ニ防錆用脂油ヲ塗布シ置クヘシ

第七十六條 格納後甚シク年月ヲ經サル三八式輻重輓馬具ニ對スル給油量ハ通常一背ニ對シ概八十五瓦^{流動油ナレ}ハ約五勺トス

第二節 格納

馬具 三八式輻重輓馬具 格納

第七十七條 格納ノ方法ハ三十年式乘馬具格納ニ關スル規定ニ準スルノ
外概左ノ如シ

- 一 鞍鞍ハ極體ニ極褥ヲ裝著シタル儘重疊スルコトナク鞍架ニ托ス
ヘシ
- 二 鞍馬頭絡ハ結合シタル儘五箇又ハ十箇ヲ結束懸吊スヘシ
- 三 韁、腹帶、轅木托革、轅木受金控革、頸上革、袴革釣革、鞅及
鞍索ハ五箇又ハ十箇ヲ結束懸吊スヘシ
- 四 緩喉革ハ連鎖ノ端末環ニ紐ヲ通シ二箇又ハ三箇ヲ結束シテ懸吊
スヘシ
- 五 袴革ハ圓形環ニ紐ヲ通シ五箇ヲ結束シテ懸吊スヘシ
- 六 袴革端革及束索革條ハ十箇又ハ二十箇ヲ結束懸吊シ又ハ箱ニ收
容スヘシ

- 七 鞍馬銜ハ箱ニ收容シ又ハ棚上ニ配列スヘシ
- 八 轅木受金ハ五箇又ハ十箇ヲ結束シ又ハ箱ニ收容スヘシ
- 九 小綱ハ蛇口ヲ揃ヘ十箇又ハ二十箇ヲ結束シテ懸吊シ又ハ圓形ニ
結束シテ棚上ニ置クヘシ

第二節 檢 査

第七十八條 常用品ニ就テ主トシテ檢査スヘキ事項左ノ如シ

- 一 鞍鞍ハ穹鐵ノ開大若ハ屈曲セルモノナキヤ、轉筒ノ回轉良好ナ
リヤ
- 二 板袴ハ其ノ裏面馬背ニ適スルヤ又蟲害及破綻ナキヤ
- 三 受金托革ハ延伸若ハ破損セサルヤ
- 四 受金ハ控革托環ノ破損セルモノナキヤ

馬具 三八式輻重鞍馬具 檢査

- 五 鐵部及木部ニ塗料剝落又ハ破損セルモノナキヤ
- 六 鞍下毛布ハ破綻ナキヤ、乾燥シアルヤ、又修理粗雜ナラサルヤ
- 七 鞅索ハ左右同長ニシテ完全ナルヤ
- 八 麻布及麻繩類ニ破綻若ハ破損ナキヤ
- 九 野繫勒ノ結合完全ニシテ破損ナキヤ

第七十九條 貯藏品ノ検査ハ三十年式乘馬具貯藏品検査ニ關スル規定ニ準スルノ外主トシテ檢スヘキ事項左ノ如シ

- 一 鞅具ハ各部ノ柔軟性及給油適度ナリヤ又發黴セルモノナキヤ
- 二 重疊又ハ觸接シテ格納セル革具ハ變歪ヲ生シアラサルヤ
- 三 木部ニ反張、乾裂、腐朽、蟲蝕、破損及塗料ノ剝落ナキヤ又接合部ニ間隙ヲ生セルモノナキヤ
- 四 鍍錫セル鉤、鎖、銜及野繫銜ノ類ハ鍍錫ノ剝脫シ若ハ發錆セル

モノナキヤ又剝脫部ニ對シテ防錆ノ處置ヲ施シアルヤ

第四節 分解及結合

第八十條 手入ノ際所要ノ分解ヲ行フコトヲ得但シ極、極褥及野繫頭絡ノ分解及結合ハ兵器委員又ハ中隊長ノ許可アルニ在ラサレハ行フヘカラス

前項ニ依リ分解及結合ヲ行フタルトキハ將校之ヲ検査スヘシ

第八十一條 分解及結合方法概左ノ如シ

- 一 鞅鞍ト鞅具トヲ離脫スルニハ頸上革及鞅ヲ離脫スヘシ又裝著ハ離脫ト反對ノ順序ヲ以テ行フヘシ
- 二 頭絡ノ分解ハ韁ヲ銜環ヨリ解キ銜ヲ脫シ頰革及咽革ヲ離脫シタル後額革ヲ離脫スヘシ又結合ニ當リテハ頰革ヲシテ左右等齊ナラ馬具 三八式輻重鞅馬具 分解及結合

シムルコトニ注意スヘシ

三 鞅鞍ノ分解及結合ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

イ 鞅鞍ヲ分解スルニハ腹帶ヲ脱シ轅木受金控革及轅木受金ヲ分離シ、轅木托革及小綱ヲ離脱シ居木控革ノ控著ヲ解キ板褥ヲ板體ヨリ離脱スヘシ

ロ 鞅鞍ヲ結合スルニハ居木ノ前方ヲ居木室前革室ニ入レ其ノ後端ヲ居木室後革室ニ入レ控革ヲ控著シ腹帶枝部ノ端末ヲ腹帶托環ノ下内方ヨリ通シ之ヲ前方ヨリ腹帶ノ下方ヲ通シテ結著端末ヲ後方ヨリ引ケトキハ之ヲ解キ得ル如クシ轅木托革ハ其ノ中央ヲ板鐵ノ上部ニ在ル駐桿下ニ在ル如ク之ヲ轉筒上ニ置キ其ノ兩端ヲ力木ノ内方ニ通シ之ニ受金ヲ裝著シ右受金ニ受金控革ヲ控著シ其ノ一端ヲ腹帶ノ革環ニ通シ又小綱ハ之ヲ後板鐵ノ左荷綱掛ニ裝著

スヘシ

四 鞅具ヲ分解スルニハ袴革端革及袴革釣革ヲ袴革ヨリ解脫シ袴革

釣革ト鞅トノ結著ヲ解キ鞅ヨリ束索革條ヲ離脱シ鞅索及頸上革ハ之ヲ緩喉革ヨリ解脫シ頸上革ハ更ニ載革ト臺革トニ分解スヘシ

五 鞅具ヲ結合スルニハ左ノ各號ニ依ルヘシ

イ 緩喉革ハ其ノ簪環ヲ上方ニ裏面ヲ内方ニシ之ヲ後方ニ彎曲シ頸上革ハ其ノ載革ニ斜ニ附著セル枝革ヲ後方ニシ前方トナリタル枝革ヲ臺革ノ革環ニ通スル如ク載革ト臺革トヲ結合シタル後、控革ヲ後方ニシ緩喉革簪環ニ控著スヘシ

ロ 鞅索ハ其ノ鉤ヲ外方ニ在ラシムル如ク緩喉革鍵鎖ニ鉤スヘシ
ハ 袴革ハ其ノ簪環革ヲ上方ニ裏面ヲ内方ニシ前方ニ彎曲シ袴革釣革ハ其ノ斜ニ附著セル枝革ヲ後方ニシ鞅連綴革ヲ以テ鞅

馬具 三八式轡重鞅馬具 分解及結合 取扱上ノ注意 七七

ニ結著シタル後之ヲ袴革ノ簷銀革ニ控著スヘシ

ニ袴革端革ハ袴革ノ圓形銀ニ外方ヨリ内方ニ通シ裏面ノ壓控

ニ通シ簷銀ニ控スヘシ

ホ 束索革條ハ其ノ裏面ノ壓控ニ通スヘシ

第五節 取扱上ノ注意

第八十二條 三十年式乘馬具取扱上ノ注意ニ關スル規定ニ準スルノ外特

ニ注意スヘキ事項左ノ如シ

- 一 鞆具ハ使用ノ程度ニ依リ伸長ノ度ヲ異ニスルヲ以テ左右相對ノ位置ニ在ル鞆革、鞆索及釣革等ハ勉メテ同長ノモノヲ使用スヘシ
- 二 鞆具ハ同一長度ヲ以テ終始使用スルトキハ局部ヲ破損シ易キヲ以テ時時鞆具ヲ交換シ其ノ長度ヲ變更シテ使用スヘシ

第六節 修理方法ノ概要

第八十二條 修理方法ハ三十年式乘馬具及砲兵鞆馬具修理方法ニ關スル規定ニ準スルノ外概左ノ如シ

- 一 轅木托革ノ破損シタルモノハ縫著部ヲ解キ控革全部ヲ交換シ八番絲ヲ以テ縫著スヘシ
- 二 緩喉革縫絲ノ破綻ハ舊絲ヲ解キ八番絲ヲ以テ縫著スヘシ
- 三 袴革釣革及枝革ノ破損ハ之ヲ交換シ四番絲ヲ以テ縫著スヘシ
- 四 袴革端革ノ破損ハ交換スヘシ
- 五 頸上革載革枝革縫目ノ破綻ハ舊絲ヲ解キ六番絲ヲ以テ縫著スヘシ
- 六 頭絡ノ項革及前後枝革ノ裂損セルモノハ裂損部ヲ截斷シ新ニ一

馬具 三八式輻重鞆馬具 修理方法ノ概要 手入

體ヲ成セル前後枝革ヲ四番絲ヲ以テ縫著スヘシ

七 韁ノ破損セルモノハ其ノ部分ヲ交換シ四番絲ヲ以テ縫著スヘシ

第五章 三六式輜重輓馬具

第一節 手入

第八十四條 常用品及貯藏品ノ手入ハ三八式輜重輓馬具手入ニ關スル規定ニ準スヘシ

第二節 格納

第八十五條 格納方法ハ概三八式輜重輓馬具格納ニ關スル規定ニ準スルノ外左ノ如シ

一 控韁、腹帶及結揚ハ五箇又ハ十箇ヲ結束シテ懸吊スヘシ

二 蹄鐵囊ハ輓鞍ニ裝著ノ儘格納スヘシ

第三節 検査

第八十六條 常用品ノ検査ハ三八式輜重輓馬具常用品検査ニ關スル規定

ニ準スルノ外主トシテ檢スヘキ事項左ノ如シ

一 輓鞍ノ穹隆ハ變形セサルヤ、鞍褥ノ填毛方法不充分ナル爲皺ヲ生スルコトナキヤ、填毛ノ減退セルモノナキヤ、又害蟲ノ發生セルモノナキヤ

二 受金托革ハ縫著部完全ニシテ受金ヲシテ左右同高ニ位置セシメ得ヘキヤ

第八十七條 貯藏品ノ検査ハ三八式輜重輓馬具貯藏品検査ニ準シ行フヘシ

馬具 三六式輜重輓馬具 検査

第四節 分解及結合

第八十八條 分解及結合ハ三八式輻重鞍馬具分解及結合ニ關スル規定ニ準スルノ外左ノ各號ニ依ルヘシ

- 一 鞍鞍ヲ分解スルニハ小綱、腹帶、轅木受金及蹄鐵囊ヲ離脱スヘシ
- 二 鞍鞍ヲ結合スルニ方リ鞍ニ蹄鐵囊ヲ裝著スルニハ其ノ釣革ヲ鞍ノ革環ニ通シテ簪環ニ控著スヘシ
- 三 轅木受金ハ其ノ簪環ヲ鞍ノ受金托革ニ控著スヘシ
- 四 腹帶ハ其ノ革環ヲシテ結揚兩革環ノ中央ニ在ラシムル如ク其ノ兩端ヲ結揚ノ革環ニ通シ之ヲ右方ノ腹帶托革ニ控著スヘシ
- 五 小綱ハ卷束シテ鞅托環ニ結著スヘシ

第五節 取扱上ノ注意

第八十九條 三八式輻重鞍馬具取扱上ノ注意ニ關スル規定ニ準スヘシ

第六節 修理方法ノ概要

第九十條 三八式輻重鞍馬具修理ニ關スル規定ニ準スヘシ

第六章 四一式山砲駄馬具

第一節 手入

第九十一條 常用品及貯藏品ノ手入ハ三十年式乘馬具及砲兵鞍馬具手入ニ關スル規定ニ準スルノ外左ノ如シ

- 一 板體ハ板褥ヲ脱シタル後要スレハ刷毛ヲ以テ塵埃ヲ拭掃シ刷毛馬具
三六式輻重鞍馬具 取扱上ノ注意 修理方法ノ概要 八三
四一式山砲駄馬具 手入

ノ達セザル部分ハ布片ヲ用キテ行フヘシ但シ居木連綴革ノ塗油ハ少量ナルヲ要ス

二 規正螺ハ之ヲ拭淨シ脂油ヲ塗施シ發錆ヲ豫防スヘシ

三 板褥ノ居木室革ニハ稍少量ニ給油シテ革質ノ伸長ヲ豫防スヘシ但シ一背ニ對シ粉末「ナフタリン」十匁ヲ填毛口ヨリ粗穀内ニ挿入スルコトハ三十年式乘馬具鞍褥ノ手入ニ準シ行フヘシ

四 腹帶麻布ノ塵埃ヲ拭淨シタル後革部ニハ表裏ヨリ稍充分ニ給油スヘシ

第九十二條 格納後甚シク年月ヲ經サル四一式山砲駄馬具砲車ニ對スル給油量ハ一組ニ付八十瓦流動油ナレ彈藥箱用駄馬具ハ約五十瓦流動油ナレトス

第二節 格納

第九十三條 格納方法ハ三十年式乘馬具及砲兵輓馬具格納ニ關スル規定ニ準スルノ外概左ノ如シ

一 極體ハ板褥及架匡ヲ裝シタル儘鞍架ニ托スヘシ但シ要スレハ板褥及架匡ヲ脱スルコトヲ得

二 腹帶ハ五箇又ハ十箇ヲ結束シテ懸吊スヘシ

三 蹄鐵囊ハ五箇又ハ十箇ヲ結束シテ懸吊シ又ハ箱ニ收容スヘシ

四 丁字鏈ハ箱ニ收容スヘシ

五 駄裝革條、縛囊革條、停轆革、繫轆革、鉤輪索及輓索ハ十箇又ハ二十箇ヲ結束シテ懸吊スヘシ但シ特ニ短小ナル革條ハ箱ニ收容スヘシ

馬具 四一式山砲駄馬具 格納

第三節 檢 査

第九十四條 檢査ハ三十年式乘馬具及砲兵輓馬具檢査ニ關スル規定ニ準
スルノ外左ノ各號ニ依ルヘシ

- 一 穹體ノ前後ニ於ケル開角ハ規正ナリヤ
- 二 板體各部ノ連結部ノ螺桿、綴釘、又ハ螺桿ト牝螺トノ吻合弛緩
シアラサルヤ、割栓ノ脱落ナキヤ
- 三 規正螺ノ機能圓滑ニシテ穹鐵ノ開閉確實自在ナルヤ又螺桿ノ變
歪セルモノナキヤ
- 四 板體各部ニ衝突ヨリ生スル變歪ナキヤ又鐵板部ニ裂損ナキヤ
- 五 架匡ハ變歪又ハ破損ナキヤ
- 六 板褥ノ填實ハ硬軟適度ナルヤ又填實物偏移シタル爲變形シアラ

サルヤ

- 七 居木室革及板褥留金坐革ハ破損シアラサルヤ
- 八 緩喉革及袴革ハ左右同高二位置シアルヤ

第四節 分解及結合

第九十五條 手入ノ際所要ノ分解及結合ヲ行フコトヲ得但シ板體、板褥
及野繫勒ノ分解及結合ハ兵器委員又ハ中隊長ノ許可アルニ在ラサレハ
行フヘカラス

前項ノ分解ヲ行フタルトキハ將校之ヲ檢査スヘシ

第九十六條 分解及結合ハ概左ノ如シ

- 一 馱鞍ヲ分解スルニハ附隨品及馱具ヲ離脱シタル後板褥、架匡、
板體ノ順序ヲ以テ行ヒ之ヲ結合スルニハ分解ト反對ノ順序ニ依ル
馬具 四一式山砲馱馬具 檢査 分解及結合

二 附隨品及駄具ノ離脱及分解ハ左ノ如シ

イ 緩喉革ヲ其ノ托環及丁字鏈ノ三角形環ヨリ繫轅革ヲ袴革ノ

圓形環ヨリ、袴革ヲ其ノ釣革及托環ヨリ、鞅ヲ其ノ控環ヨリ

離脱シ鞅褥細革條ノ結著ヲ解キ鞅及袴革釣革ヲ鞅褥ヨリ離脱

スヘシ

ロ 駄裝革條、縛囊革條、鉤輪索及挽索ヲ各其ノ托部ヨリ離脱

シ丁字鏈ヲ其ノ駐釦ヨリ離脱スヘシ

ハ 停轅革ハ釣革ノ控著ヲ解キ連帶及轅把ヲ離脱スヘシ

ニ 腹帶ハ其ノ駐木ヲ抽出シタル後之ヲ居木ヨリ離脱スヘシ

ホ 駄馬勒ヲ分解スルニハ韁、牽韁及頭絡ヲ銜ヨリ解脫シ、目

障細革條ノ結著ヲ解キ頰革及咽革ヲ分解スヘシ

三 極褥ヲ極體ヨリ離脱スルニハ後方居木室ノ縛革ヲ解キ居木ヨリ

脱シ、鞍褥留金ヲ下方ニ押シ下ケ穹臂トノ連絡ヲ解クヘシ

四 極褥内ノ粗殼ヲ増減スルニハ填實口ノ緊紐ヲ解キ粗殼ヲ抽出、

填實若ハ移動セシムヘシ

五 架匡ヲ極體ヨリ離脱スルニハ脚板壓螺軸、坐環、坐板共ヲ脱シ前後脚板

ト穹鐵トノ連結ヲ解キ前後ノ穹鐵樞軸ヲ離脱シテ架匡ヲ極體ヨリ

分離スヘシ但シ極褥ヲ離脱スルコトナク單ニ架匡ノミヲ極體ヨリ

脱シ或ハ裝著スルコトヲ得

六 極體ハ極褥及架匡ヲ脱シタル後規正螺ヲ回轉シテ牝螺トノ吻合

ヲ解キ且穹鐵樞軸ヲ脱シテ穹鐵、穹臂、居木及連結板ヲ左右ニ分

離スヘシ但シ穹鐵、穹臂、居木及連結板ハ之ヲ一體タラシメ互ニ

分離スヘカラス

馬具 四一式山砲駄馬具 分解及結合

七 駄具及附隨品ノ裝著方法左ノ如シ

イ 砲身架匡及托架架匡ニ駄裝革條ヲ裝著スルニハ前方ニ在リテハ裏面ヲ上方ニシテ右側鉞ノ前窓ニ外方ヨリ内方ニ通シ左側鉞ノ前窓ニ内方ヨリ外方ニ通シ、後方ニ在リテハ裏面ヲ上方ニシテ左側鉞ノ後窓ニ外方ヨリ内方ニ通シ右側鉞ノ後窓ニ内方ヨリ外方ニ通ス又中央ニ在リテハ裏面ヲ下方ニシテ各側鉞ノ中央孔ニ外方ヨリ通シ且壓控ニ通スヘシ

ロ 大架架匡ニ駄裝革條ヲ裝著スルニハ裏面ヲ上方ニシテ外方ヨリ撐鉞ノ革條托桿下ニ通シ托桿ノ上方ニ於テ壓控ニ通ス又後砲架受鉞ニ在リテハ裏面ヲ上方ニシ右方ノ窓ニ上方ヨリ次ニ左方ノ窓ニ下方ヨリ通スヘシ但シ防楯ヲ駄載スルモノニ在リテハ前方ニ在リテハ一條ノ駄裝革條ヲ外方ヨリ撐鉞右方ノ

革條托桿下ニ通シ他ノ革條ト連結シテ其ノ端末ヲ内方ヨリ左革條托桿下ニ通シ後方ニ在リテハ左右撐鉞ノ革條托桿ニ内方ヨリ通スヘシ

ハ 大架架匡ヲ附スル駄鞍及彈藥箱用駄鞍ハ連結鉞ノ駄裝革條ノ窓ニ各一條ノ駄裝革條ヲ裝スル爲裏面ヲ外方ニシテ連結鉞下方ノ窓ヨリ上方ノ窓ヲ通セシメ端末ヲ壓控ニ托スヘシ

ニ 縛囊革條ハ左方居木ノ革條脚環ヨリ右方居木ノ脚環ニ通スヘシ

ホ 鈎輪索及輓索ハ其ノ鏈又ハ鈎ヲ前後兩穹鐵ノ懸連鈎ニ鈎シ架匡脚鉞中央ノ駄裝革條ヲ以テ控著スヘシ

ヘ 丁字鏈ハ鈎革ヲ連結鉞ノ窓ニ通シタル後駐鈎ニ裝スヘシ

馬具 四一式山砲駄馬具 分解及結合

ト 停轅革ハ連帶ヲ居木ノ溝ヨリ居木連接革ノ下方ヲ通シ其ノ
 兩端ヲ轅把釣革ノ簪環ニ裝著シ轅把釣革ノ一端ヲ轅把ノ連綴
 環ニ内方ヨリ通シ遊動壓控ニ通シテ簪環ニ控著スヘシ
 チ 短腹帶ハ挿口ノ部分ヲ左方居木ノ窓ニ、長腹帶ハ挿口ノ部
 分ヲ右方居木ノ窓ニ内方ヨリ通シテ駐木ヲ挿入スヘシ
 リ 鞅褥ハ其ノ細革條ヲ袴革釣革、連綴革及鞅ノ孔ニ通シテ結
 著シ鞅ハ其ノ托環ニ下方ヨリ通シ遊動壓控ニ通シテ簪環ニ控
 スヘシ
 ス 緩喉革ハ其ノ釣革ヲ以テ緩喉革托環ニ裝著シ且兩端ヲ丁字
 鍵ノ三角形環ニ内方ヨリ通シタル後簪環ニ控スヘシ
 ル 鞆ハ其ノ端末ヲ緩喉革托環ニ裝著スヘシ
 ヲ 袴革ハ釣革受革ヲ袴革釣革ニ、端革ヲ以テ袴革托環ニ裝著

スヘシ

ワ 繫轅革ハ袴革圓環ニ外方ヨリ通シ裏面ノ壓控ニ通シタル後
 其ノ端末ヲ簪環ニ扣スヘシ
 カ 駄馬勒ハ長頰革ヲ右方ニ短頰革ヲ左方ニシテ相互ニ控著シ
 咽革ヲ右方頰革ノ後方ヨリ左頰革ニ通シテ細革條ヲ以テ結著
 シ韁ノ長部ヲ右方、短部ヲ左方ノ銜環ニ控著シ牽韁ハ左方銜
 環ノ外方ヨリ通シ右方銜環ニ控著シタル後目障細革條ヲ額革
 ノ部ニ結著スヘシ

第五節 取扱上ノ注意

第九十七條 駄鞍ハ板體ノ開キヲ馬體ニ應シテ開閉シ得ルノ構造ナルヲ
 以テ其ノ開キヲ適度ニシ且板褥ヲ馬背ニ適合セシムル如クスルヲ要ス

馬具 四一式山砲駄馬具 分解及結合

第九十八條 板體ノ開キハ普通留金ノ附近ニ於テ板褥ノ裏面ト馬體間ニ掌ヲ入レ得ルヲ度トスルモ馬ノ體格ニ由リ上肋部ニ於テ過強ニ接著スルコトアルヲ以テ脫鞍後ニ於テ鞍下毛布ノ狀況ヲ點檢シ駄鞍ノ膚接状態ヲ察シ板體ノ開キヲ修正シ或ハ板褥ノ調整ヲ行ヒ馬背ニ等齊ニ荷量ヲ負擔セシムヘシ

第九十九條 板體ヲ開閉スルニハ脚板壓螺ヲ弛メタル後規正螺ヲ旋回シテ板體ノ開キヲ決定シ駐栓ヲ上方ヨリ規正螺ノ圓孔ニ通シ其ノ下端ヲシテ穹鐵樞軸ノ凹部ニ陷入セシメタル後脚板壓螺ヲ緊著スヘシ
駄載ヲ行ヒタルトキハ板體ノ開キヲ點檢規正スヘシ

第一百條 居木連結鈹ハ前後穹臂下端ニ於ケル間隔ノ差ヲ百二十耗トシテ正シク綴著セラレアルモ居木竝穹臂ハ僅少ノ捻振ヲ許スヲ以テ前後穹臂間隔ノ差ヲ八十耗乃至百六十耗ニ變化スルコトヲ得此ノ差ハ規正螺ヲ以テ開閉シ得ヘキ潤度

ナルカ故ニ穿鐵開閉ニ當リ規正螺ノ回轉困難ナルニ及ヘハ此ノ間隔差ヲ點檢シ潤度外ニ開閉スルコトヲ避クルヲ要ス

第一百一條 板褥ヲ馬背ニ適合セシムルニハ粗殼ヲ増減シ或ハ轉移セシムヘシ但シ粗殼ノ量ハ板褥ヲシテ過硬ナラシムルコトナク彈性ヲ帶フルヲ程度トスヘシ

第一百二條 腹帶簪環ノ位置ハ左側ニ於テ成ルヘク板褥ニ接近スル如ク兩腹帶ノ長サヲ規定スルヲ要ス

第一百三條 鞍ヲ地上ニ置クトキハ轉倒セシメサルコトニ注意スヘシ

第一百四條 樞軸部、摩擦部竝螺絲部ハ常ニ脂油闕乏スルコトナカラシメ且清潔ナラシムヘシ

第一百五條 前諸條ノ外三十年式乘馬具及砲兵鞍馬具取扱上ノ注意ニ關スル規定ニ準スヘシ

第六節 修理方法ノ概要

第百六條 修理方法ハ三十年式乘馬具及砲兵輓馬具修理ニ關スル規定ニ準スルノ外概左ノ如シ

- 一 馱馬勒ノ目障革中連綴麻帶地ノ破損セルモノハ新ニ麻帶地ヲ以テ交換シ六番絲ヲ以テ縫著スヘシ
- 二 韁、牽韁中對控革ノ破損セルモノハ新ニ取換ヘ六番絲ヲ以テ縫著スヘシ
- 三 規正螺ノ屈曲セルモノハ架匡ヲ穹鐵ヨリ脱シ前後穹鐵ノ樞軸ヲ脱シタル後規正螺ヲ穹鐵ヨリ脱出シ定盤上ニ於テ銅錐又ハ木槌ニテ輕打矯正スヘシ
- 四 居木綴釘ノ緩ミタルモノハ其ノ綴釘ヲ交換スヘシ但シ僅少ノ緩

ミハ鋸壓ト小錐トヲ用キ舊綴釘ヲ緊定シ置クコトヲ得

五 連結鈹、穹體連結部ノ緩ミタルモノハ其ノ綴釘ヲ交換スヘシ但シ僅少ノ緩ミハ鋸壓ト小錐トヲ用キ舊綴釘ヲ緊定シ置クヲ得又螺桿牝螺ノ緊定シ得サルモノハ其ノ牝螺ノ螺絲ヲ立テ直シ其ノ程度ノ甚シキモノハ之ヲ交換スヘシ

六 緩喉革托革ノ破損シタルモノハ新ニ取換ヘ六番絲ヲ以テ縫著スヘシ

七 板褥中粗殼ノ偏移シタルモノハ填實口ヨリ一部ヲ抽出シテ修正シ敲打シテ硬軟ノ度ヲ適當ナラシムヘシ

八 架匡ノ變歪セルモノハ木槌又ハ錐ヲ以テ輕打修正スヘシ但シ其ノ鈹地金ノ甚シキ裂損ハ之ヲ交換スヘシ

九 馱裝革條及縛囊革條ノ簪孔部ノ破損ハ全體ノ革質健全ナルトキ

馬具 四一式山砲馱馬具 修理方法ノ概要

ニ限り破損部ヨリ截斷シ新ニ革帶ヲ繼キ足シ六番絲ヲ以テ縫著ス
ヘシ但シ革質衰損セルトキハ全部ヲ交換スヘシ

十 停轅革轆把ノ連綴環ヲ通スル部分ノ摩損ハ其ノ摩損部ヨリ截斷
シ、六番絲ヲ以テ縫著スヘシ但シ繼キ目ヲシテ連綴環ニ觸レシメ
サル如ク注意スヘシ

十一 鞅褥填實口縫絲ノ摩耗セルモノハ革「ミシン」絲ヲ以テ縫ヒ換
ユヘシ

第七章 二八式機關銃駄馬具

第一節 手入

第百七條 常用品及貯藏品ノ手入ハ概四一式山砲駄馬具手入ニ關スル規
定ヲ準用スヘシ

第二節 格納

第百八條 格納方法ハ三十年式乘馬具、砲兵輓馬具及四一式山砲駄馬具
格納ニ關スル規定ニ準スルノ外左ノ如シ

- 一 極體ハ極褥ヲ裝シタル儘重疊スルコトナク鞍架ニ托スヘシ但シ
要スレハ極褥ヲ脱スルコトヲ得
- 二 駄載匡ハ棚又ハ床上ニ内方ヲ下方ニシテ上下交互ニ重疊スヘシ
- 三 縛箱革條ハ十箇又ハ二十箇ヲ結束シテ懸吊スヘシ
- 四 腹帶ハ五箇又ハ十箇ヲ結束シテ懸吊スヘシ

第三節 検査

第百九條 検査ハ四一式山砲駄馬具検査ニ關スル規定ヲ準用スヘシ

馬具

三八式機關銃駄馬具

手入

格納

検査

第四節 分解及結合

第一百十條 手入ノ際所要ノ分解及結合ヲ行フコトヲ得但シ極體、極褥及野繫勒ノ分解及結合ハ兵器委員又ハ中隊長ノ許可アルニ在ラサレハ行フヘカラス

前項ノ分解ヲ行フタルトキハ將校之ヲ検査スヘシ

第一百十一條 分解及結合ハ概左ノ如シ

- 一 極褥ヲ離脱スルニハ後方居木室ノ控著ヲ解キ居木ヨリ脱シ極褥留金ヲ穹臂ノ挿孔ヨリ抽出スヘシ
 裝著ハ反對ノ順序ヲ以テ行フヘシ但シ極褥留金ハ一旦下方ニ押し下ケタル後孔ヨリ抽出スルモノトス
- 二 極褥内ノ粗殼ヲ増減スルニハ填實口ノ緊紐ヲ解キ之ヲ行フヘシ

- 三 規正螺ヲ分解スルニハ蓋螺及駐螺ヲ脱シ掛韁鉤及鞅托環ヲ脱シ規正螺ヲ旋回シツツ規正牝螺ヨリ脱出スヘシ但シ規正螺ヲ旋回スルニハ規正螺ト牝螺トノ方向ヲ常ニ水平ニ位置セシメ且前後同時ニ旋回スルコトニ注意スヘシ 此ノ注意ヲ拂ハサルトキハ螺絲ヲ損スルモノトス
- 四 銃鞍及箱鞍ノ各取附部品ヲ裝著スルニ用ウル螺桿ハ其ノ頭部ヲ極體ノ外方ニ在ラシメ牝螺及割栓ヲ裝スヘシ
- 五 銃身及三脚架托坐被革ノ簪環部ハ内方ニ在ラシムヘシ

第五節 取扱上ノ注意

第一百十二條 四一式山砲駄馬具取扱上ノ注意ニ關スル規定ニ準スルノ外左ノ各號ニ注意スヘシ

- 一 穹臂前後開角ノ差ハ普通馬ニ在リテハ穹臂ノ下端ニ於テ百耗乃馬具 三八式機關銃駄馬具 取扱上ノ注意

至百三十耗トス

二 穹臂前後開角ノ差ヲ過度ニ大ナラシムルトキハ鞍ノ構造上居木及連結板ノ取付部等ニ振回ヲ生スルヲ以テ約百五十耗ヲ極度トスヘシ

第六節 修理方法ノ概要

第百十三條 修理方法ハ四一式山砲駄馬具修理ニ關スル規定ヲ準用スヘシ

第八章 三三式輜重駄馬具

第一節 手入

第一款 常用品ノ手入

第百十四條 普通手入ハ三十年式乘馬具及三八式輜重鞍馬具普通手入ニ

關スル規定ニ準スルノ外左ノ如シ

一 板體ハ鐵部及木部ノ塗料ヲ剝脫セシメサルコトニ注意シ布片ヲ以テ拭淨スヘシ

二 板褥ハ日乾シタル後輕打シテ塵埃、污垢ヲ除去スヘシ但シ日乾前革部ニ給油シ又夏季ニ於テハ通風ノ良キ位置ニ於テ陰乾スルヲ可トス

三 縮網ニ污垢、泥土等ノ附著シタルモノハ之ヲ拭除シ其ノ硬固トナリタルモノハ之ヲ揉ミ置クヘシ又縮網ヲ日乾スルニハ日乾前蛇口皮革ニ塗油シ置クヘシ

四 繫革ハ塵埃ヲ除去シタル後其ノ兩面ヨリ充分給油シ柔軟ナラシムヘシ

馬具 三三式輜重駄馬具 手入

五 鏈ハ汚垢ヲ除去スヘシ

第百十五條 精密手入ハ三十年式乘馬具及三八式輜重輓馬具精密手入ニ關スル規定ヲ準用スヘシ

第二款 貯藏品ノ手入

第百十六條 貯藏品ノ手入ハ三十年式乘馬具及三八式輜重輓馬具貯藏品手入ニ關スル規定ヲ準用スヘシ但シ格納後甚シク年月ヲ經サル三三式輜重駄馬具ニ對スル給油量ハ概二十五瓦流動油ナレハ約一匁半トス

第二節 格納

第百十七條 格納方法ハ三八式輜重輓馬具格納ニ關スル規定ニ準スルノ外左ノ如シ

- 一 駄鞍ハ板體ニ板褥及蹄鐵囊ヲ裝シタル儘重疊スルコトナク鞍架ニ托スヘシ但シ要スレハ板褥ヲ脱スルコトヲ得
- 二 牽綱ハ十箇又ハ二十箇ヲ結束シテ棚上ニ置キ又ハ懸吊スヘシ
- 三 鞞ハ五箇又ハ十箇ヲ結束シテ懸吊スヘシ
- 四 鞞ハ十箇又ハ十五箇ヲ結束シテ懸吊スヘシ但シ成ルヘク控紐ヲ脱スルヲ可トス
- 五 縮綱ハ蛇口ノ包革部ヲ他ノ索部ヨリ長ク垂下スル如ク四箇又ハ八箇ヲ結束シテ懸吊シ又ハ棚上ニ置クヘシ
- 六 繫革ハ十箇又ハ二十箇ヲ結束シテ懸吊スヘシ
- 七 鍵及鑲ハ箱ニ收容スヘシ
- 八 雨覆ハ概八ツ折トシ棚上ニ置クヘシ

第三節 検査

第一百十八條 常用品ノ検査ハ三八式輻重鞍馬具常用品検査ニ關スル規定

ニ準スルノ外特ニ左ノ各號ニ注意スヘシ

一 鐵部ニ發錆シ在ラサルヤ

二 鞍褥ハ馬背ニ適合スルヤ、害虫ノ生セルモノナキヤ又破綻ナキ

ヤ

三 鞍骨ニ破損ナキヤ

四 諸繫環鈕ハ完全ナリヤ

五 綱具ノ諸部ニ破損ナキヤ

六 手入用脂油、材料ハ良好ナリヤ、手入ノ方法適當ナリヤ

第一百十九條 貯藏品検査ハ三八式輻重鞍馬具貯藏品検査ニ關スル規定ヲ

準用スヘシ

第四節 分解及結合

第一百二十條 分解及結合ハ概左ノ如シ

一 駄馬具ヲ分解スルニハ縮綱ヲ離脱シ鞞、鞞及左、右腹帶ヲ各其ノ繫環及縮環ヨリ解脱シタル後居木室ノ對控革ヲ解脱シ居木ヲ其ノ室ヨリ脱出シ極褥ト分離スヘシ

二 結合ハ分解ト反對ノ順序ニ依ルヘシ但シ腹帶ヲ縮環ニ結著スルニハ三八式輻重鞍馬具ノ腹帶結著ニ關スル規定ヲ準用スヘシ

三 駄馬勒ノ分解及結合ハ三十年式乘馬具野繫勒ニ關スル規定ヲ準用スヘシ

馬具 三三式輻重鞍馬具 分解及結合

第五節 取扱上ノ注意

第二百一十一條 三十年式乘馬具及三八式輻重鞍馬具取扱上ノ注意ニ關スル規定ヲ準用スルノ外、極端ヲ他物ニ衝突シテ闕損セシメサルコトニ注意スヘシ

第六節 修理方法ノ概要

第二百二十二條 修理方法ノ概要左ノ如シ

- 一 穹木端末ノ闕損ノ程度小ナルモノハ埋木ヲ行ヒ木螺子ヲ以テ固定スヘシ
- 二 居木綴釘ノ僅ニ緩ミタルモノハ之ヲ緊メ直シ甚シク緩ミタルモノハ之ヲ交換スヘシ

三 鈎ノ屈曲シタルモノハ輕打シツツ徐徐ニ原形ニ修正スヘシ但シ屈曲ノ度大ナルモノハ熱ヲ與ヘテ矯正スルヲ要ス

四 板褥ハ左ノ方法ニ依ルヘシ

イ 糲殻ノ不平均ナルモノハ敲打シテ修正シ要スレハ一部又ハ全部ノ糲殻ヲ抽出シテ填メ換ヘ硬軟ノ度ヲ適當ナラシムヘシ但シ緊括部ヨリ下方ニ在リテハ下縁ノ縁革ヲ離シ此ノ部ヨリ填メ換ヘヲ爲スヲ可トス

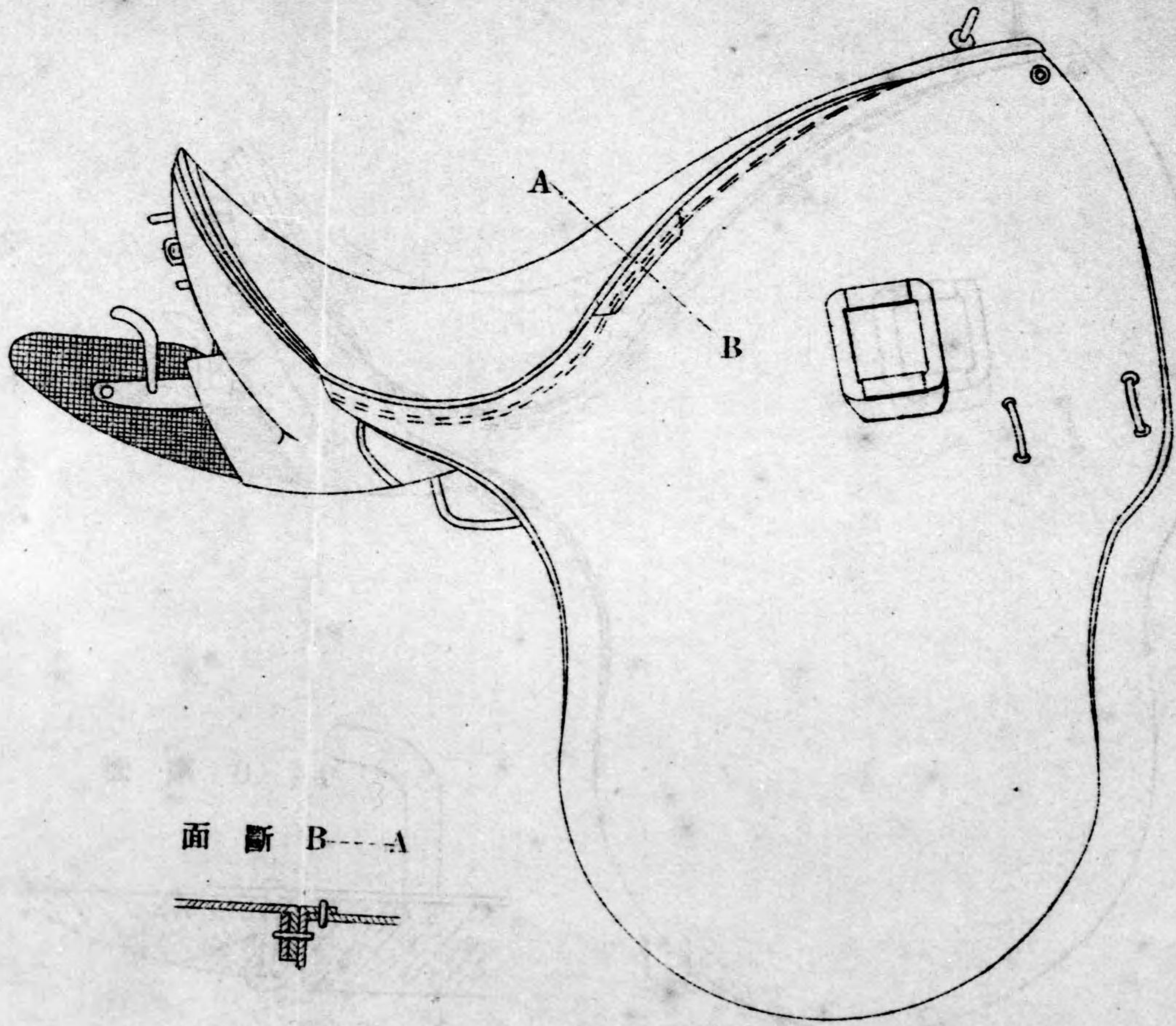
ロ 居木室革ノ破損ハ革部ノ裂損セルモノヲ交換シ縫絲ノ破綻セルモノハ六番絲ヲ以テ縫換ユヘシ但シ糲殻ヲ抽出シタル後作業スヘシ

ハ 縁革ノ破損ハ局部ニ當テ革ヲ爲シ四番絲ヲ以テ縫著スヘシ
五 腹帶端末ノ破損ハ舊麻繩ヲ除去シ新シキ麻ヲ以テ補足シ又編絲

馬具 三三式輻重鞍馬具 修理方法ノ概要

第一圖

騎坐革ト鞅革ト接際部ノ修理



- ノ破損ハ六番糸ヲ以テ交換スヘシ
- 六 鞅麻繩ノ破損ハ其ノ破損セルモノノ全部ヲ交換スヘシ
- 七 縮綱ノ端末ニ近キ箇所破損セルモノハ破損部ヨリ端末迄全部ヲ新麻ヲ以テ交換シ中央ニ近キ箇所ニ在リテ小程度ノモノハ破損部分ヨリ量リテ短キ方全部ヲ新麻ヲ以テ交換シ其ノ程度ノ大ナルモノハ縮綱全部ヲ交換スヘシ
- 八 鋼轡ノ破損シタルモノハ新品ト交換スヘシ但シ鉛附著部ノ弛緩セルモノハ鍍打シテ修正スヘシ

圖 二 第

理修 / 端後木居

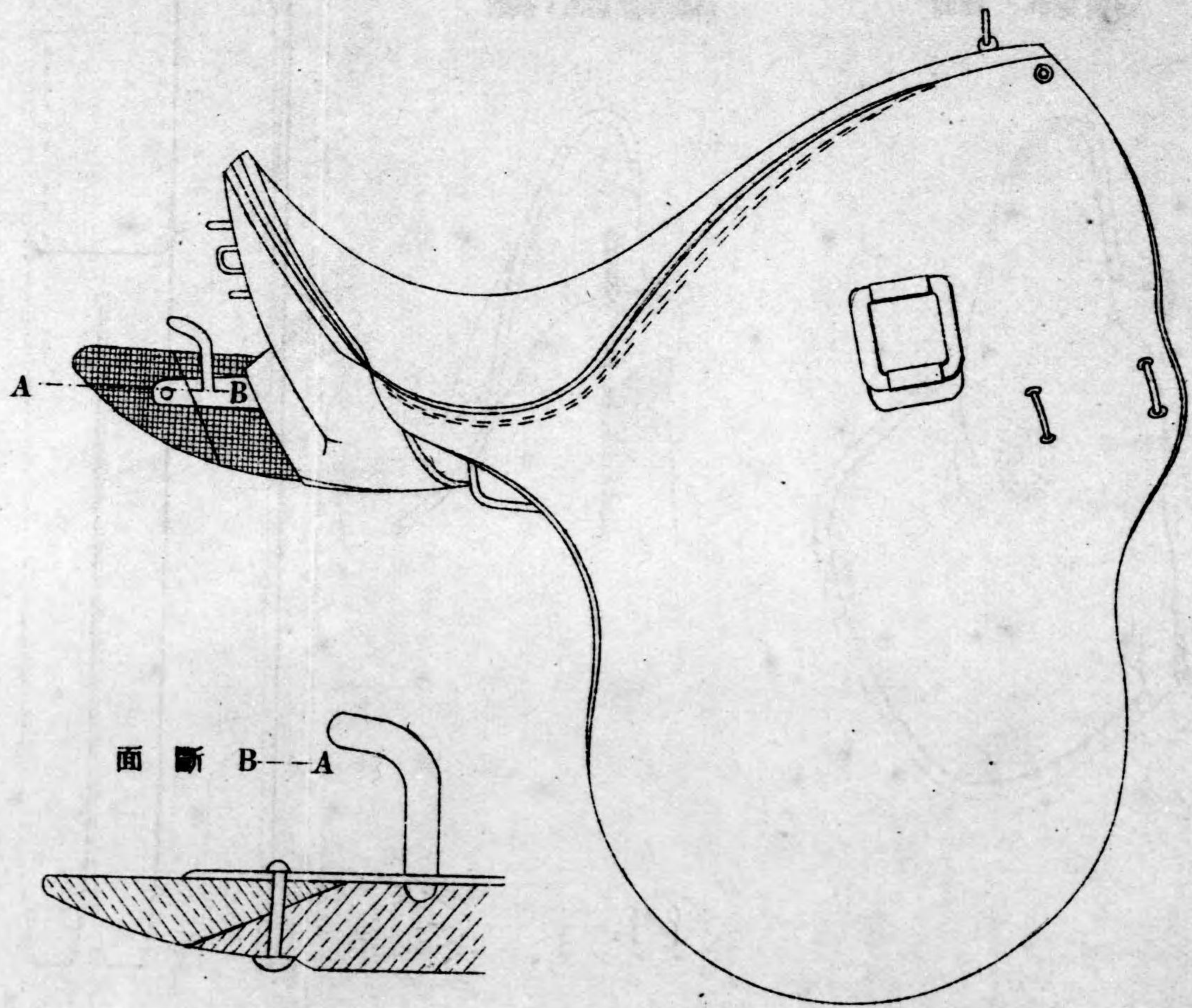
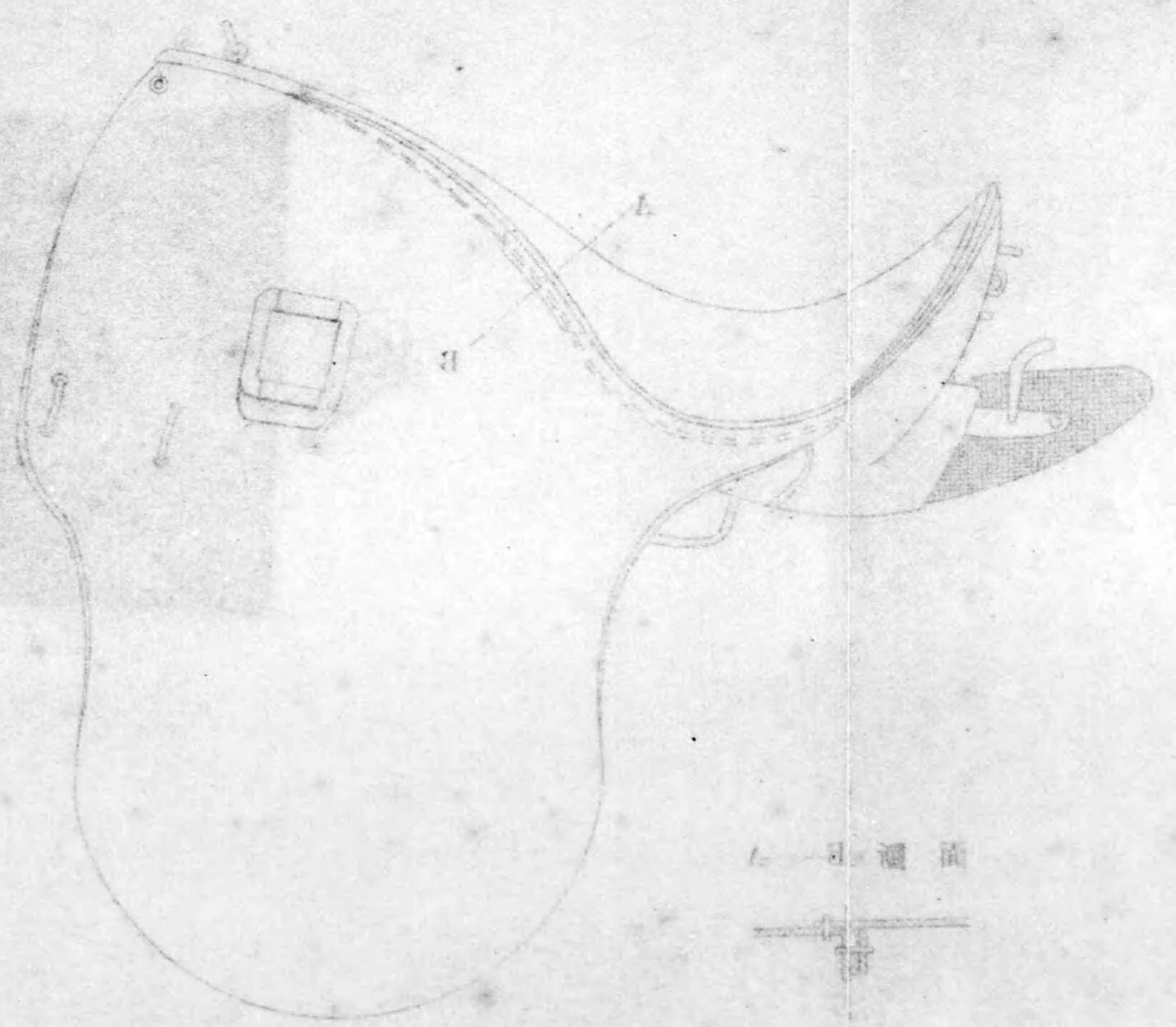
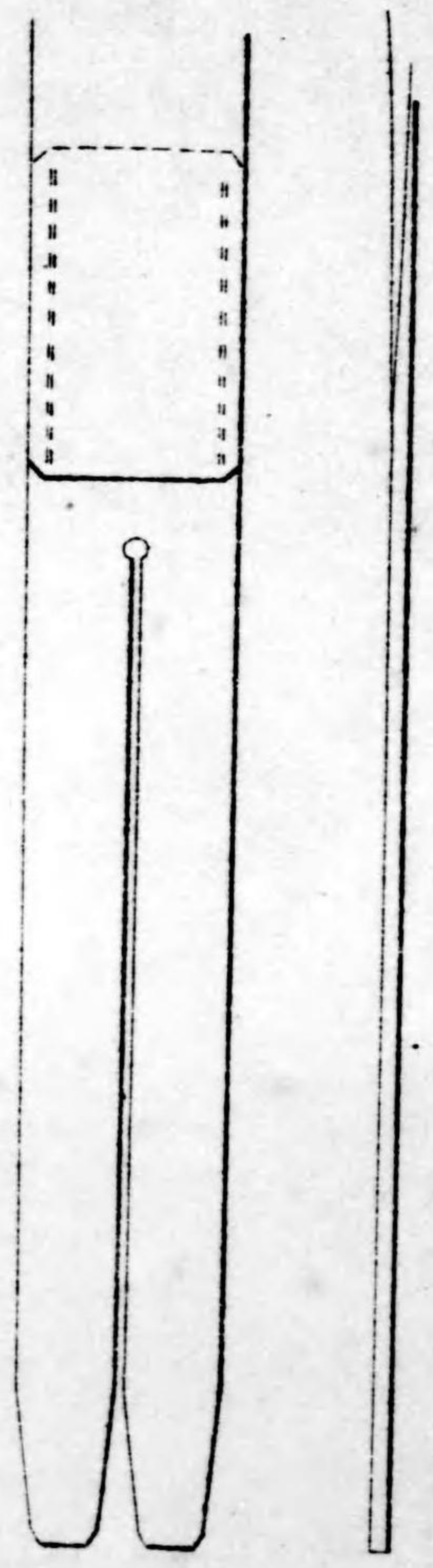


圖 一 第

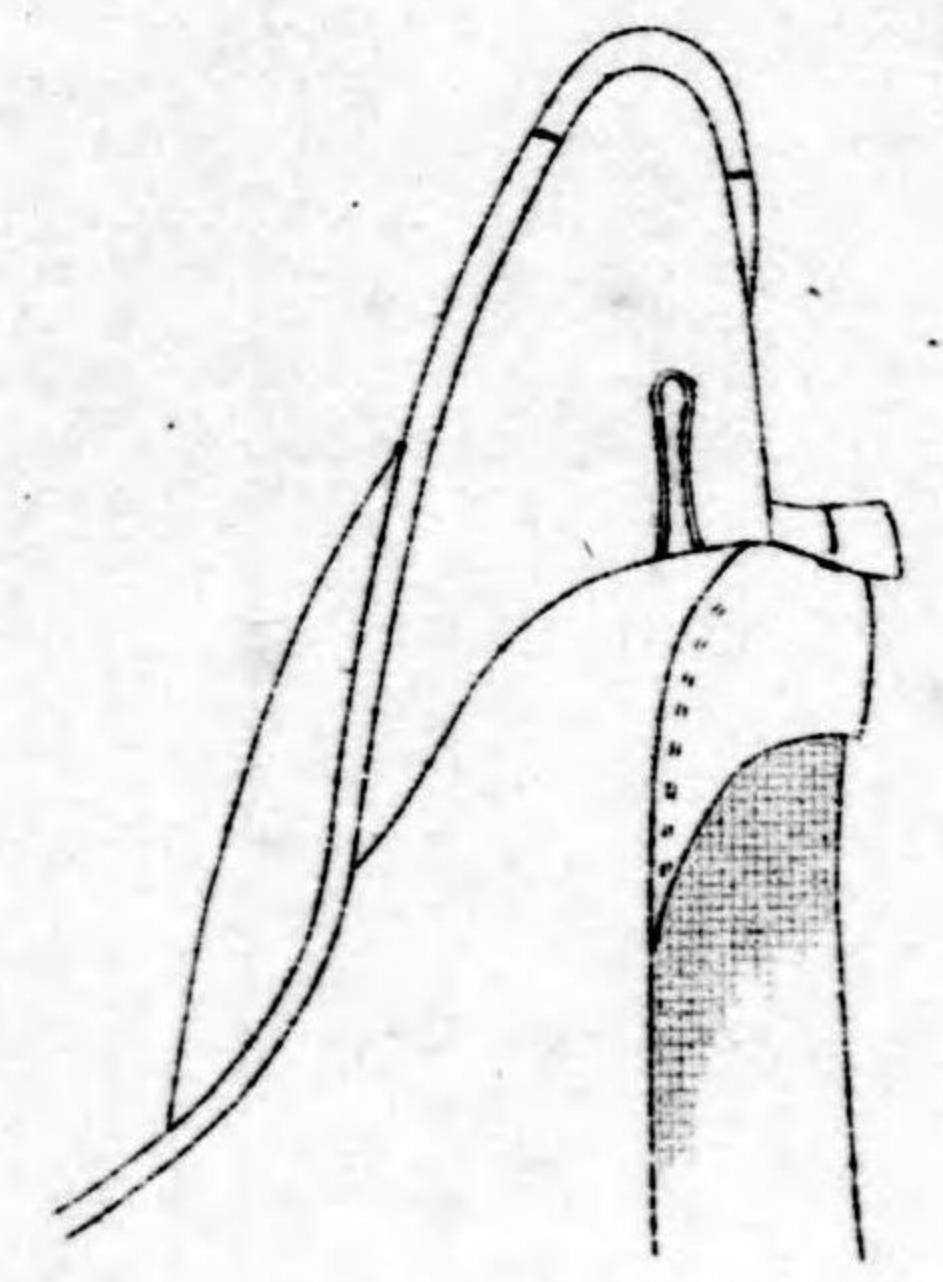
錄坐革 / 錄革 / 針器器 / 釘器



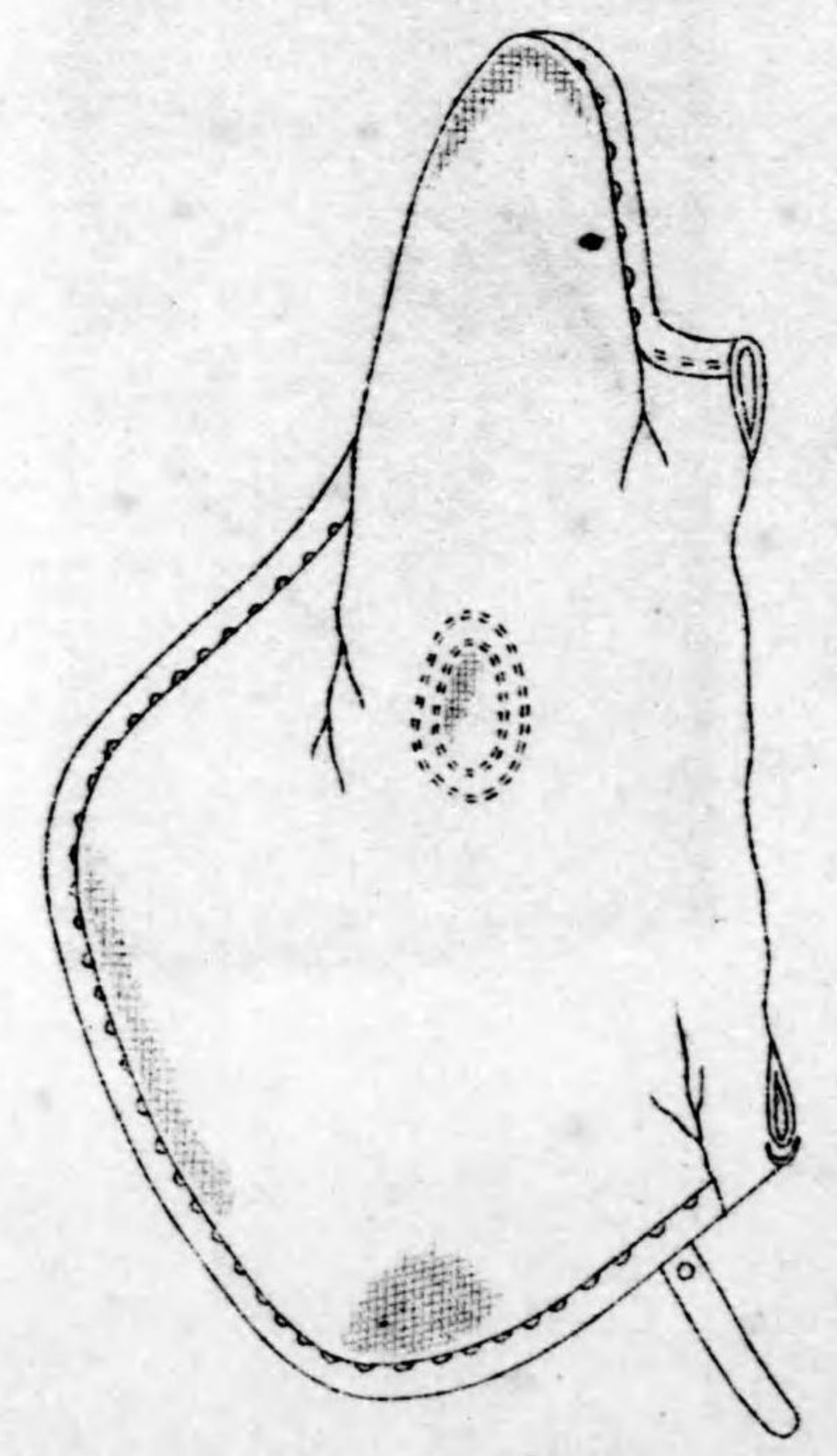
圖五第
理修，革枝革頂



圖四第
理修，革緣端尾褥鞍



圖三第
理修，布裏褥鞍



圖二第
製木對器，漆單

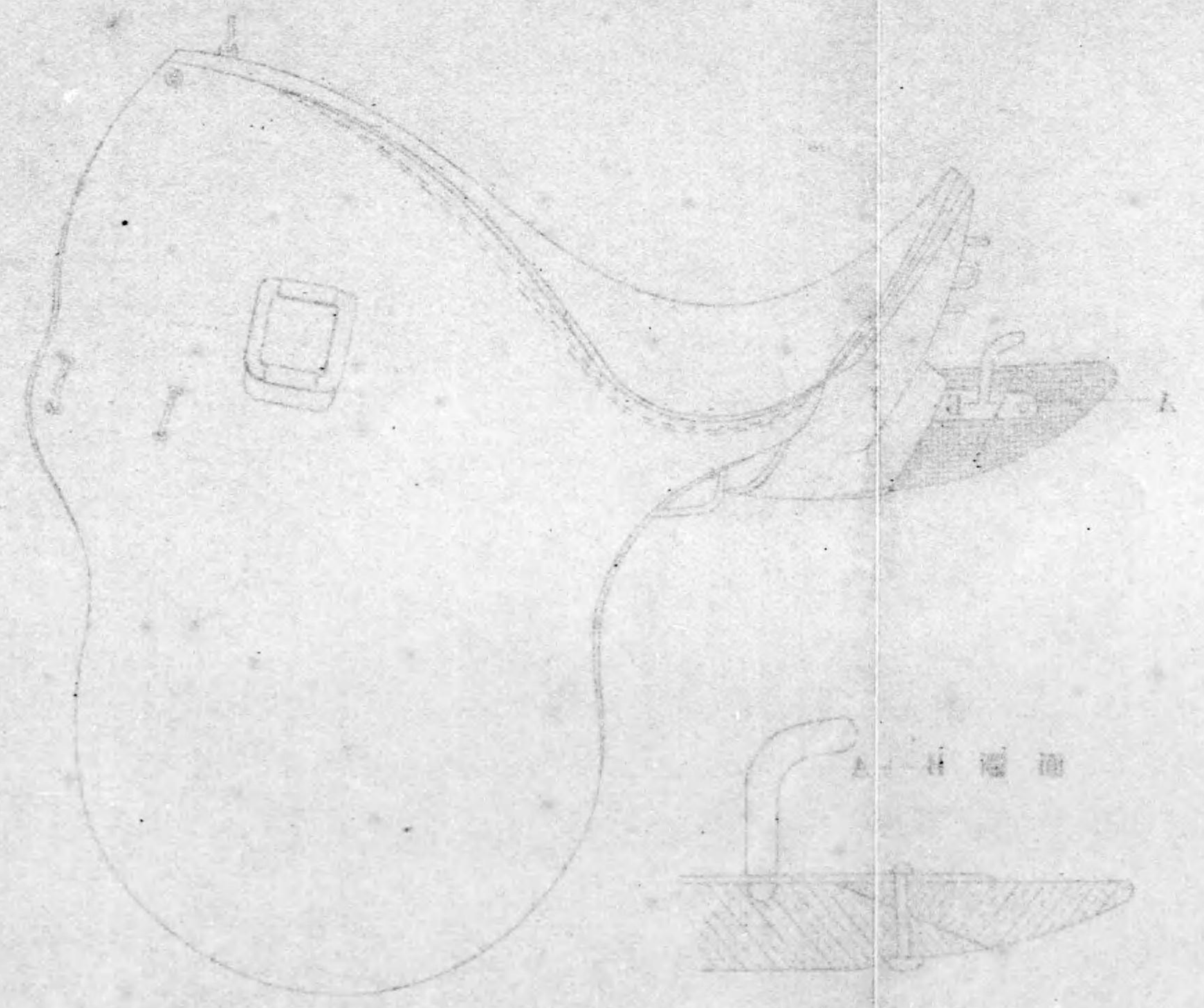


圖 七 第

理修 / 部際接鑲簪形圖革袴

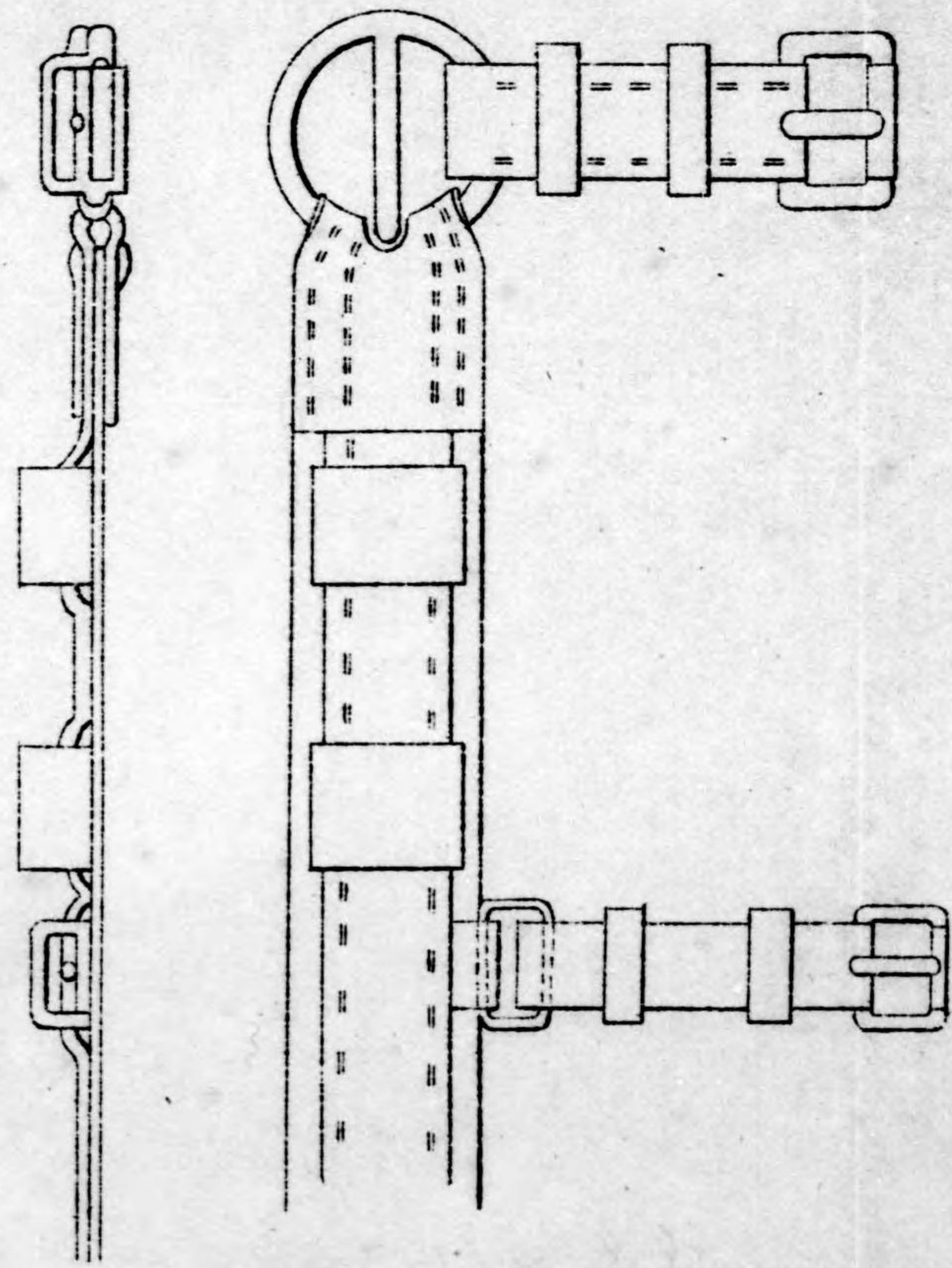


圖 六 第

理修 / 部際接鑲鉤革靴

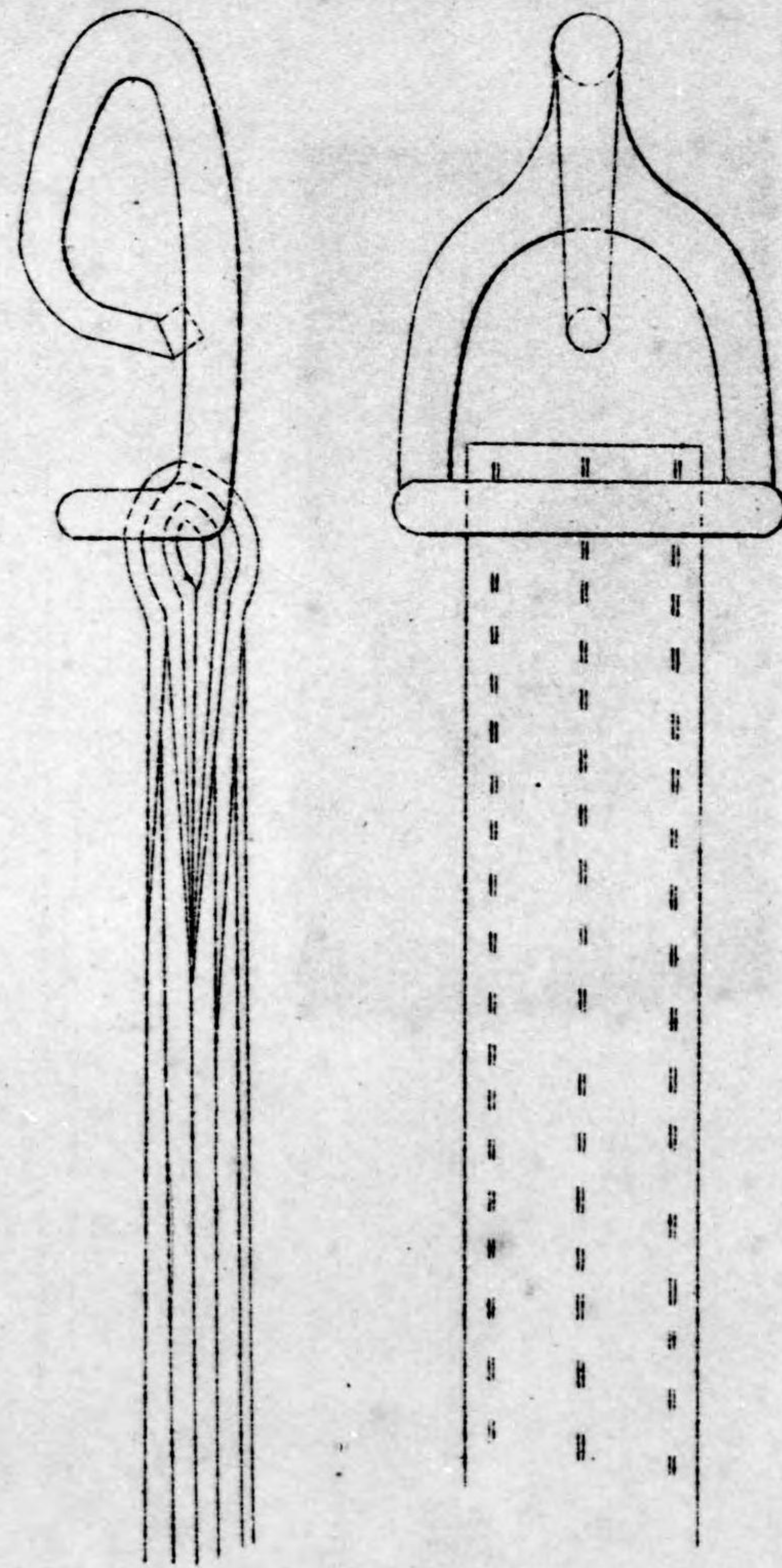


圖 三 第

理修 / 部際接鑲

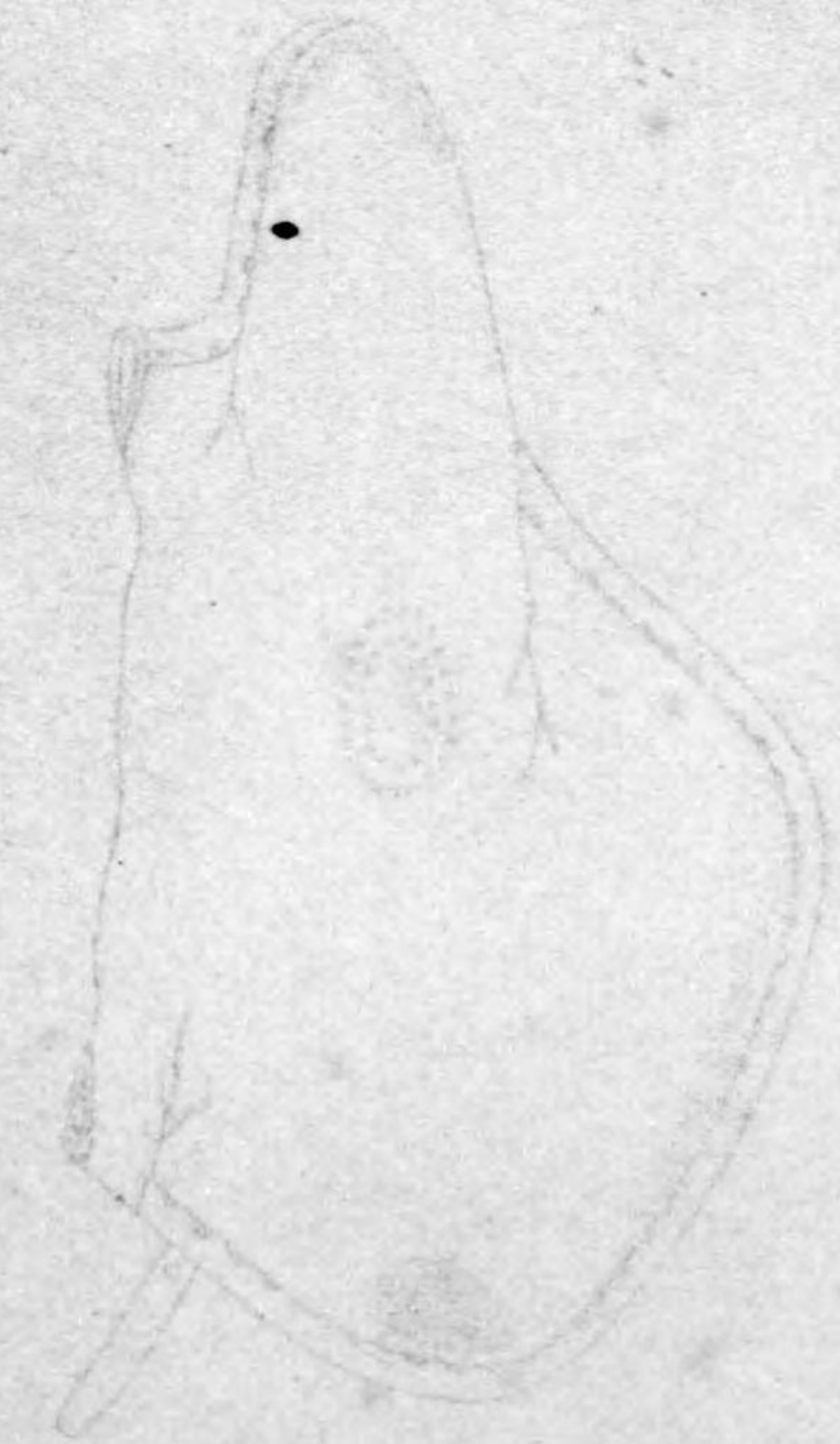
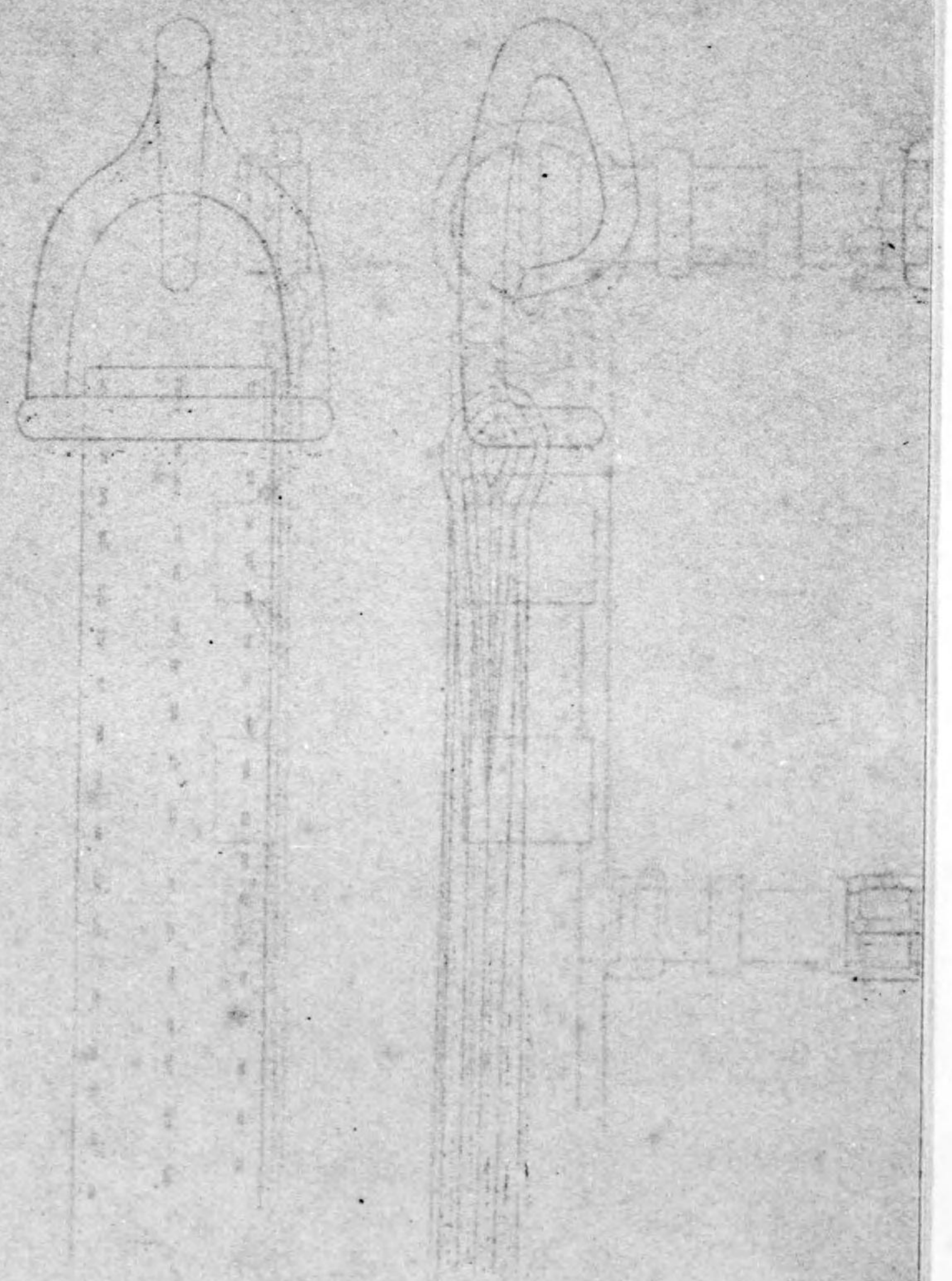


圖 四 第

理修 / 部際接鑲



第四類 第二編 輜重車



輜重車 圖

第四類 第二編 輜重車

一一二

目次

第一章 通則	一一五頁
第一節 手入	一一五
第二節 格納	一一〇
第三節 檢査	一一三
第四節 分解及結合	一二四
第五節 修理	一二五
第二章 手入	一二六
第一節 常用品ノ手入	一二六
第一款 普通手入	一二六

第二款 精密手入	一三一
第二節 貯藏品ノ手入	一三三
第三章 格納	一三四
第四章 檢査	一三七
第一節 常用品ノ檢査	一三七
第二節 貯藏品ノ檢査	一四一
第五章 分解及結合	一四三
第一節 普通分解及普通結合	一四三
第二節 特別分解及特別結合	一四四
第六章 取扱上ノ注意	一四六
第七章 修理方法ノ概要	一四七

目次

一一三

第四類 第二編 輜重車

第一章 通則

第一節 手入

第一條 手入ノ要旨ハ塵埃、汚垢等ノ附著ヲ去リ脂油若ハ塗料ヲ塗施シ發錆、磨損、變質、腐朽及蟲害等ヲ豫防シ以テ兵器ノ保存ヲ確實ナラシムルニ在リ

第二條 手入ニ關スル注意事項左ノ如シ

- 一 塵埃及土砂ノ附著シタルトキハ之ヲ除去シタル後ニ在ラサレハ拭摩スヘカラス
 - 二 塗料ヲ施シアル部分ヲ強摩スヘカラス
- 輜重車 通則 手入

- 三 塗料ヲ施シアラサル鐵具ヲ拭淨シタルトキハ其ノ發錆ヲ豫防スル爲メ塗油ヲ全面ニ洽及セシムヘシ
- 四 錆ヲ除去スルニ土砂、磨粉等ヲ用キ又革具ヲ手入スルニ酸類ヲ使用スヘカラス
- 五 黃銅製品、青銅製品及塗料ヲ施シアル部分ノ手入ハ布片ヲ以テ拭淨シ塗油セサルモノトス
- 六 附屬革具ハ脂油ノ供給ニ依リ消耗セル脂油ヲ補ヒ其ノ變質及損廢ヲ防止スヘシ
革具ハ手入ヲ怠リ一度變質、損廢セシムルトキハ其ノ恢復困難ナルヲ以テ特ニ注意ヲ要ス
- 七 革具ニ發黴ヲ認メタルトキハ之ヲ拭淨スヘシ又黴ノ附著豫防トシテハ屢々拭淨スヘシ殊ニ濕潤季ニ當リテハ注意シ塗油モ其ノ量

及回数ヲ減少スルヲ可トス

- 八 革具ニ脂油ヲ施スニハ主トシテ革ノ表面ヨリ含油布片ヲ以テ少量ツツ數度ニ等齊ニ給スヘシ
 - 九 革具ニ塗油シタルトキハ贅油ヲ殘留セシメサル如ク拭込ムヘシ
 - 十 寒冷季ニ革具ニ塗油スルニハ脂油ニ微温ヲ與ヘ吸收ヲ容易ナラシムルヲ可トス
 - 十一 脂油ハ其ノ品質ヲ精選スヘシ
 - 十二 格納用礦油ハ湯煎鍋ニ溶解ノ上用ウヘシ
- 第三條 手入ニ主トシテ使用スヘキ脂油ノ種類、用途及使用區分左ノ如シ

種	類	用	途	使	用	區	分
輻重車 通則 手入							

格納用礦油	防鏽脂	白色ペンキ	「コールタール」	「ワセリン」	「パラワセリン」	常用礦油	防鏽用	常用品ノ鐵部	永ク使用セサル鐵部
防・擦脂	石油、揮發油、「テレピン」油	苛性曹達	鯨油牛脂ノ複合脂	塗布用革具	洗滌用	防擦用	常用品車軸ノ軸臂及轂筒内 污垢、塵埃、舊脂油、塗料、鏽等ヲ除去スルニ用ウ	「ペンキ」ヲ除去スルニ用ウ	永ク使用セサル車輛ノ輪帶
常用礦油	常用品ノ鐵部	一時使用セサル鐵部	常用品ノ鐵部	常用品ノ鐵部	常用品ノ鐵部	常用品ノ鐵部	常用品ノ鐵部	常用品ノ鐵部	常用品ノ鐵部

第四條 常用品ノ手入方法ヲ普通手入及精密手入ノ二トス

普通手入トハ日常使用後ニ行フヘキ手入ヲ謂フ

精密手入トハ普通手入ニ依リ鏽又ハ污垢等ヲ除去シ能ハサルトキニ行フ手入或ハ普通分解セサル部分ニ行フ手入ヲ謂フ

第五條 精密手入ハ將校ノ監視ノ下ニ行フモノトス

第六條 貯藏品ハ一度脂油ヲ塗施スルトキハ其ノ効力ノ繼續スル限リ手入ヲ行ハサルヲ通常トス又常用品ノ如ク日常細部ニ亘リ検査ヲ行フコトナク局部ノ點檢又ハ抽出検査ノ結果ニ徴シ全般ノ状態ヲ推斷シテ手入ノ要否ヲ決定スルモノナルカ故ニ手入材料ノ選擇及手入ノ方法ニ注意スヘシ

第七條 貯藏品ノ手入ニ就テハ成ルヘク害蟲ノ發生期及濕潤期ヲ避ケ數年ニ亘リ一貫セル方針ニ基キ毎年ノ計畫ヲ定ムヘシ

第八條 木部ニ虫蝕ノ徵候ヲ發見シタルトキハ殺蟲劑ヲ施シ虫蝕ノ慮ナ

輻重車 通則 手入

キニ至ル迄之ヲ他ノ車輛ト隔離スヘシ

一一〇

第二節 格納

第九條 車輛ハ通常車廠内若ハ兵器庫内ニ格納スルモノトス

第十條 常用品ヲ車廠内ニ格納スルニハ分解スルコトナク且出納ニ便ナラシムヘシ但シ車廠狹隘ナルトキハ一部ノ車輛ハ其ノ車輪ヲ離脱シテ格納スルコトヲ得

第十一條 貯藏品ハ一時的格納ノモノ及永久的格納ノモノ竝新古ヲ區分シ其ノ點檢、手入、取扱及出納等ニ便ナル如クスヘシ

第十二條 貯藏品ヲ陳列、懸吊又ハ依托スルニハ保存及取扱竝負擔量ヲ顧慮シ墜落、顛倒又ハ格納品相互ノ損傷ヲ生スルコトナキ様注意スヘシ

第十三條 貯藏品ハ通常車輪及遊動棍ヲ離脱シ格納スルモノトス

第十四條 貯藏品ニハ成ルヘク覆ヲ施シ庫外ヨリ侵入スル大氣ニ直接曝露セシメス且塵埃ヲ防クヘシ

第十五條 格納庫内ニ於テハ手入ヲ行ハサルヲ可トス若庫内ニ於テ手入ヲ行フトキハ塵埃ヲ他ノ格納品ニ蒙ラシメサル爲幕ニテ手入場所ヲ區劃スルカ如クスルヲ要ス

第十六條 貯藏品ハ倉庫ノ周壁又ハ家根裏ニ接近セシメサルヲ可トス

第十七條 塗油セル鐵部ハ油ヲ吸收スヘキ物體ニ觸接セシメサル如ク格納スヘシ若鐵部ヲ木部等ニ觸接セシムル場合ニハ該部ニ豫メ亞鉛飯「パラピン」紙若ハ油紙ヲ介在セシムルカ又ハ防錆用油ヲ塗り充分吸收セシメ發錆ヲ豫防スルカ如クスヘシ又鐵部ヲ他ノ金屬ニ觸接スル場合ニハ損傷セシメサル様注意スルヲ要ス

輻重車 通則 格納

一一一

第十八條 車輛ヲ格納スルニ當リテハ塗料、防錆用脂油ノ剝離セサルコトニ特ニ注意スヘシ

第十九條 格納倉庫ニ關スル注意事項左ノ如シ

- 一 倉庫内ニ塵埃及濕氣ノ侵入スルヲ防遏スヘシ又大氣侵入ノ爲庫内ノ溫度ヲ劇變セシムヘカラス
- 二 窓戸ハ平素閉鎖シ又入口モ出入ノ時ノ外閉鎖シ時時乾燥ニシテ塵埃ノ飛揚セサル日ヲ選ミ換氣ヲ行フヲ要ス但シ床下ノ換氣孔ハ通常之ヲ開キ置クモノトス
- 三 窓戸又ハ壁板等ノ間隙ヨリ侵入スル塵埃、濕氣又ハ鼠ノ竄入等ニ對シテハ防止ノ設備ヲ爲スヘシ
- 四 窓戸ニハ日覆ヲ用キ日光ノ直射ヲ防止スヘシ
- 五 倉庫ノ周圍ハ排水ヲ良好ニシ濕潤ナラシメサルヲ要ス

第三節 検査

第二十條 検査ノ要旨ハ毀損ノ有無、機能ノ良否、結合、裝著及修理方法ノ適否、部品ニ不足ナキヤ、拭淨完全ニシテ污垢、錆鏽ナキヤ、塗料剝離セサルヤ、脂油塗施ノ量適度ナルヤ其ノ他手入及取扱等ノ關點竝加修ノ時期ヲ前知シ之ニ對スル處理ヲ實施シ以テ保存ヲ確實ナラシムルニ在リ

第二十一條 検査ニ際シ機能不良、發錆及破損等ノ箇所ヲ發見セハ其ノ原因ヲ探究シ同一過失ニ陥ラサル如ク豫防スヘシ

第二十二條 革條類ハ柔軟平滑ナルヲ可トス其ノ貯藏間脂油適度ナルモノハ之ヲ指大ノ曲度ニ彎曲スルモ龜裂ヲ生セシテ稍變色スルモ原形ニ復スレハ革色モ故ニ復スルモノトス但シ彎曲ヲ試ムルニ當リテハ簞

輻重車 通則 検査

孔ノ位置ヲ避クヘシ

第二十三條 蟲害ノ有無ヲ検査スルコトハ貯藏品ニ於テ重要ノ事項ニシテ通常春、夏及秋ノ三季ニ細密ニ行フヲ要ス 木部ノ表面ニ木屑散在シ若ハ累積シアルトキハ虫害ニ罹レルニシテ其ノ木屑ノ散在セル部チ更ニ精査スルトキハ虫蝕ニ依ル小圓孔ヲ發見スルヲ得ヘシ

第四節 分解及結合

第二十四條 輜重車ハ通常分解セサルモノトス但シ手入、検査及修理等ノ爲分解ヲ要スルトキハ其ノ制限ヲ嚴守シ且必要ニ應スル部分ノミヲ分解シ他ノ部分ニ及ホスヘカラス

第二十五條 分解及結合困難ナルトキハ強テ之ヲ行フコトナク工長ヲシテ取扱ハシムヘシ

第二十六條 分解及結合ヲ普通分解及普通結合、特別分解及特別結合ニ

分ツ

第二十七條 特別分解ハ兵器委員ノ承認アルニ在ラサレハ行フヘカラス又特別分解及特別結合ハ將校監視ノ下ニ工長及工卒ヲシテ之ヲ行ハシムルヲ可トス

第五節 修理

第二十八條 修理ハ成ルヘク大破損ニ至ラサルニ先チ實施スヘシ又之ニ用ウル材料ハ品質ヲ精選スルヲ要ス

第二十九條 修理ヲ行フニ際シテハ破損ノ箇所ヲ充分精査シ決シテ姑息ノ手段ヲ施スヘカラス又修理完成後ニ於テハ兵器委員之カ検査ヲ行ヒ修理實施ニ遺漏ナキヲ期スヘシ

第三十條 野外ニ於テ使用中破損ヲ生シタルトキハ成ルヘク應急修理ヲ

輜重車 通則 分解及結合 修理

施シテ一時使用ニ支障ナカラシメ且大破ヲ豫防スヘシ但シ本條ノ修理ヲ行ヒシモノハ速ニ前條ニ準シ完全ナル修理ヲ施スヲ要ス

第二章 手入

第一節 常用品ノ手入

第一款 普通手入

第三十一條 輜重車普通手入ハ概左ノ如シ

- 一 車輛木部ヲ拭淨スヘシ又泥土、塵埃ノ附着甚シキトキハ篋、揉藁又ハ麻屑ノ類ヲ以テ之ヲ除去シタル後拭淨スヘシ尙要スレハ之ヲ水洗シ雜巾ヲ以テ水分ヲ拭ヒ去ルヘシ
- 手入ノ爲兩輪ヲ脱シタルトキハ軸臂ヲ地上ニ觸接セサル如ク取扱

ヒ又車臺ヲ障壁等ニ托スルニ當リ其ノ後端ニ在ル荷網掛鉤ヲ損セサルコトニ注意スルヲ要ス

- 二 各部螺桿牝螺、緩解セルモノハ之ヲ緊定シ其ノ落失セルモノハ之ヲ補足シ結合ヲ確實ナラシムヘシ

- 三 軸臂ハ布片若ハ麻屑ノ類ヲ以テ拭淨シタル後、防擦脂ヲ塗施スヘシ但シ舊脂油清潔ナルトキハ之ヲ拭淨スルコトナク防擦脂ヲ補充シ置クヘシ又錆ヲ生シ或ハ附着セル脂油中ニ土砂ヲ混シ之ヲ除去スルコト困難ナルモノハ石油若ハ揮發油ヲ含マシメタル布片ヲ以テ拭除シ更ニ乾布ヲ以テ拭淨シタル後塗脂スヘシ

- 四 圓板ハ之ヲ拭淨シ要スレハ圓板坐革ニ脂油ヲ塗施スヘシ

- 五 轂ハ布片若ハ柔軟ナル麻屑ヲ以テ筒内ヲ拭淨シ轂筒及油溜ニハ防擦脂ヲ、轂筒螺絲部ニハ常用礦油若ハ防擦脂ヲ塗施スヘシ但シ

輜重車 手入 常用品ノ手入

筒内ノ舊脂油清潔ナルトキハ之ヲ拭除スルコトナク防擦脂ヲ補充シ置クヘシ

六 穀帽ノ内部及軸轄ハ拭淨シ、防擦脂ヲ塗施スヘシ

七 油笛ハ之ヲ拭淨シ、脂防罐ニ綠青ノ發生甚シキトキハ石油ヲ含マシメタル布片ヲ以テ拭淨シタル後乾布ニテ拭フヘシ

八 油笛控革、油笛對控革及螺輪縛革ハ複合脂ヲ塗施シタル後布片ヲ以テ拭摩スヘシ

九 自在螺輪ハ塵埃ヲ除去シ、螺絲部ニ常用礦油若ハ防擦脂ヲ塗施スヘシ但シ螺絲部ニ發錆セルトキハ石油ヲ含マシメタル布片ヲ以テ拭淨スヘシ

十 荷綱ニ泥土ノ附著シタルトキハ之ヲ乾カシタル後揉ミ落スヘシ但シ甚シク汚垢、土砂ヲ附著セルトキハ水洗シ之ヲ乾カシタル後

之ヲ揉ミテ其ノ收縮ヲ防キ柔軟ナラシメ置クヘシ

十一 雨覆ハ前號ニ準シ手入スヘシ

十二 三九式輜重車乙ニ在リテハ舟楫ノ塵埃ヲ除去シ履革ニハ脂油ヲ塗施スヘシ

第三十二條 輜重車使用後前條ノ手入ヲ行フニ要スル時間ナキトキニ在

リテモ穀筒及軸臂ハ前條第三號乃至第六號ニ準シ手入ヲ行フヘシ

第三十三條 輜重車附屬器具、携帶燈、輜重携行器具、携行輜重車工具及輜重繫馬具ノ手入ハ概左ノ如シ

一 輜重車附屬器具ハ第三十一條第一號ニ準シ行フヘシ

二 携帶燈ヲ使用シタルトキハ熔蠟及煤煙ヲ除去シ軟布ヲ以テ反射鏡及玻璃板ヲ拭淨シ蛇線發條ニ塗油スヘシ

三 輜重携行器具ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

輜重車 手入 常用品ノ手入

- イ 車臺撐材ハ泥土、塵埃ヲ除去シ要スレハ水洗シ雜巾ヲ以テ水分ヲ拭ヒ置クヘシ
- ロ 脂油箱、脂肪罐及油罐ハ乾布ヲ以テ拭淨スヘシ
- ハ 圓匙及十字鍬ハ第五類第三編圓匙及十字鍬常用品ノ手入ニ準シ行フヘシ
- ニ 小斧小山鋸ハ乾燥セル布片ヲ以テ之ヲ拭淨スヘシ但シ使用後泥土、塵埃等ノ附著シタルモノハ要スレハ之ヲ洗滌シ乾布ヲ以テ水分ヲ拭除シ塗料ヲ施シアラサル鋼製部ニ塗油スヘシ
- 四 携行輜重車工具ハ第五類第一編職工具常用品ノ手入ニ準シ行フヘシ
- 五 輜重繫馬具ハ左ノ各號ニ依ルヘシ
 - イ 繫馬杭及兩頭鏈ハ布片ヲ以テ拭淨スヘシ但シ使用後泥土、

塵埃等附著シタルモノハ要スレハ之ヲ洗滌シ乾布ヲ以テ水分ヲ拭除スヘシ

ロ 繫馬索ハ第三十一條第十號ニ準シ行フヘシ

第二款 精密手入

第三十四條 精密手入ハ通常毎年少クモ一回之ヲ行フノ外、行軍、演習等ニ於テ長時間普通手入ヲ完全ニ實施スル能ハサリシトキ、若ハ一時格納セントスルトキ及貯藏品ヲ使用セントスルトキ之ヲ行フモノトス

第三十五條 精密手入ハ普通手入ニ準スルノ外概左ノ各號ニ依ルヘシ

- 一 毎年一回行フ精密手入ニ於テハ塗料ノ補修ヲ行ヒ要スレハ車輛各部ノ塗換ヲ實施スヘシ

輜重車 手入 常用品ノ手入

二 鐵部ノ塗料剝脫セルモノハ下塗塗料ヲ施シ茶褐色塗料ヲ施スヘシ

三 螺桿ヲ脱スルコトナク離脱シ得ル部分ハ之ヲ分解シテ手入スヘシ又污垢膠著又ハ發錆セルモノニシテ容易ニ之ヲ拭淨シ得サルトキハ石油又ハ揮發油ヲ含マシメタル布片ヲ以テ之ヲ除去シ脂油ヲ塗施スヘシ

四 雨覆及荷綱等ノ麻製品ハ塵埃ヲ除去シ其ノ濕氣ヲ含メルモノハ之ヲ乾燥スヘシ

五 軸臂ニ白色「ペンキ」ヲ塗施セルモノヲ使用セントスルトキハ苛性曹達ヲ以テ之ヲ洗滌シタル後充分拭淨スヘシ
白色「ペンキ」ヲ洗滌スルコトナク使用スルトキハ軸臂及殼筒内部ヲ磨滅セシムルニ至ル

六 一時格納シ置クモノニ在リテハ格納用礦油、防錆脂及白色「ペンキ」ニ代ユルニ「ワセリン」若ハ「バラワセリン」ヲ使用スルヲ得

第二節 貯藏品ノ手入

第三十六條 貯藏品ノ手入ハ常用品精密手入ニ準スルノ外左ノ各號ニ依ルヘシ

一 軸臂、殼油溜、殼筒螺絲部、殼帽内面及軸轄青銅製品ヲ除ク等ノ鐵部ニハ格納用礦油ヲ塗施スヘシ但シ軸臂ニハ防錆脂若ハ白色「ペンキ」ヲ輪帶ニハ「コールタール」ヲ塗施スルコトヲ得

二 木部ニ害虫ノ發生スルヲ豫防スル爲塗料ノ剝脫セル箇所ハ之ヲ補修シ要スレハ塗換ヲ行フヘシ

三 革部ハ毎年一、二回適當ナル時期ニ於テ複合脂ヲ塗施シ之ヲ吸
鞆重車 手入 貯藏品ノ手入

三 收セシメタル後拭摩スヘシ

四 輜重携行器具中圓匙及十字鍬ハ第五類第三編圓匙及十字鍬貯藏品手入ニ準シ行フヘシ

五 携行輜重車工具ハ第五類第一編職工具貯藏品手入ニ準シ行フヘシ

第三章 格納

第三十七條 輜重車格納ノ方法概左ノ如シ

- 一 車臺ハ轅木、支桿及車軸ヲ裝著シ格納臺上ニ縦木ノ端末帶環ヲ裝スル部ヲ下ニシ荷綱掛鉤ヲ毀損セシメサル如ク格納スヘシ但シ車臺ノ傾斜ヲ甚シク大ナラシメサルコトニ注意スルヲ要ス
- 二 遊動棍ハ車臺附近ノ枕材上ニ積ミ重ネ格納スヘシ

三 車輪ハ轂帽ヲ裝著シタル儘格納臺上ニ托スヘシ但シ轂ヲ以テ他ノ轂ヲ壓シ或ハ相互接觸シテ毀損ヲ生セシメ若ハ多數重疊シテ變歪ヲ來タスカ如キコトナキヲ要ス

四 轂帽縛革及圓鋏坐革ハ結束シテ懸吊シ若ハ箱内ニ格納スヘシ

五 軸轄及自在螺鑰ハ棚上ニ置キ又ハ箱内ニ收容スヘシ

六 油筒ハ脂肪罐ト分離スルコトナク棚上ニ置クヘシ

七 荷綱ハ適宜ノ長サニ緩縛シテ懸吊スヘシ但シ通風良キ位置ヲ選ムヲ可トス

八 雨覆ハ之ヲ疊ミ棚上若ハ箱内ニ整置スヘシ

第三十八條 輜重車附屬器具、携帶燈、輜重携行器具、携行輜重車工具及輜重繫馬具ノ格納方法概左ノ如シ

- 一 輜重車附屬器具ハ車臺ニ裝著シタル儘格納スルヲ通常トス但シ

輜重車 格納

離脱シアルモノハ前條第二號ニ準シ格納スヘシ

二 携帶燈ハ之ヲ携帶燈箱ニ收容シ整置スヘシ但シ各箱外面ノ塗料ハ他ノ箱ノ塗料ト相互ニ膠著スルコトナカラシムルノ注意ヲ要ス

三 輻重携行器具ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

イ 車臺撐材ハ前條第二號ニ準シ行フヘシ

ロ 脂肪罐及油罐ハ之ヲ脂油箱内ニ收容シ整置スヘシ

ハ 圓匙及十字鋏ハ第五類第三編圓匙及十字鋏ノ格納ニ準シ行フヘシ

ニ 小斧及小山鋸ハ前號ニ準シ行フヘシ

四 携行輻重車工具ハ第五類第一編職工具ノ格納ニ準シ行フヘシ

五 輻重繫馬具中、繫馬杭及兩頭鏈ハ第三號ハ號ニ準シ、繫馬索ハ前條第七號ニ準シ行フヘシ

第四章 検査

第一節 常用品ノ検査

第三十九條 常用品ノ検査ハ使用前後、使用中並日常ノ手入ニ於テ使用者之ヲ行フノ外、毎月少クモ一回之ヲ精密ニ施行スヘシ

第四十條 輻重車ニ就キ主トシテ検査スヘキ事項左ノ如シ

一 軸臂ハ屈撓若ハ著シク磨滅セルモノナキヤ發錆、打痕ナキヤ又車軸ノ結合正シキヤ三六式輻重車ノ軸臂ハ之レヲ結合セルトキ下方ニ傾斜セルヲ正規トス 鍍銀螺桿牝螺ノ緩解シテ車軸ノ動搖スルコトナキヤ

二 穀筒内ニハ脂油闕乏シ非サルヤ又脂油ノ變廢若ハ土砂ヲ混入セルモノナキヤ、穀筒ニ打痕ヲ生セルモノナキヤ

三 車輪ニ著シキ反斜ヲ生セサルヤ、三六式輻重車ニ在リテハ車輪輻重車 検査 常用品ノ検査

- 三ノ反斜ニ著シキ變差ナキヤ、輻及輞ニ變歪若ハ割裂、折損セルモノナキヤ又其ノ接際部ニ罅隙ヲ生セルモノナキヤ
- 四 穀飯螺桿牝螺ノ緊定充分ナリヤ
- 五 駐螺ノ緩ミタル爲メ穀筒ノ動搖スルモノナキヤ
- 六 軸轄ハ破損シ非サルヤ 三六式輻重車ノモノニ在リテハ特ニ駐栓ノ破損シアラサルヤ
- 七 輪帶用螺桿ノ緊定不充分ナルモノナキヤ
- 八 轆木動搖スルモノナキヤ 動搖スルモノアルトキハ其ノ原因ハ轆接鐵用螺桿若ハ轆接鐵ノ變歪ニ基因スルニ在ラサルヤ又ハ螺桿孔ノ開大ルニ在ラサルヤヲ檢スヘシ
- 九 轆木扶飯及袴革留金ノ毀損セルモノナキヤ
- 十 荷綱掛鈎ハ屈曲毀損セルモノナキヤ又動搖スルモノナキヤ
- 十一 支桿、支桿桿頭、鑄、吊鏈及遊動棍連綴鈎駐環ノ變歪、毀損セルモノナキヤ、支柱木聯接部ノ破損セルモノナキヤ

- 十二 三九式輻重車乙ニ在リテハ舟褥壓革ノ木螺子脱落セルモノナキヤ又壓革ノ給油適當ナリヤ
- 十三 油筒及自在螺鑰ノ裝著確實ナルヤ自在螺鑰ノ機能良好ナリヤ
- 十四 油筒控革、油筒對控革、螺鑰縛革及舟褥壓革ノ破損又ハ硬化セルモノナキヤ又給油適當ナリヤ
- 十五 荷綱、雨覆ノ汚損セルモノナキヤ
- 十六 前各號ノ外各部ノ結合堅固ナリヤ又各部螺桿牝螺及附屬品ノ不足セルモノナキヤ其ノ他鐵部ニ發錆ナキヤ、塗料ノ剝脱セルモノナキヤ又木部ニ蟲害ヲ蒙レルモノナキヤ、蟲害豫防ノ方法適當ナリヤ、罅裂ヲ生シ若ハ塗料ノ剝脱セルモノナキヤ
- 十七 修理ノ方法適當ナリヤ

第四十一條 輻重車使用後前條ノ檢査ヲ行フニ要スル時間ヲ有セサル場

備重車 檢査 常用品ノ檢査

合ニ於テモ車軸及轂筒ハ前條第一號及第二號ニ準シ検査ヲ行フヘシ

第四十二條 輜重車附屬器具、携帶燈、輜重携行器具、携行輜重車工具及輜重繫馬具ノ検査ハ左ノ如シ

- 一 輜重車附屬器具ノ裝著確實ニシテ正シキヤ
- 二 携帶燈ハ玻璃板、反射鏡及蠟燭筒ノ拭淨良好ナルヤ、蠟燭筒發條ノ機能良好ナルヤ又發錆セルモノノキヤ
- 三 輜重携行器具ハ左ノ各號ニ依ルヘシ
 - イ 車臺撐材ニ毀損ナキヤ、蟲害ヲ蒙レルモノナキヤ又塗料剝脫セルモノナキヤ
 - ロ 脂油箱ハ連綴革、駐革及坐革ノ手入適當ナリヤ又硬化セルモノナキヤ脂肪罐及油罐ノ拭淨良好ナリヤ又發錆セルモノナキヤ

ハ 圓匙及十字鍬ハ第五類第三編圓匙及十字鍬ノ検査ヲ準用スヘシ

ニ 小斧ハ刃部ニ毀損ナキヤ頭部ニ打痕發錆ナキヤ又塗料ノ剝脫セルモノナキヤ柄ハ完全ニシテ確實ニ裝著サレアリヤ

ホ 小山鋸ノ鐵部ハ變歪又ハ發錆シアラサルヤ特ニ齒部ハ闕損、磨滅シアラサルヤ、柄ハ割裂シアラサルヤ又裝著確實ナリヤ

四 携行輜重車工具ハ第五類第一編職工具ノ検査ニ準シ行フヘシ

五 輜重繫馬具中繫馬杭及兩頭鉤ハ第三號、ハ號ニ、繫馬索ハ第四十條第十五號ニ準シ行フヘシ

第二節 貯藏品ノ検査

第四十三條 貯藏品ハ毎年少クモ二回検査ヲ行フヘシ特ニ多數ノ兵器ヲ

輜重車 検査 貯藏品ノ検査

貯藏スル倉庫ニ在リテハ格納前各品ニ就キ精密ニ検査ヲ行ヒ貯藏後ニ於テハ通常抽出検査ニ依ルモノトス

第四十四條 貯藏品ノ検査ハ常用品検査ニ準スルノ外特ニ左ノ各號ニ注意スヘシ

- 一 防錆用脂油効力ノ有無及塗料塗施ノ状態
- 二 格納方法ノ良否
- 三 軸臂、軸轄、穀油溜及穀筒内面ニ發錆ノ徴ナキヤ
- 四 木部ニ收縮及罅裂ヲ生シタルモノ或ハ反張、乾裂、腐朽及蟲蝕ノ徴候ナキヤ
- 五 各部塗料並防錆用脂油ノ剝脫セル箇所ナキヤ又變歪及毀損ヲ生シタルモノナキヤ

第四十五條 貯藏品ノ蟲害検査ニ關スル注意事項左ノ如シ

- 一 輻重車木部ニ蝕材蟲ト稱スル甲蟲ノ幼蟲發生セルコトナキヤ
甲蟲ノ體軀ハ細長ニシテ長サ一分七、八厘其ノ色赭褐色ニシテ眼黒ク、觸鬚ハ末端太ク、前胸部ハ殆ント方形、其ノ前縁ハ幅廣ク、翅稍長クシテ前胸部ニ三倍ス、脚ハ淡赭褐色ヲ呈シ通常野外ノ樹木ニ寄生スルコトナク貯藏木材内部ニ寄生ス
- 二 害蟲ノ卵子ハ塗料ノ剝脫部若ハ塗料ヲ施ササル木部ニ産ミアラサルヤ
害蟲ハ概五、六月ノ候ニ産卵シ孵化シタル幼蟲ハ木材内ニ縱横ニ孔ヲ穿テ、木材ノ表面ニ小圓孔ヲ開キテ之ヨリ木屑ヲ排出シ、該小孔ヨリ空氣ヲ呼吸シテ生活ス
- 三 木部ニ濕氣ヲ含メル部分ナキヤ
伐採時機適當ナラサル爲濕氣ヲ含ムニ依リ害蟲ヲ寄生セシムルニ至ルコト多シ
 木材ノ乾燥不充ナルカ庫内ノ換氣不充分ナル爲濕氣ヲ含有シタル場合若ハ木材

第五章 分解及結合

第一節 普通分解及普通結合

第四十六條 普通分解トハ手入ノ際車輪、遊動棍、穀帽、軸轄及穀帽縛革ヲ離脱スルヲ謂フ

輻重車 分解及結合 普通分解及普通結合

第四十七條 車輪ヲ離脱スルニハ車臺ノ一側ヲ扛起シ車臺撐材ヲ以テ之ヲ支ヘ轂帽ヲ離脱シ軸轄ヲ開キ之ヲ行フヘシ

第二節 特別分解及特別結合

第四十八條 特別分解トハ第四十九條及第五十條ニ掲クル部品ノ全部又ハ其ノ一部ヲ離脱スルヲ謂フ

第四十九條 軍隊工場ニ於テ修理ヲ行フ爲第四十六條ニ掲クル部品ノ外左ノ各部ヲ分解スルコトヲ得

- 一 三九式輻重車ニ在リテハ轆木、支桿、鍍鋅、車軸、前後橫木、中央橫木、副木、床板、舟架、舟褥、轆接鐵、托鐵、托鐵托飯、鐵飯、鉤及螺桿等

二 三八式二輪輻重車及三六式二輪輻重車ニ在リテ轆木、支柱木、

鍍鋅、車軸、轆接木、橫木大及小、鐵飯、底飯、脚鐵、轆接鐵、鉤、螺桿及坐飯等

第五十條 検査ノ爲要スレハ第四十六條ニ掲クル部品ノ外鍍鋅、車軸及轆木ヲ離脱スルコトヲ得

第五十一條

特別分解及特別結合ヲ行フ場合ニ於テ注意スヘキ事項左ノ如シ

- 一 轆木及車軸ハ之ヲ分解シタルトキ他ノ車輛ノモノト混淆セサルコトニ注意スヘシ又屢、離脱スルトキハ緊著ヲ闕クニ至ルヲ以テ之ヲ避クヘシ

二 鍍鋅ヲ離脱シタルトキハ上下鍍鋅、螺桿及牝螺ハ一組毎ニ之ヲ纏メ他ノモノト之ヲ混淆セシメサルコトニ注意スヘシ

三 轆木ヲ離脱シタルトキハ轆接鐵用螺桿ヲ假ニ轆接鐵ニ嵌メ其ノ牝螺ヲ螺著シ置キ轆木ニ所要ノ記號ヲ附シ混淆ヲ避クヘシ

輻重車 分解及結合 普通分解及普通結合

四 二箇以上ノ螺桿ヲ以テ螺著セル部分ヲ分解及結合スルニハ交互ニ各牝螺ヲ旋回スヘシ又各種螺桿ヲ脱シタルトキハ各相當螺桿及牝螺ヲ混淆セサルコトニ注意スヘシ

第六章 取扱上ノ注意

第五十二條 車軸ノ鍍銀嵌裝部ハ防錆ノ爲光明丹ヲ塗布シアルヲ以テ之ヲ拭淨スルトキハ塗料ヲ剝脱シ且螺桿ノ緊定確實ヲ闕クニ至ルノ害アルヲ以テ成ルヘク分解ヲ行ハサルヲ可トス

第五十三條 車輛各部螺桿ハ成ルヘク之ヲ分解セサルヲ可トス特ニ牝螺緊定部ノ外面ニハ塗料ヲ施シアルヲ以テ分解及結合ヲ行ヒタル後其ノ儘放置シ塗料ヲ施ササルトキハ牝螺緩解ノ起因トナルモノトス其ノ他各種牝螺ハ屢々分解ヲ行フトキハ螺絲部ヲ磨滅スルニ至ルヲ以テ緩解

セル牝螺ハ之ヲ緊定スルニ止ムルヲ可トス

第五十四條 車輛ノ運動間ニ於テハ各部ノ牝螺緩解若ハ脱落シ易キヲ以テ其ノ緩解ヲ發見スレハ速ニ緊定スルヲ要ス其ノ主トシテ注意スヘキ部位ヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一 穀用螺桿
- 二 輪帶用螺桿
- 三 轆接鐵用螺桿
- 四 鍍銀用螺桿

第五十五條 木部及鐵部ノ塗料ハ車輛保存上肝要ナルモノナルヲ以テ取扱ニ當リ之ヲ剝離セサルコトニ注意スヘシ

第七章 修理方法ノ概要

第五十六條 軍隊工場ニ於ケル修理方法左ノ如シ

一 横木及床板ノ破損シテ使用ニ堪エサルモノハ半成品ヲ用キテ修理スヘシ

二 荷綱掛鈎ノ變歪シタルモノハ之ヲ車臺ヨリ離脱シ適度ニ熱ヲ與ヘ鏈ヲ以テ輕打シ矯正シタル後取附ヲ爲スヘシ但シ屢々修理ヲ行ヒタル爲緊定不確實トナリタルモノハ荷綱掛鈎ヲ製造シテ交換スヘシ

三 螺輪受金ノ屈曲シタルモノハ縦木ニ擴大セル孔ヲ存セシメサル爲メ成ルヘク之ヲ取外シテ矯正スヘシ但シ孔ノ擴大シタル場合ニハ之ニ相當スル脚ヲ有スル受金ヲ用ウヘシ

四 油筒受金控革、油筒對控革及坐革等ノ木螺子ノ機能不良ナルトキハ木螺子ヲ交換シ若ハ縦木ニ填木ヲナスヘシ

五 支桿鈎鏈鈎三八式及三六式輜重車ニ在リテハ支柱木駐鈎ノ屈曲シタルモノハ之ヲ車臺ヨリ取外シテ適度ニ熱シ鏈鈎ヲ以テ輕打シ屈曲ヲ矯正シ之ヲ取附クヘシ

六 轆接木ト縦木ノ間ニ間隙ヲ生シタルモノハ螺桿ヲ緊定スヘシ又此ノ間隙ヨリ雨水ノ浸入シ轆接木ノ内側及横木ノ柄等腐朽シテ使用ニ堪エサルニ至ルトキハ轆接木及横木ノ交換ヲ爲スヘシ

七 支桿三八式及三六式輜重車ニ在リテハ支柱木ノ折損シタルトキハ半成品ト交換シ其ノ桿頭三八式及三六式輜重車ニ在リテハ聯接鐵ノ屈曲シタルモノハ之ヲ車臺ヨリ取り外シ適度ニ熱シ鏈鈎ヲ以テ輕打シ矯正シ之ヲ取附クヘシ

八 轆木ノ動搖スルモノアルトキハ轆接鐵ノ變歪ニ依ルヤ又ハ木部ノ收縮ニ依ルヤニ從ヒ轆接鐵ヲ矯正シ又ハ轆木ヲ交換スヘシ

九 袴革留金ノ屈曲甚シキモノハ之ヲ除去シ新製品ヲ取附クヘシ
十 軸轄ノ破損セルモノハ成品ト交換スヘシ

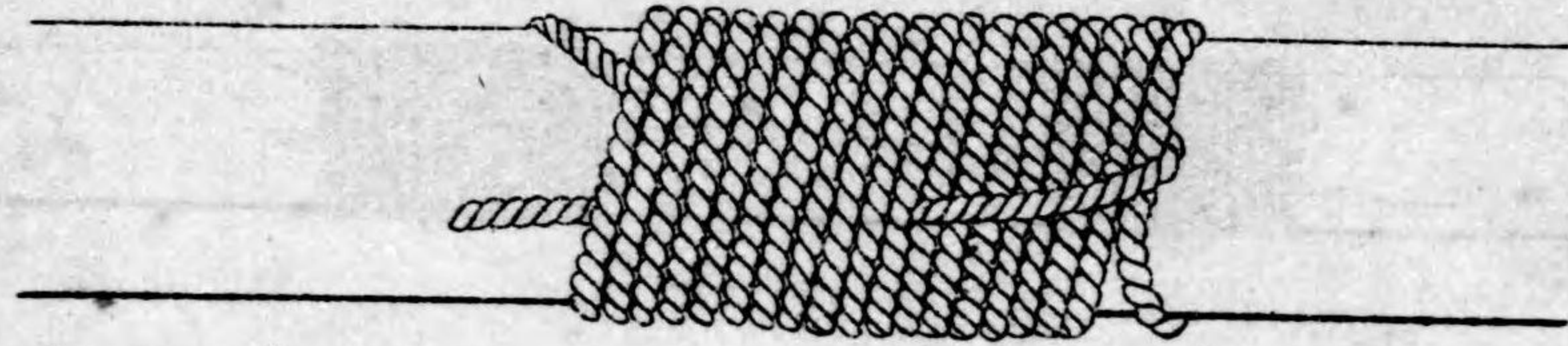
第五十八條 野外ニ於テ車輛ニ破損ヲ生シタルトキハ其ノ部分ニ應急修理ヲ施スヲ要ス其ノ方法概左ノ如シ

- 一 縦木龜裂ヲ生シタル場合ハ其ノ部分ノ前後ヨリ麻繩、銅線又ハ鐵線ヲ用キ堅固ニ纏結シテ緊著スヘシ附圖第一圖
- 二 轅木折損シ其ノ部分長クシテ之ヲ接合シ得ヘキトキハ二箇所又ハ三箇所ヲ麻繩或ハ鐵線ヲ以テ纏結スヘシ附圖第二圖
- 三 前號ニ依リ確實ニ接合シ得サルトキハ轅木ノ上下側ニ副木ヲ當テ要スレハ其ノ上ニ麻繩或ハ鐵線ヲ纏結シ又ハ細長ナル木片或ハ竹ノ類ヲ轅木ノ周圍ニ繞回セシメ其ノ上ニ鐵線若ハ麻繩類ヲ纏結スヘシ附圖第三圖
- 四 輻ノ折損シタルトキハ木片ヲ副接シ麻繩或ハ鐵線ヲ纏結スヘシ又僅ニ裂損ヲ生シタルトキハ麻繩又ハ鐵線ヲ用キ纏繞スヘシ但シ

- 纏結ハ輻及輻ニ接シテ之ヲ始メ龜裂ノ端末ニ至リテ止ムヘシ附圖第四圖
- 五 輻ニ僅ニ裂損ヲ生シ又ハ緩ミタルモノハ鐵線ヲ卷キ又ハ副木ヲ其ノ部ニ當テ鐵線ヲ以テ輻及輪帶ニ纏結スヘシ附圖第五圖

第一圖
縦木ノ應急修理

(イ) 麻繩ヲ用キタル場合



(ロ) 銅線又ハ鐵線ヲ用キタル場合

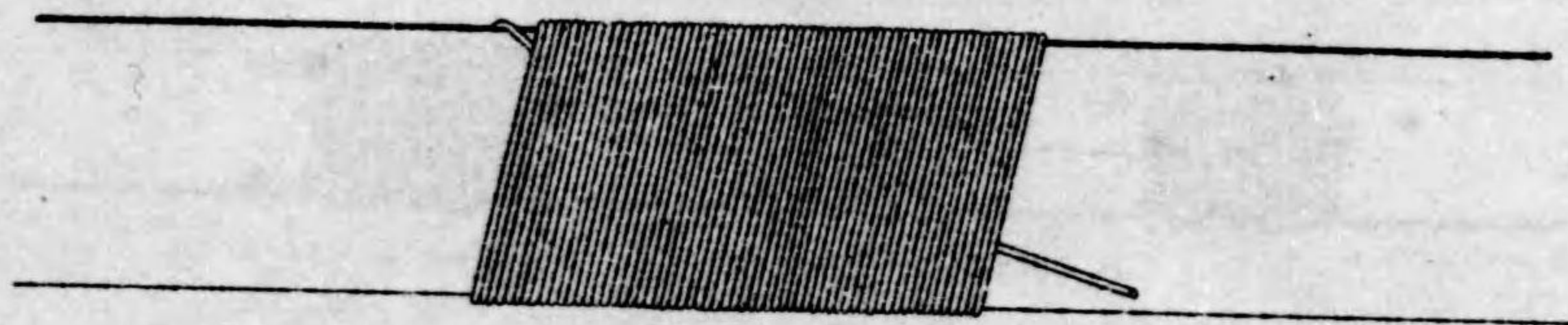
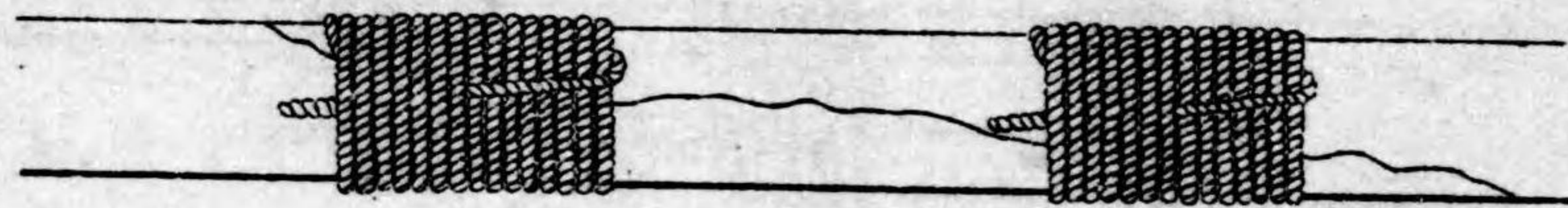


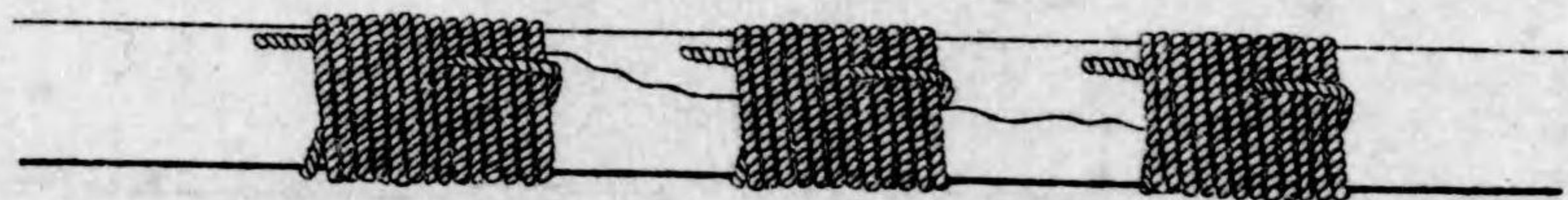
圖 二 第

理修急應ノ木轆

合場ルタシ結繩ヲ所箇二 (イ)



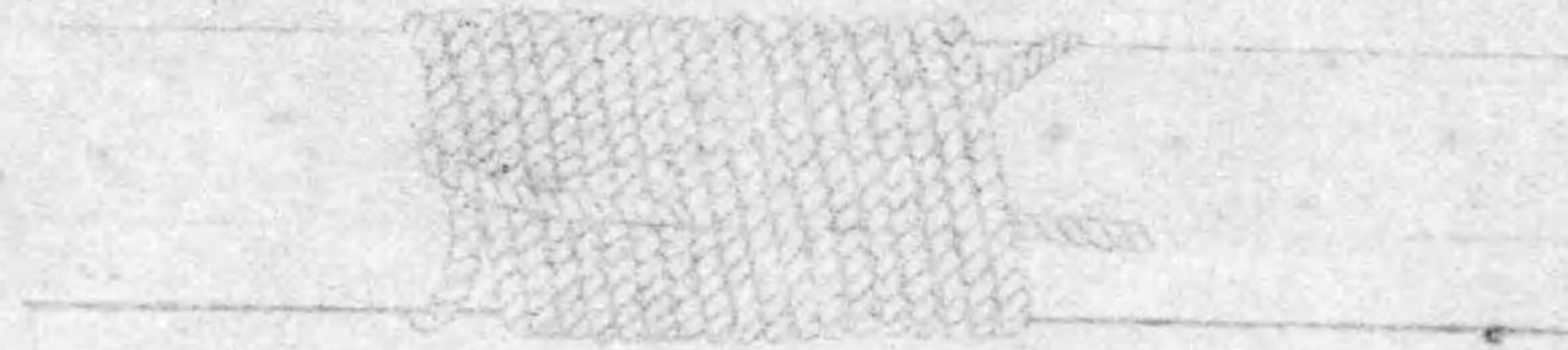
合場ルタシ結繩ヲ所箇三 (ロ)



第一圖

源木ノ敷合

(1) 和繩ノ出サマニ敷合

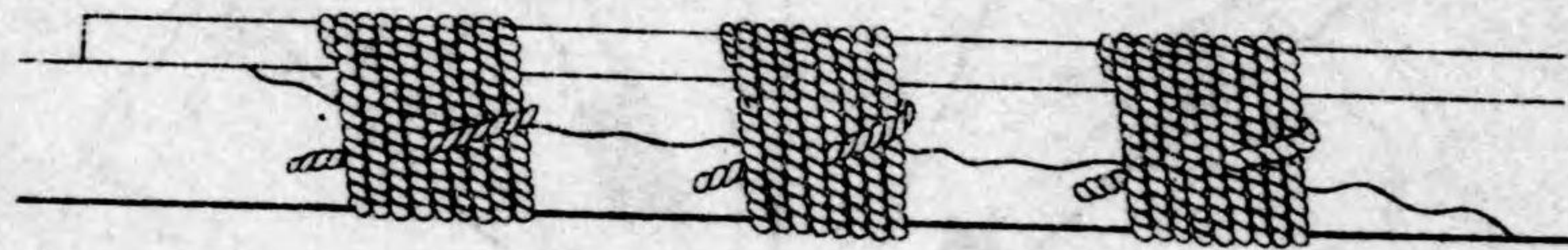


(2) 和繩ノ出サマニ敷合



圖 三 第
理修急應ノ木轆

合場ルタテ當ヲ木副 (イ)



合場ルタキ用ヲ片竹ハ又片木ルナ長細 (ロ)

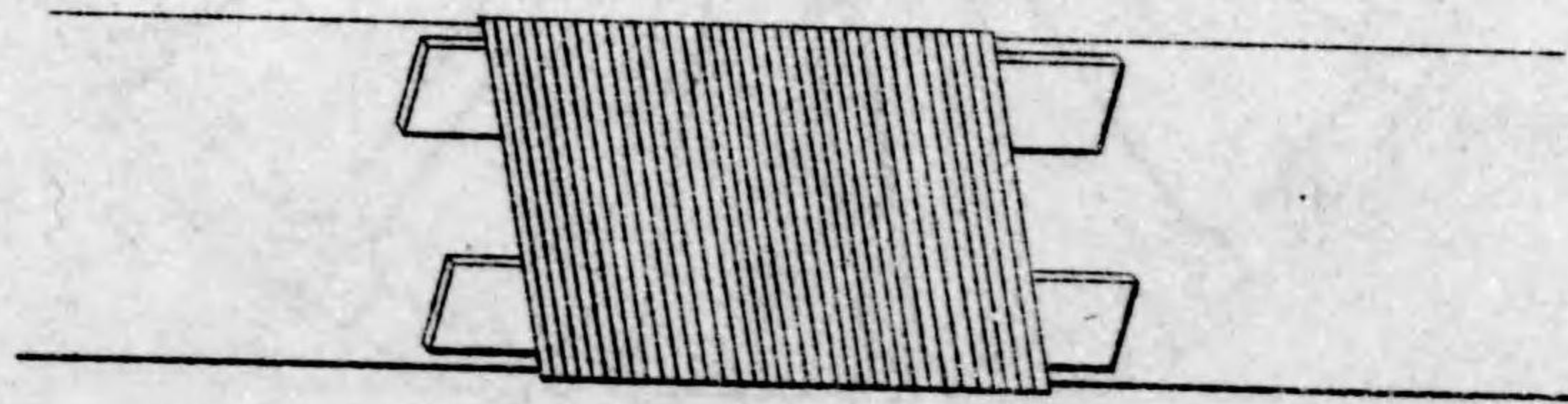


圖 二 第
理修急應ノ木轆

(イ) 二箇木ノ繋ぎノ木轆合



(ロ) 三箇木ノ繋ぎノ木轆合



圖 四 第
理 修 急 應 / 輻

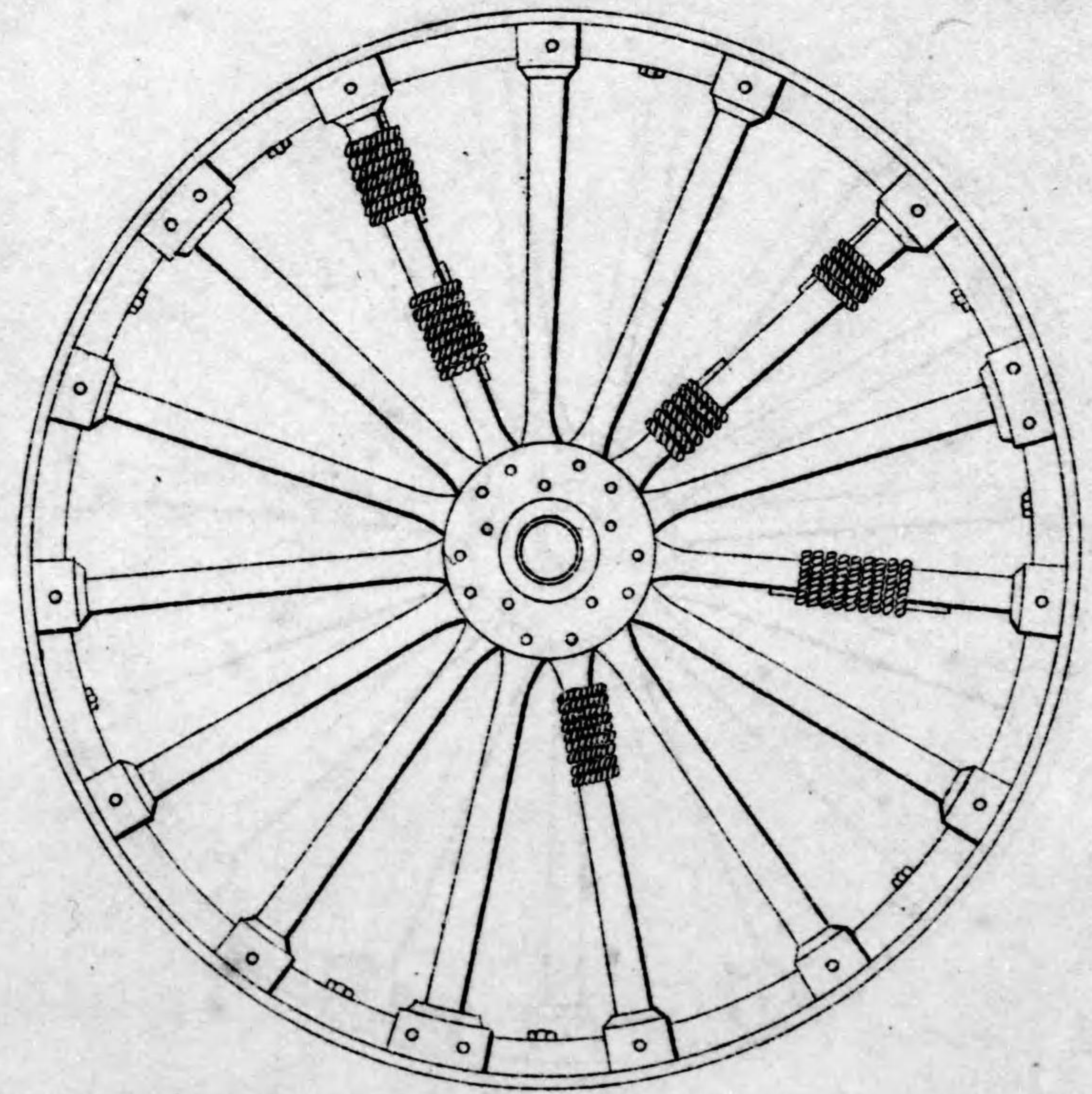


圖 三 第
理 水 / 應 急 修 理

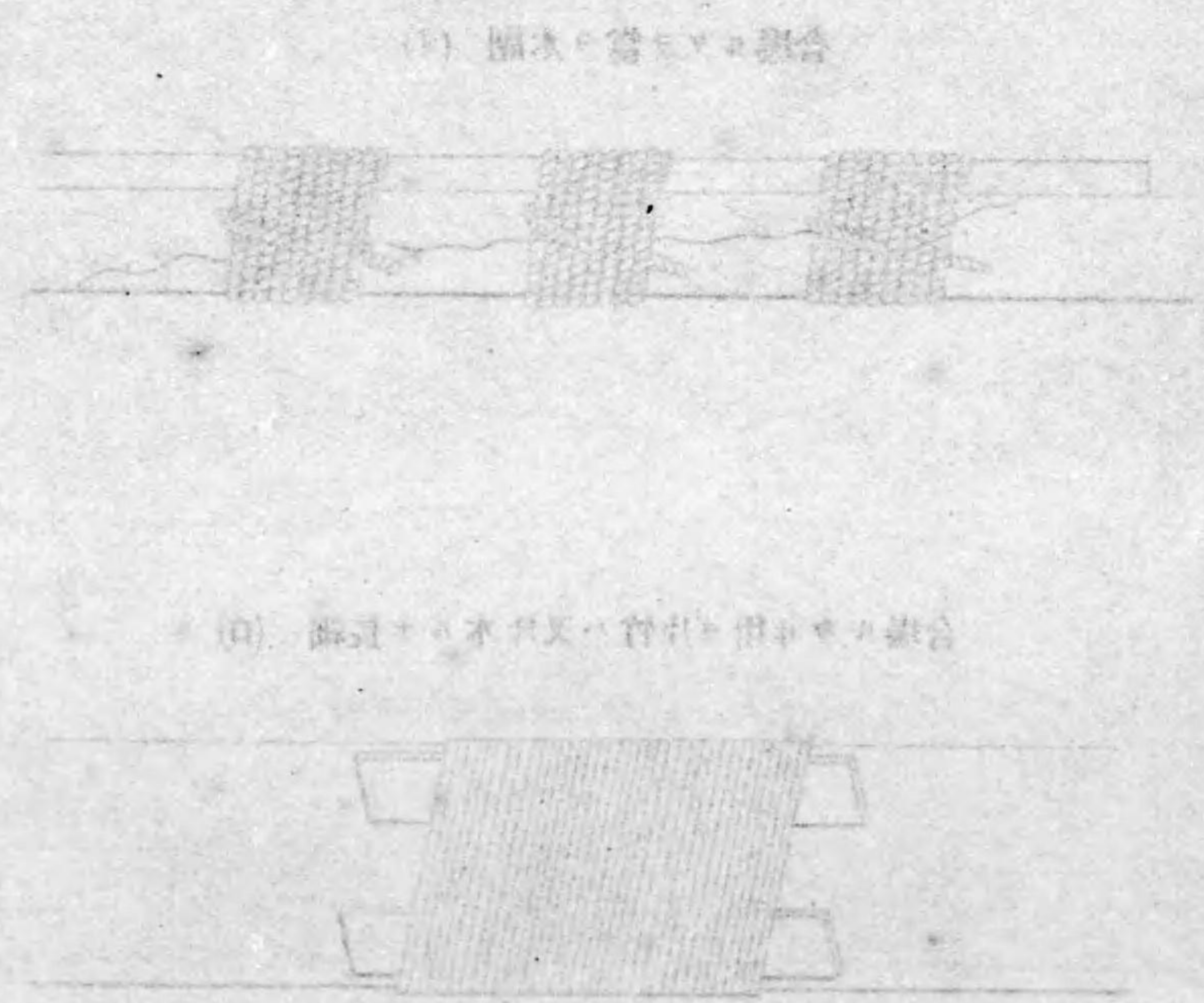


圖 五 第

理修急應 / 朝

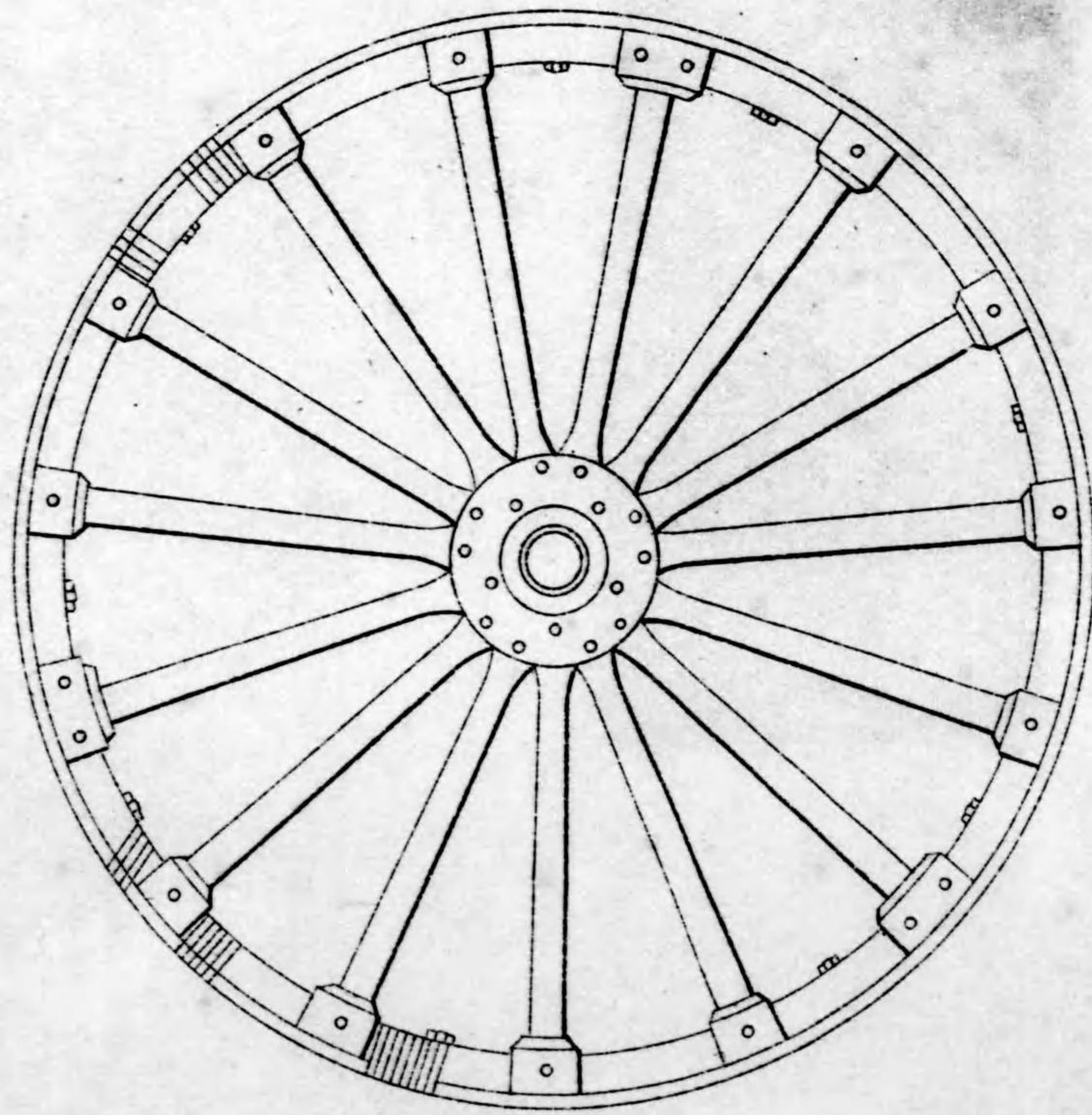
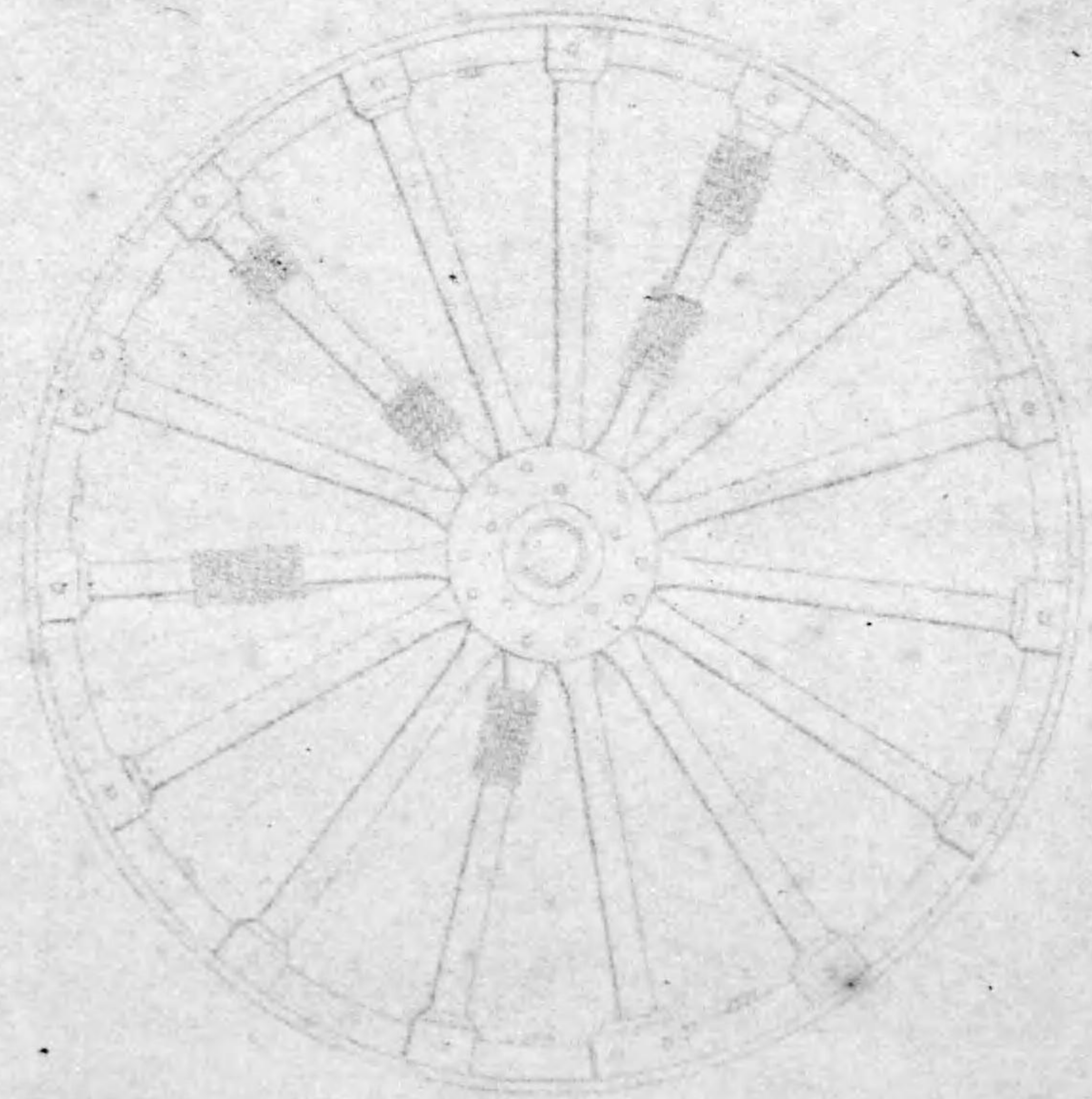
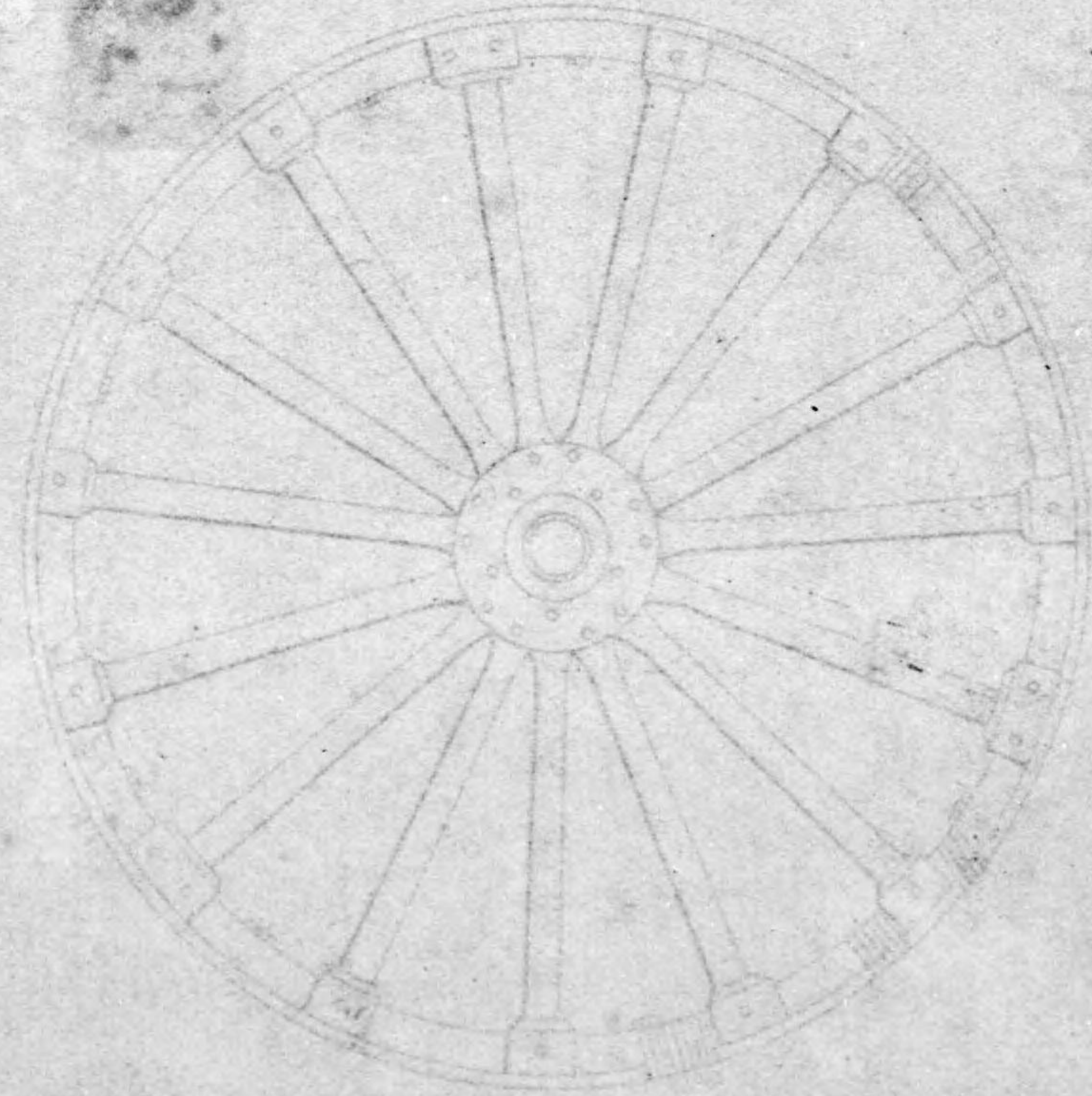


圖 四 第

理修急應 / 朝



兵器保存要領第四類與附
附圖



大正三年七月二十九日印刷
大正三年八月一日發行

(兵器保存要領第四類與附)
定價金拾五錢



翻刻
發行者

兵用圖書株式會社

代表者 小林 又七

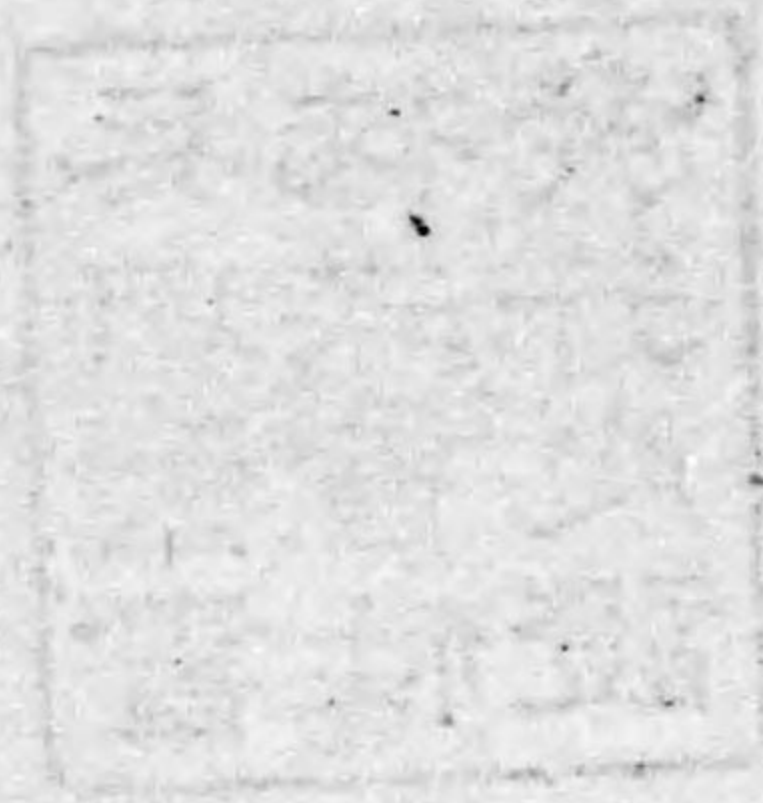
印刷者 高井 福太郎

發行所

東京市麴町區平河町一丁目二番地
兵用圖書株式會社

電話特番町三七七四番
振替東京一八〇八八番

279
940



東京市

東京市立圖書館

東京市立圖書館

東京市立圖書館

東京市立圖書館

東京市立圖書館

大正三年

終

